

注目の
私立中高
一貫校

2022年

この 学校のここが スゴイ!

プレジデントファミリー特別企画
プレジデントムック
「中学受験大百科」特別付録

プレジデント
Family





はまるな、 粹に

モーリー流
自分を信じて生きる術

国際ジャーナリスト、ミュージシャンほか、
マルチな分野で活躍する、
モーリー・ロバートソンさん。

アメリカと日本、
双方の教育を受けて育った少年期は、
カルチャーショックと受難の連続。

そこから東京大学とハーバード大学に
合格するまでには、どんな経験があったのか。
興味津々！

小中高時代の話をモーリーさんに伺いました。

少年時代に体験した 日米の教育ギャップ

「僕がアメリカと日本を歩き来しながら育った1970年代は、日米の文化ギャップは、今とは比較にならないほど大きかったですね。特に学校教育の違いはすごくて、山あり谷ありの子供時代でした」

アメリカ人の父(医師)と日本人の母(ジャーナリスト)の長男としてニューヨークで生まれたモーリー・ロバートソンさんは、5歳のとき、父の仕事の関係で来日。広島市のアメリカンスクールに入学した。居心地の良いアットホームな学校だったが、周囲の日本の生活からは隔絶された環境。「大好きになったドリフターズのギャグや日本のアニメの話もできないし、ここには日本語はカタコトのまま」との危機感から、小5で公立小学校に転校することを自らの意思で決めた。

「そこから冒険の始まりでした。当時はアメリカ

好きになろう

追ええ!

Morley Robertson

モーリー・ロバートソン さん

カンスクールからの転校生なんて、ペリー来航くらいの特事ですから、〃ガイジンが来た〃と、学校はそれほど大騒ぎ。黒船じゃなく、貧弱な手こぎボートでやって来た、ひとりぼっちのペリーだったんですね」

同級生からの偏見やいじめ、難しい漢字。さまざまな障壁が立ちはだかったが、なかでも最大の壁が日本の管理教育だったと、モーリーさんは振り返る。

「授業前の〃起立、礼!〃とか、朝礼で一糸乱れず並ぶとか、僕には従う根拠が感じられない習慣なので、すごく適当にやっていたら先生からいらまれて。一学期の通信簿に『協調性がない』『注意散漫』といったネガティブな評価を付けられちゃった。このときは、母が学校に向向いて、〃文化の違いです〃と言ってくれました。

いろいろあったけれど、転校は自分から言い出したことなので、子供なりに闘いつつ文化の違いを乗り越えていきました。転校から半年ほど経ったころかな、仲良くなった同級生から推薦されて、生徒会長に立候補。『スポーツが盛んな学校にします』と公約を掲げて当選しちゃった。そのころには、日本人はちゃんとしているから僕もそうしよう、という意識が芽生えていて、みんなが脱ぎ散

らかした下駄箱をひそかに整えたりしていましたね、生徒会長として(笑)」

米国式と日本式の勉強法 二刀流を大いに生かす

周りはすでに中学受験の準備をしている子が多く、モーリーさんも塾通いをして、広島市内の中高一貫進学校へ。そこは、昭和の時代にありがちなスパルタ教育で知られるバンカラ男子校だった。勉強も部活もすべて根性論。授業のスタイルはいわゆる詰め込み教育で、予習・復習に明け暮れ、テストでいい点数を取るために、主要教科ごとに短冊式の単語帳や、暗記カードをせっせと作る毎日でした」

日本の教育にすっかり染まった中2の途中で、父の仕事の都合で今度はアメリカに戻ることに。転校先では、逆カルチャーショックとも言うべき困難が待ち受けていた。

「日本の学校は、どの教科でも基本的に答えが一つの問いしかやらない。日本では、テストで要領よく正解を書くために、丸暗記の勉強ばかりやっていたんだけど、アメリカの学校では、ディスカッションでできる能力や、正解のない問いに対して、

自分が考えた意見を言葉や文章にできる能力が重視されるんです。

社会科の授業では、特にその力が問われます。たとえば、『貧富の差が大きい世の中で、社会保障制度はどうあるべきか』というトピックで議論するとします。討論に慣れていない僕が、『〇〇くんの意見と同じです』なんて言っても許してもらえない。一生懸命考えて、『成功してお金持ちになった人が、貧しい人を助けてあげたらいいと思います』とか発言しても、『でもこの世の中はそうならないじゃないか。なぜだと思っ?』などと、すぐに突っ込まれてしまうんです。

日本では授業中に意見なんか言ったら怒られるのに、アメリカでは真逆。自分の意見を言わないと、ちゃんと考えていない人だと見なされてしまう。反対に発言内容にオリジナリティーがあると、クラス中から拍手喝采。ここじゃ、思ったことはガンガン言ってもええんじゃないかと、キツネにつままれた気分でした。

でも、すべてアメリカ式教育がいいかというと、そんなことはない。数学や理科、フランス語の勉強では、日本式の〃短冊法〃(笑)が大いに生きました。たとえば、フランス語は一般のアメリカ人高校生にとつて、日本人が英語を学ぶのと同じくらい苦手意識があるんです。その点、単語帳を作って暗記するという日本式学習法を知っていた僕は、語彙をどんどん増やして、クラスメートにたちまち差を付けることができました。フランス語の先生から、『みんながモーリーくらい勉強熱心だったらいのに』と褒められたもんです。

僕には欠如していた社交性も、学校主催のダンスパーティーを通して、少しずつ身に付けていきました。向こうでは高校生ともなれば、男女交際は社交性を養う大事な関門。引っ込み思案の男子



モーリー・ロバートソン

1963年ニューヨーク生まれ。小中高時代は日米双方の教育を受けて育つ。1981年に東京大学、ハーバード大学に加え、イェール大学、スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学、プリンストン大学など複数の名門大学に同時合格。東大を中退後はハーバード大学に入学。現在、国際ジャーナリスト、ミュージシャン、コメンテーター、DJとして活躍。著書に『悪くあれ!』窒息ニッポン、自由に生きる思考法(スモール出版)などがある。

そのころの僕はパンクロックに夢中。他校生とバンド活動を始めたが、学校の監視の目が厳しいのなので、それが悔しかったので、ちよつと発想の転換をしたんです。転入した高校は東大合格者数を誇る、県下でも指折りの進学校。バンド活動を続けながら東大に合格したら、自分を不良扱いする大人たちを見返してやれる。そして、合格後にかつこよく東大を辞めてやる。『これぞ、パンクだぜ!』と(笑)。

は女の子にモテない。だから必死だったな(笑)」。アメリカの学校に馴染み、青春を謳歌していた高校生とき、教員ユニオンによるストライキが起き休校に。モーリーさんはそれを機に再来日し、かつて在籍していた広島男子進学校に復学する。

「不良」が東大を目指す 「これぞパンク魂だ!」

モーリー少年の紆余曲折はさらに続いた。ロックを聴いたり、女の子をディスコに誘ったりする、自由奔放なアメリカンスタイルを学校に持ち込んだことが原因で、「不良」のレッテルを貼られてしまったのだ。結局、退学となり、母の実家がある富山県の進学校に転入を希望したものの、ここでも広島時代の悪名が付いて回った。

「僕の素行をリサーチした学校側が入学を渋ったんです。このときも母が、『それはおかしい!』とジャーナリスト魂を発揮して高校に掛け合ってくれ、何か問題を起こしたら即退学、という条件で転入が許可されました。母には感謝しかありません。

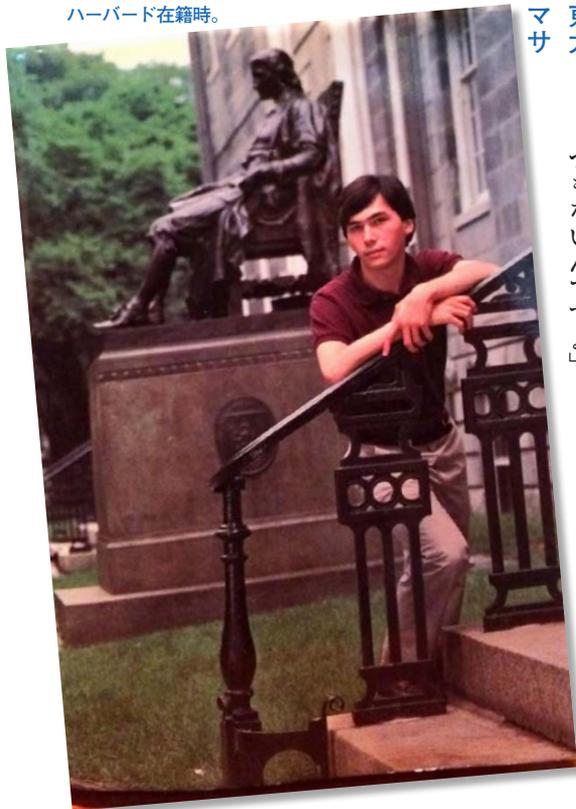
格したら、自分を不良扱いする大人たちを見返してやれる。そして、合格後にかつこよく東大を辞めてやる。『これぞ、パンクだぜ!』と(笑)。

それから、まっしぐらに東大合格を目指して猛烈に受験勉強を始めたんです。僕の場合、英語は楽勝ですから(笑)、その分、同じ理系志望の子たちが得意としない古文や漢文の勉強を頑張って差を付けようと考えました」

夏休みは東京の予備校にも通い、全国模試を受けるたびに偏差値はうなぎ上り。その結果、東大をはじめ、ハーバード大学、イェール大学、マサチューセッツ工科大学など、アメリカの名門大学に同時合格を果たす。持ち前の反骨精神がもたらした快挙だった。

1981年、東大を前期で中退し、ハーバード大学に入学。真にトップクラスの学生ほど勉学や研究とボランティア活動やスポーツ・趣味などを両立させているハーバード流に刺激を受けながら、「電子音楽とアニメーション」を専攻。少年時代から好きだった道を貫き、現在に至る――。

ハーバード在籍時。



人生で経験することには 一つも無駄なことはない

日本の学校では破天荒、アメリカの学校では引つ込み思案と、アイデンティティーに揺れる思春期を過ごし、日米双方の学びのスタイルで知識や生き方を吸収して育ったモーリーさん。

山あり谷ありの体験談は、グローバル社会でより良く生きるには何が必要か、さまざまなヒントや示唆に満ちている。

「僕から言えるアドバイスは、日本式教育でも外国式教育でも、いいとこ取りをして学ばばいいんだということ。そのうえで大事なのは、枠にとらわれず、多少ハメを外してでも本当に楽しいと思えるものを追求すること。人生の早いうちに、決められたレールから外れてみて、冒険したり、苦労したりするほうが、自分らしさに自信を持てるし、発想も広がる。それが、先の見えないこれからの世の中で、新しい何かを創造する原動力になるんじゃないかな。経験して無駄なことなんて一つもないですよ」

モーリー流 自分を信じて生きる術

枠にはまるな、

好きなことを追え！

モーリー・ロバートソンさん

探究

探究学習で子供はじつ変わるのか

大切なのは体験から
「自分」を発見すること

渡慶次道俊さん デルタスタジオ

福本雅俊さん コアネット教育総合研究所横浜研究室室長

East

答えのない問いを深く掘り下げる
進化する「ニコルプロジェクト」

神田女学園中学校高等学校 (東京都) 11

「セカイとつながる私・ミライとつながる私」
新たな自分をみつける「未来デザイン」

実践女子学園中学校高等学校 (東京都) 12

自分軸を持って社会の在り方を探究し、
未来を見据えて行動できる人になる

女子聖学院中学校高等学校 (東京都) 13

グローバルと理数の強みを
探究の楽しさでさらに伸ばす

文京学院大学女子中学校高等学校 (東京都) 14

持続的な発展に貢献できる
国際人を育成する統合型学習

横浜女学院中学校高等学校 (神奈川県) 15

厚みを増すプレゼンテーション教育が
主体性と表現力を大きく伸ばす

大宮開成中学・高等学校 (埼玉県) 16

East

異学年合同で行う探究学習が
主体性・判断力・行動力を培う

神奈川大学附属中・高等学校 (神奈川県) 17

学力、国際対話力、人間関係力を
積み上げて大きく伸ばす6年間

順天中学校・高等学校 (東京都) 18

ダイアログII対話型アクションで
ワクワクする授業を展開

青稜中学校・高等学校 (東京都) 19

知的好奇心に火を付ける
バラエティー豊かな放課後ゼミ

東京農業大学第一高等学校中等部 (東京都) 20

「自由を生き抜く実践知」を育む
付属校ならではの学びが特色

法政大学第二中・高等学校 (神奈川県) 21

「自律した学習者」の育成を目指す
進化し続ける学びを展開

三田国際学園中学校・高等学校 (東京都) 22

世界で活躍できる経験と力を養う
新たな国際教育の形

山手学院中学校・高等学校 (神奈川県) 24

「想像と創造」、探究と教科横断で
新しい価値を創造する力を付ける

松蔭中学校・高等学校 (兵庫県) 25

キャリアデザイン×ICT教育で
21世紀型思考力を育成

近畿大学附属高等学校・中学校 (大阪府) 26

新たな総合・探究学習が始動
創立者の理念「世界標準の教育」へ

三田学園中学校・高等学校 (兵庫県) 27

進化を止めない滝二の挑戦は
学びの多様なニーズに対応

滝川第二中学校・高等学校 (兵庫県) 28

学内外と連携し、自由に学ぶ
多様な探究で「人間力」を養う

雲雀丘学園中学校・高等学校 (兵庫県) 29

West

「社会」と「教育」の距離を縮めるために

社会で生きる力を具体化する デジタルテクノロジーの学び

川上量生さん 学校法人角川ドワンゴ学園理事

岡田育也さん コアネット教育総合研究所新教育推進室副室長

ICT環境の活用を通してつかむ

「やりたいことができる」実感

城北中学校・高等学校 (東京都)

教育と科学技術の融合を図り

先進的教育環境を生徒に提供する

駒込中学校・高等学校 (東京都)

East

East

East

East

首都圏

East

国際社会で「使える」英語力を
中高6年間でじっくり育成する

佼成学園中学校・高等学校 (東京都)

文武両道の伝統ある男子校

土台を固めながら着実に成長する6年間

成城中学校・成城高等学校 (東京都)

コロナ禍でもこだわった対面授業

教師との信頼関係で生徒を伸ばす

東京都市大学付属中学校・高等学校 (東京都)

新時代の教育に向かって

画期的な取り組みを次々に打ち出す先進校

佼成学園女子中学高等学校 (東京都)

伝統校の文化資源を土台に

新機軸「共立リーダーシップ」で前進する

共立女子中学高等学校 (東京都)

30

33

34

35

36

37

38

39

40

East

豊かな自然環境の中で育まれる
次世代女性のリーダーシップ

共立女子第二中学校高等学校 (東京都)

創立100周年を迎え次のステージへ

学びを進化させる新コース制

十文字中学・高等学校 (東京都)

「SHOWA NEXT」が目指す

混迷の時代を強く生きる女性像

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校 (東京都)

家庭生活はSDGsの原点

社会に貢献できる女性を育てる

東京家政学院中学校・高等学校 (東京都)

一人ひとりの学習サポートを最適化する、

少人数の習熟度別授業を実施

東京女子館中学校・高等学校 (東京都)

PBL型授業を学校全体で展開

「つながる学び」で視野を社会へ

和洋九段女子中学校高等学校 (東京都)

夢の実現へと挑み続ける

「EMK未来プロジェクト」

穎明館中学高等学校 (東京都)

自分を律し、愉しみながら

「学び続けるLEARNER」を育てる

品川翔英中学校・高等学校 (東京都)

現実の問題に向き合う授業で

国際化社会を生き抜くスキルを身に付ける

城西大学附属城西中学・高等学校 (東京都)



41

42

43

44

45

46

47

48

49

East

「大学訪問授業」と「TOKOSDGS」課題解決プロセスの学びに特色

桐光学園中学校・高等学校 (神奈川県)

50

大学と共有する恵まれた環境で伸び伸びと未来への夢を広げる

日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校 (神奈川県)

51

STEM教育やSDGSの導入で

「武南スピリッツ」の構築へ

武南中学校・高等学校 (埼玉県)

52

新たなプログラムの導入で主体性と創造力を養う

文教大学付属中学校・高等学校 (東京都)

53

時代に適応し続ける

伝統あるグローバル教育

目白研心中学校・高等学校 (東京都)

54

将来必要な力を育てる

「Rプログラム」とキャリア教育

立正大学付属立正中学校・高等学校 (東京都)

55

West

関西

56

West

仏教をベースとする人間教育で変化が激しい時代を生き抜く力を

清風中学校・高等学校 (大阪府)

57

コース刷新で未来を切り拓くリーダーシップ・プログラムが充実

滝川中学校・高等学校 (兵庫県)

58

本物に触れる留学体験で自分の意思で人生を歩み、活躍できる女性に

大阪薫英女学院中学校・高等学校 (大阪府)

59

キリスト教に基づく教育により真の自立心と自ら未来を切り拓く力を養う

大阪女学院中学校・高等学校 (大阪府)

60

West

未来を決めるのは私たち 探求する心が道を切り拓く

甲南女子中学校・高等学校 (兵庫県)

61

考える力と表現力を身に付け「美意識」を育む教育

樟蔭中学校・高等学校 (大阪府)

62

学力と人間力を育み

難関大学進学を目指す一貫教育

開明中学校・高等学校 (大阪府)

63

未来を見据えた学習環境が完成 無限の可能性を引き出す

関西大倉中学校・高等学校 (大阪府)

64

未来に必要とされる力にフォーカス 強く生き抜くための多彩なプログラム

常翔学園中学校・高等学校 (大阪府)

65

しなやかな人間力を身に付け 社会で飛躍できる生徒に

同志社香里中学校・高等学校 (大阪府)

66

「考えるを、学ぶ。」をスローガンに、進化を続けるキャリア・フロンティア

東洋大学附属姫路中学校・高等学校 (兵庫県)

67

生徒一人ひとりの自主性を尊重し「人間力」と学力を高めていく

桃山学院中学校高等学校 (大阪府)

68

受験・進学情報のプロフェッショナルの立場から、各校の特徴をまとめた一言コラム

コアネットの目

首都圏執筆 川畑浩之

コアネット教育総合研究所副所長。2005年同研究所に入所。07年より主任研究員として、数多くの学校改革支援プロジェクトを手がけている。生徒募集やカリキュラムマネジメントの研修やセミナーの講師を担当。私学マネジメント協会の事務局長を兼任。

関西執筆 嘉村謙一郎

コアネット教育総合研究所神戸研究室室長。リクルートグループ、経営コンサルティング会社を経て2009年コアネット入所後は、学校改革、生徒募集力向上、教員評価制度等の各種プロジェクトや教職員研修を担当。現在は関西担当として神戸研究室勤務。

探究学習で子供はどう変わるのか 大切なのは体験から 「自分」を発見すること

学習指導要領の改訂により、注目を浴びている探究学習。

高校では2022年度から「総合的な探究の時間」もスタートしました。

しかし、どのような学びなのか、この分野には一概に捉えにくい面もあります。

東京・広尾にある「デルタスタジオ」は、いわば探究学習に特化した塾。

その運営に携わり、プログラム開発も手がけてきた渡慶次道俊さんと、

コアナット教育総合研究所の福本雅俊さんが、探究学習を読み解くポイントを語り合いました。

グローバル企業で実感した 日本に足りない教育

福本 デルタスタジオでは「これからの時代に活躍する人材の育成」を目標に掲げていますが、どのような授業を行っているのですか。

渡慶次 子供向けと企業向けがあるのですが、子供向けは「点火」と「デルタチャレンジ」という二つのプログラムで構成されています。「点火」は好奇心と才能に火をつける体験型の授業。「デルタチャレンジ」は、文字通りのチャレンジ体験を通じてリーダーシップやスキルを磨く授業です。企画から子供たちが考えて実行しますから、いわゆるプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL…課題解決型学習）です。

福本 渡慶次さんはゴールドマン・サックスに勤めていたようですが、世界的な投資銀行を辞めてまで、このような事業に携わろうと思ったのはなぜですか。

渡慶次 ひとつは、ゴールドマン・サックスでの研修体験です。同期の社員が世界中からニューヨークに集められて研修を受けるんですよ。私たち日本人社員は、ペーパー試験では良い成績を出せませんが、ディスカッションとなるとまるでついていけない。プレゼンテーションもうまくできない。この差は何だろうと思いました。

福本 それは欧米で働く日本人からも、よく聞く話です。日本の教育水準は世界的に見ても高いほうですし、英会話力の問題だけでもないようですね。その差はどこからきているのでしょうか。

渡慶次 踏んできた場数の違いですね。確かに基礎学力の平均値は高いですが、ディスカッションやプレゼンなど、自分なりの意見を持ち、発信するという学習はあまり経験していません。それに、



欧米の大学は選考の際に学力だけではなく「何をしてきたか」も重視します。そこで彼らは学校や部活、そして地域のボランティア活動などでリーダーシップ体験を意識的に積んできています。日本の教育は、何か偏りがあるのではないかと思われました。

福本 教育には関心があったのですか。

渡慶次 門外漢でしたが、実は大学院生時代に、デルタスタジオでインターンをしていました。そのとき、自分も子供の頃にこんな授業を受けたかったと思ったものですから、それも転職を決めた動機としてありました。

「実際にやってみる」ことで 子供の好奇心に火をつける

福本 日本の教育は、「教科学習中心の系統学習」と体験活動中心の「経験学習」の間で揺れ動いてきた経緯があります。今のこの流れも、ややもすると、「大学入試が変わらなければ中高における教育の在り方を変える必要はない」となりかねません。この点については、どのようにお考えですか？

渡慶次 大学入試にかかわらず、探究型の学びの重要性は「確実に増していくでしょう。例えば今の子供たちが大人になる頃には、AIに取って代わられる仕事も増えるでしょう。そのときに必要とされるのは、答えのない課題に主体的に取り組み探究力です。教科が探究かという「or」ではなく、両方大事という「and」の発想で見てほしいですね。そのバランスをどう取るかは、学校では大きな課題だと思いますが。

福本 今後、中高においても本格的に探究学習が導入されることになりました。既に先行的に取り組んできた中高一貫校では、修学旅行や文化祭などの学校行事に探究の要素を組み入れたり、教科学習と連動させたりと、学校によって実施スタイルは多様です。一般に探究学習は「課題の設定↓情報の収集↓整理・分析↓まとめ・表現」というプロセスで進められますが、デルタスタジオではど

のように点を重視していますか。

渡慶次 「実際にやってみる」ことを大切にしていきます。「点火」にはビジネス、映画、医療など多様な分野の体験があるのですが、例えばビジネスでは昨年度「キッチンカーで販売を体験しよう」という授業をやりました。キッチンカーを見て「これはこういうもの」という説明を聞くのも学習ですが、それでは探究にはなりません。

福本 講義型の学習と同じですかね。

渡慶次 「何を売る？」「いくらで売る？」「いくらなら買ってもらえるか、お母さんや友達に聞いてみようか」といったスタッフの問い掛けを受けながら、子供たちは準備をして売ります。それでビジネスの実際が頭と体でわかる。映画の場合も子供たちが監督、カメラマン、役者に分かれてオリジナルムービーを作ります。そういう経験をを通して、子供たちはそれぞれに「これが好きだな」とか「自分に向いているかな」ということを感じ取っていくのですが、その気付きを大切にしています。

福本 自分が何に関心があるのかがわかれば、それが起点となって、さらに興味や視野が広がっていきますよね。

渡慶次 昨年度、小6の生徒が卒業スピーチで「僕



渡慶次道俊さん
Tokeiji Michitoshi

1987年生まれ、神奈川県出身。東京大学工学部、東京大学大学院工学系研究科修了後、ゴールドマン・サックス証券投資銀行部門に入社。同社退職後、デルタスタジオに参画。子供向け、企業向けプログラムの開発を担当し、広尾校では授業も行っている。
<https://whatisyourdelta.com/>



デルタスタジオの「キッチンカーで販売を体験しよう」という授業。子供たちは、何を、いくらで、どのように販売するかを考え実践した。



仲間と役割分担して映画製作に挑戦する子供たち。
写真提供/デルタスタジオ(前ページの2点も)

はものを作ることが好きだとわかった」と言っていましたけれど、例えば建築とファッションを体験すると、デザインを考える思考法に共通点があるとわかるわけです。そのような分野や教科の枠を超えた理解に、探究の醍醐味があると感じます。

探究学習の指導者は 自転車練習の補助輪

福本 デルタスタジオでの学習を通して、子供たちのどのような成長が見えてきますか。

渡慶次 成功体験を積んでいくことで、挑戦が習慣化することです。デルタチャレンジでチャリテイオークションを体験した小6の女子がいます。体操の好きな彼女がオークションにかけたのは、「バク転を教えます」という自分の得意技です。そうして得たお金を寄付して成功体験を積んだ彼女は、次に「密猟で殺されるアフリカゾウ



福本雅俊さん
Fukumoto Masatoshi

コアネット教育総合研究所横浜研究室室長
日本キャリアデザイン学会会員

私立高校の教員を経て、2006年、同研究所に入所。キャリア教育を主領域としながら、子供たちの未来を応援するための教育活動に関する支援を中心に、学校経営をサポートしている。

を救いたい」と、クラウドファンディングに挑戦しました。寄付者への謝礼は、ファッションの授業の経験を生かしてエコバッグを自分でデザインしました。もちろん子供が1人ではできませんから、スタッフが伴走する形で実現させていきます。

福本 その伴走役の存在が大事なのですね。

渡慶次 スタッフは「こうしてみたらどう?」「こんな方法もあるよ」というふうには、教えるのではなく助言にとどめます。それができる、子供たちは自分でその先へ進もうと

します。自転車に1人で乗れるようになるまでに、補助輪を付けて練習しますが、私たちがやっているのはその補助輪のような役割です。

福本 なるほど。とはいえ、学校の先生たちが、そこまでするのはかなり大変かもしれません。

渡慶次 確かに探究学習には、しっかりとしたプログラムとコンテンツ、指導するスキルと経験が必要です。学校では難しい側面もあるでしょうね。しかし、私たちもそうですが、今は探究学習を支援できる企業や教育機関が増えていますから、そ

ういうところとタイアップして実施していく方法もあると思います。

偏差値偏重からの脱却へ 変わる学校教育への期待

渡慶次 私も中高一貫校の出身なので思うのですが、一貫校の良いところは高校受験の準備に時間を取られないですむことですね。その分、公立に比べれば探究学習を取り入れやすいし、じっくり取り組めるのではないかと思います。

福本 ただ、探究学習を単にひとつの教科と見てしまうと、本来その学習が持つ広がりや発展性が損なわれかねない懸念もあるように思います。

渡慶次 同感です。子供たちを教室の外へ連れ出して、地域の方々や企業、NPOなど外部の人たちと接する機会を増やしてほしいですね。教室の中だけの学びでは、子供たちの目に社会は見えてきません。外部との接点は、何のために何を学ぶのかを考えることにもつながると思います。

福本 従来は偏差値や大学合格実績が学校選びで重視されてきましたが、探究学習が広まってくると、その物差し在り方も変わっていくだろうと思っています。

渡慶次 変わってくるでしょうね。私は今34歳ですが、同世代や下の世代の保護者には、昔のようが良い大学に入れば人生安泰と考える人は少なくなってきたと思います。偏差値はあくまでひとつの指標であり、それを偏重する価値観はこれから確実に変わっていくと思っています。

福本 私見ですが、探究学習にうまく取り組んでいる学校は、生徒も先生も生き生きとして元気があるという印象があります。そういう雰囲気も、学校を見るうえでのポイントになると、あらためて思いました。ありがとうございました。



from the School

探究型授業責任者 池田幸代先生

本校の教員は毎年、探究学習の研修を行い、「ニコルプロジェクト」に磨きをかけています。

Homepage



答えのない問いを深く掘り下げる 進化する「ニコルプロジェクト」



左／「ニコルプロジェクト」のグループワーク。調べ方や参考文献の扱い方など、探究学習の基礎から学ぶ。

下左／「ニコルプロジェクト」の途中経過発表表。年々プレゼン力もアップしている。

下右／昨年度の「ニコルアワード」のプレゼン部門は動画を配信して、生徒たちは教室で視聴。最優秀賞以外に、プレゼン賞やユニーク賞、アイデア賞、グローバル賞などがある。



上／今年度はフィールドワークの日を設け、中1から高2まで一斉に実施。写真はJICA地球ひろばで、世界が直面する課題や、開発途上国と日本のつながりを学ぶ様子。

右／楽しみながら探究学習に取り組む生徒たち。高大連携でさらに探究が深まる。



「好きなこと」から始めて 探究のプロセスを学ぶ

中学校はグローバルクラスのみが設定されている神田女学園。英語は習熟度別の指導、第二外国語の履修（中3から）によるトリリンガル学習、高校時の留学により海外の提携校と同校の卒業資格を両方取得できるダブルディプロマ制など、特色のあるグローバル教育で知られる。

さらにもうひとつ教育の柱として、教科の枠を超えた教養を身に付けるリベラルアーツがある。「ニコル（NCL）プロジェクト」（中1から高2と呼ぶ探究学習がその要だ。

「ニコル」は自然（Nature）、文化（Culture）、生命（Life）の頭文字からの命名です。生徒が「好きなこと」から自由にテーマを設定し、研究していく学びです」と説明するのは池田幸代先生（理科）。探究型授業責任者として同プロジェクトを主導してきた方である。

「アニメでもKポップでも、テーマはなんでも構いません。ただし『なぜ人気があるのか』『社会にどんな影響を及ぼしているか』など、深く掘り下げて考察するようにします」

その仮説の立て方も、教えるのではなく、気付きをうながす。ネットの情報は、信憑性を見極め方やその扱い方も丁寧に指導している。

生徒が1年をかけて研究した成果は、クラス発表で選ばれたのち、全校発表会の「ニコルアワード」にかけられる。昨年のプレゼン部門の

最優秀賞は、高1生の「なぜ国籍が違うとフェアトレードの関心度も違うのか」という研究。日本語と英語の論文を読み、日本人と中国人にアンケート調査を行った内容は、ゲスト審査員として招かれた大学教授からも高く評価された。

「自分の好きなことだから、生徒たちは目を輝かせて取り組みます。動画や音楽などを使う発表もあって、プレゼン力も年々確実に高まってきています。自身の興味・関心への気付きや自覚が、その生徒の進路につながっていくのです」と池田先生。

同校が探究学習を導入したのは、中学にグローバルクラスを開設した2015年度から。中高6年間、その経験を積んだ昨年度の卒業生は、総合型選抜入試で目覚ましい成果を挙げた。グローバル教育と探究学習の融和による結実とも言えよう。

School Data

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-3-6

☎03-6383-3751

<https://www.kandajogakuen.ed.jp/>

- 創立 1890年
- 交通
 - JR総武線・都営三田線「水道橋」駅から徒歩約5分
 - 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町」駅から徒歩約5分
 - JR中央線・東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅から徒歩約10分
 - 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅から徒歩約12分
 - 東京メトロ東西線「九段下」駅から徒歩約12分
 - 東京メトロ丸ノ内線・東京メトロ南北線「後樂園」駅から徒歩約12分

コアネットの目

グローバル教育×探究＝魅力ある女子校として、さらなる発展▶以前から取り組んでいる「探究」プログラムは、他校からだけでなく、大学や企業からも注目されている。これまでも複数の言語学習や、海外留学制度の充実など、グローバル教育が評価されている。2022年4月からいろいろなユニークな活動を計画していることもあり、注目の女子校である。

実践女子学園中学校高等学校

Homepage



from the School

ESD推進 渡辺大輔先生

“自分の常識を飛び越えて「ちがひ」をつなぐ女性”の育成を目指しています。

“セカイとつながる私・ミライとつながる私” 新たな自分を見つける「未来デザイン」



上／中3～高2を対象に海外研修を実施。写真はオーストラリア研修。

左／「未来デザイン」は「探究教育」のひとつの形。互いに意見を述べ、自己の在り方や生き方を考えて行く。



“Think globally, act locally”を掲げるグローバル研究会が行った食糧支援ボランティア活動。



社会科・小川貴章先生。「探究学習では、自分の考えに至ることが重要です」



ESD推進担当、英語科・米倉晋一先生。「身近な問題から課題を発見します」



右／中学生は必ずクラブに所属する。写真は高校吹奏楽部。文化祭、定期演奏会などさまざまな演奏の機会がある。

左／蔵書8万5000冊を誇る図書館は、授業や課外授業など多目的に利用されている。



現代社会の課題を自分事として考える

日本の女子教育の土台を築いた下田歌子を校祖とし、「女性が社会を変える、世界を変える」の理念を継承する伝統校。予測困難な時代にあっても自己の力を発揮できるように、「グローバル教育」「探究教育」「感性表現教育」を学びの3本柱としている。なかでも中1～高2までの「探究学習」は、SDGsの観点から、自分たちの未来を左右する社会課題を身近なところから掘り起こすもの。授業の名前「未来デザイン」には、同校の熱意と志が込められている。「なぜSDGsが必要なのか。その背景を理解し、自分事とするために、生徒たちの『当たり前』を揺さぶる授業をした」と考えています。分断・対立・格差が広がる世界で、共生・他者理解を進めるにはどうしたらいいのか、協働アクションができるグローバル市民の育成を目指しています」と、ESD（持続可能な開発のための教育）推進担当の渡辺大輔先生。「国際・異文化理解」「環境」「社会・経済」の三つのテーマについて、25名の教員チームが教科横断的に内容を練り上げ、さまざまな疑問を生徒に投げ掛けていくという。

たとえば「国際・異文化理解」では、「国際結婚とは？」という問い掛けから授業が始まる。実際に国際結婚をしている教員のインタビューやディスカッションを通して、結婚とは異文化理解であると気付かせて

いき、自分の家と隣家にも異文化はあると視点を広げていく。「文化の違いとは何かを考えると同時に、自分の中にあるステレオタイプに気付くことにもつながっていきます」と担当の米倉晋一先生。

自分の思い込みが揺さぶられる授業により、生徒たちの発言、意見も大きく変わっていくという。

「社会」のテーマでは、「カレーを作るのにはどんな食材が必要？」という投げ掛けから始まり、食品店で産地や価格を調査。スパイス、野菜、肉などの産地、価格、流通システムを通して、持続可能な開発における課題を発見させていく。

「それぞれのテーマについて、現状から課題をみつけ、仮説を立て検証し、発表するスキルも授業に盛り込んでいきます」と担当の小川貴章先生。すべての学びに通じる「未来デザイン」の授業。高1の修学旅行先（沖縄、シンガポール、ニュージーランド）から選択）をテーマとした探究学習で総まとめとなる。

海外大進学など、進路も多様化している同校にふさわしい学びの形といえるだろう。

School Data

〒150-0011
東京都渋谷区東1-1-11
☎03-3409-1771
<https://hs.jissen.ac.jp/>

- 創立 1899年
- 交通 ● JR・京王井の頭線・東急線・東京メトロ各線「渋谷」駅から徒歩10分
- 東京メトロ千代田線ほか「表参道」駅から徒歩12分

コアネットの目

ここ数年の志願者増は注目に値する。さらなる発展に期待 ▶ 中学受験ブームの火付け役となった女子校といえる。グローバル教育や探究活動には定評があり、志願者数を増やしている。女子校の中の「ブランド校」ともなった同校は、学校の立地や環境にも恵まれている。学校紹介動画では学校や生徒の様子がよくわかる。受験生の学校選びの参考となるだろう。



from the School

探究委員会委員長 川村明子先生

立ち止まってじっくり考える時間があるからこそ、自分の力を試す気持ちが育ちます。

Homepage



自分軸を持って社会の在り方を探究し、未来を見据えて行動できる人になる



中1のアドベンチャーキャンプでは、ゴールに向かってチームで協力し合うことで、互いに認め合い自信を育む。



さまざまな分野で活躍する卒業生を招いて、「動く」をテーマに座談会を開く。将来のイメージを膨らませる。



中学生全員がiPadを持ち学習ツールとして活用している。生徒、教員、保護者が共にICTの善き使い手になることを目指している。



多くの生徒がクラブ活動に参加している。チアリーディング部は中高共に高い実績がある。



各分野のゲストを迎えて、話を聞く機会も多い。



意見や取り組みを発表する機会が多い。調査・分析→発表を繰り返して発信力が身に付く。

自分軸の獲得が探究活動の土台となる

女子聖学院は、1905年創立のプロテスタント系女子校。教育スローガンの「Be a Messenger」(語をこたばをもつ人を育てる)は、21世紀の現在、さらに価値を増し、独自の人間教育をさまざまな形で展開している。

2021年度からは、中学全学年で総合学習の時間を設定。「マイ・コンパスプロジェクト」として、自分軸の探究、社会課題の発見、社会との関わり方の模索などを行い、高校での論文作成・進路選択にもつなげていく。一連の探究学習は、同校の教育の大きな柱となる。

これらの活動を支える大切な要素がDC(デジタル・シティズンシップ)教育とシェアド・リーダーシップの考え方だと、探究委員会委員長・川村明子先生は語る。

「ICT機器利用に潜む危険を強調する情報モラル教育ではなく、情報化社会でのICT活用を前提として、いかに善き市民として行動するかを考えるDC教育を重視しています。シェアド・リーダーシップは、チームの一員として、共有する目標達成のためにいかに自分の力を発揮していくかを考えます。中1から丁寧に土台を積み上げていくところが中高一貫校の良いところですね」

最初の一步となる中1のテーマは、「学びとは?」。中学受験対策の勉強を経て入学してきた生徒たちに、そもそも「勉強とは何か?」「やる気

とは何か?」といった根源的な問いを突き付けるところからスタート。「みんな試験勉強ってどうやってる?」「自分に合った勉強法って?」と計画→実践→検証のサイクルに乗せて学び方を探究し、学びへの主体性を育んでいく。

「自分以外の人の学習方法を知ったり、自分の学習方法を評価したりすることは、結果的にメタ認知を高めて自分の特性を理解することになります」と川村先生。主体性や自分軸の獲得に向けた活動となる。

生徒たちは、はじめての定期試験に向けた緊張を皆で共有し乗り越えるという経験ができ、学年全体の雰囲気も良くなるという。実際、2学期以降、学習姿勢やノートの取り方などがメキメキと向上し、中1の成長は顕著だったという。

「一人ひとりの学びや気付きを学年の財産にしていこうね、と生徒たちには強調して話しています」

お互いに高め合う校風は、キリスト教精神に則った同校の伝統だ。独自の高い女子聖学院の「探究学習」の今後に注目していきたい。

School Data

〒114-8574
東京都北区中里3-12-2
☎03-3917-2277
<https://www.joshiseigakuin.ed.jp/>

- 創立 1905年
- 交通 ● JR山手線「駒込」駅から徒歩約7分
- 東京メトロ南北線「駒込」駅から徒歩約8分
- JR京浜東北線「上中里」駅から徒歩約10分

コアネットの目

自分に合った「学び方」とは? 一人ひとりが自分の学びを見つけろ ▶ 生徒の主体性を大事にする女子聖学院。学校行事をはじめ、生徒の主体性が光る機会が多くある。昨年から特に学習における主体性の育成に力を入れている。中学1年生は探究プログラムの中で「学び方」について考え、自らに合った学び方を発見し、主体的に学ぶことのできる力を身に付けていく。



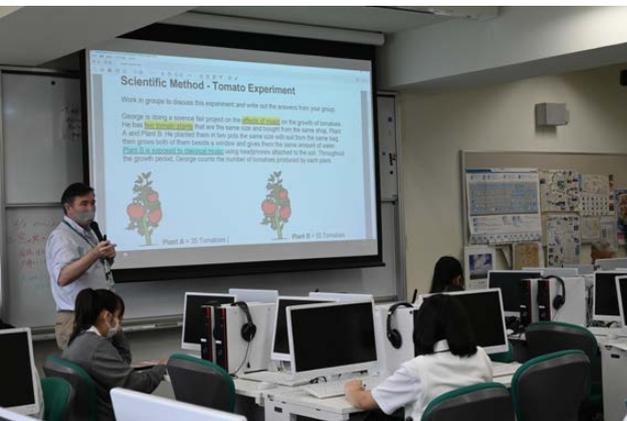
グローバルと理数の強みを 探究の楽しさでさらに伸ばす



from the School

佐藤泰正副校長

元気な生徒が多く、部活も盛んです。生徒に会うだけでも、本校の良さはわかると思います。



左／理数キャリアコース「Scientific Method」では、科学的実験方法や考え方について英語で学ぶ。最初は戸惑う生徒もいるが、大学進学後に専門用語をスムーズに理解できると卒業生から好評だ。

下左／探究の学習と関連した校外学習。中1「都電の旅」では、資料を用いて立てた仮説をフィールドワークを通して検証する。

下右／中1・2で学んだ「探究活動」を基に、段階的に課題研究に取り組み。高校進級後は、JSEC、キャリア甲子園など、外部大会やコンクールに挑戦する。



上／日本語教員とネイティブスピーカーの教員とが一緒に行う「コラボ授業」。英語での問いについて、グループで調べて発表する。右／英語で学ぶ授業は、理科や数学、体育、日本史、世界史などで行っている。



学年ごとに深まりが増す 積み重ね型の探究学習

文京学院は、大学は共学だが、中学・高校は「自立と共生」を理念に掲げ、女子校の伝統を継承している。その一方で理数・グローバル教育に力を入れ、キャンパス内にインターナショナルスクールを誘致するなど、国際色の豊かな学校でもある。

特色は、中2から「グローバルスタディーズ」「アドバンストサイエンス」「スポーツサイエンス」の3コースを設定していること。ただし「中学のコースは、高校のコース選択に向けた仮の目標設定」と佐藤泰正副校長。「自身の志向に合わせ、高校進級時をはじめ、節目節目で変更できるようにしています」と言う。

創立100周年を2年後に迎える同校は今、「BUNKYO100」という指針の下に、次代を見据えた教育に取り組んでいる。その基軸のひとつが探究学習である。

「学内に探究部を設け、検討を重ねながら実施してきました。その柱は『言語運用能力』『情報活用能力』『問題設定・解決実践能力』のスキルを身に付け、活用していくことです」

中学の探究学習では、教科の枠にとどまらない議論に対応できるように、文系と理系の教師2人で授業を行う。既存の教材は使わず、教師がオリジナルの教材を用意する。

「中1では主に表現や発表の仕方など言語運用能力、中2ではグラフの読み解き方や使い方など数理解析に

School Data

〒113-8667
東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301
https://www.hs.bgu.ac.jp

- 創立 1924年
- 交通 ● JR山手線・東京メトロ南
北線「駒込」駅から徒歩約
5分
- JR山手線・都営三田線
「巢鴨」駅から徒歩約5分

重きを置くなど、生徒の発達に合わせて展開します。そして、中3では、自ら見いだした課題をテーマに、個人研究に取り組みます」

また、校外学習なども探究と関連付けられている。例えば一昨年度、中1の「都電の旅」では、沿線の街を歩いて気付いたことを課題としてシャッター通りや街の住民の高齢化をどう解決するかというワーキングに取り組んだ。

「探究の授業の終わりには、生徒がその日に学んだことを記録に残します。これからの大学入試では学科の成績に加えて『何をしてきたか』も問われますから、それを表現できるようにするための習慣付けです」

探究学習は、楽しみながら知識・スキルを積み重ねていくことがとても重要だ。年度末のアンケートでは「楽しかった」という感想のほか、「自分がこんなふうに変われた」「自分のこんなところに気が付いた」という記述も多かったという。自ら考えることに加え、自身を客観的に見つめる姿勢も生徒のなかに養われている。

コアネットの目 日常的に接することで育まれる国際性▶ 誘致されているインターナショナルスクールの生徒と日常的に接する機会がある同校。一部施設は共有しており、自然とコミュニケーションが生まれるという。英語を使うハードルを下げることに伴い、「英語を学ぶ」のではなく、「英語で学ぶ」ことができるのは、同校のグローバル教育の大きな特徴といえるだろう。

横浜女学院中学校高等学校



from the School

進路学習指導部主任 鈴木俊典先生

ESDやCLIL、「学びプロジェクト」を通じて、社会に貢献できる人材を育てます。

Homepage



持続的な発展に貢献できる 国際人を育成する統合型学習



右/社会科の歴史を担当する岩田 賢先生。
左/岩田先生が担当する社会科の「概念型学習」の様子。歴史を普遍的に見る視点を養い、現在の世界の諸問題についても考察を深める学びだ。



下右/横浜元町ショッピングストリートのSDGsの取り組みを行う店舗と協力して、生徒たちがお店を取材し、ポスターを制作。「SDGs PR Day」にPR活動を行った。
下左/クリスマス礼拝ではクリスマス説教の後、部活動が発表する祝会が開催される。



産学連携プロジェクト「フクゾー×横浜女学院」。横浜元町の老舗ファッションブランドのフクゾーの準制服を加えた。

探究を軸とした授業で 自ら学び続ける力を培う

キリスト教の教えに基づく女子の人間教育で知られる、横浜女学院中学校高等学校。近年、注目されているのが、国際的な問題意識と英語運用能力を高める目的で導入されたESD（持続可能な発展のための教育）とCLIL（内容言語統合型学習）だ。

国際教養クラスとアカデミッククラスに共通のESDは、関心のある題材を選んで課題を発見し、情報を集めて結論を導き発表する。その過程で社会や世界に視野を広げて、体系的思考力やデータ分析力、コミュニケーション能力、リーダーシップなどを身に付けていく。

一方、国際教養クラスに導入されたCLILは、英語以外の教科を学ぶのに「英語」をツールとして使い、各教科の内容と言語を同時に習得する学習法だ。「英語4技能＋考える力」を鍛えていく。

これらを土台に中学の国際教養クラスで、さらなる学びの深化を見ているのが、「概念型学習」を導入した歴史の授業だ。社会科担当の岩田賢先生に内容を伺った。

「概念型学習とは、知識を学ぶ従来型授業と、歴史的出来事の背景や原因を抽象的なキーワードを用いて概念化し、考察を深める探究型授業を交互に行う学習法です。例えば、第二次世界大戦を『対立と協調』というキーワードで概念化してみると、国益、独裁者の存在、大衆社会のポピ

ユリズムといった、どの時代、どの国家間の戦争にも共通する原理が浮かび上がってきます。歴史を普遍的に見る視点を養うことで、今、自分が生きている世界の諸問題について解決策を考えるヒントが得られるのではないかと。そう期待しています」

ルーブリックで探究学習の目的や評価ポイントを生徒に見える化したことで、学習意欲が格段に向上した。社会科での成果を、今後は他教科にも生かしていく予定だ。

中高生の有志が社会の中の答えがない問いに取り組み課外活動「学びプロジェクト」も活況な横浜女学院。進路学習指導部主任の鈴木俊典先生が、ひとときわ力強く語った。

「学んだ知識を基にいかにかに思考し、どのように活用していくか。これからはこのコンピテンシー（能力・資質）が問われる時代です。変化のほどが読めない社会に出て行く生徒たちが、常に思考を新たにして問題解決できるように、できるだけ多く探究する機会を与え、主体的に学び続ける力の目標です」

School Data

〒231-8661
神奈川県横浜市中央区山手町203
☎045-641-3284
https://www.yjg.y-gakuin.ed.jp/

- 創立 1886年
- 交通 ● JR京浜東北根岸線「石川町」駅から徒歩約7分
- 横浜市営地下鉄ブルーライン「伊勢佐木長者町」駅から徒歩約18分

コアネットの目

志願者数150%増、常に新たな教育を追求している改革推進校▶ESDやCLILを柱に、常に先進的な学びを取り入れている。高1の元町との「SDGs PR DAY」での活動、中3のフクゾーとの商品開発など、学内にとどまらず実践的な地域協働の学びの機会も多い。生徒の視野を広げ、自己肯定感を育み、「自分でやってみたい」「自分がやらなきゃ」と実際の行動へ移す主体性を引き出している。



Homepage



厚みを増すプレゼンテーション教育が 主体性と表現力を大きく伸ばす

from the School

中高一貫探究開発チーム 鈴木真也先生
プレゼンテーションを通して、
自分はどう世界と関わっていき
たいのかを探っていきましょう。



左/「開成文化週間」では大勢の前でプレゼンを行う。
堂々とした発表には先生も感動する。
下/プレゼンテーション教育にとって重要なのが図書館
の役割。図書委員、専任司書による選書、展示も活発。



職員室前の共有スペース。放課後や昼休みには
自主的に勉強する生徒たちの姿が常にある。わ
からないことはすぐに先生に質問できる。

右/フレッシュマンキャンプではさ
まざまな活動を通して互いを知る。
下/中学校舎。



部活動も活発。美術部の活動で、モザイクでモ
ナリザを制作。勉強だけではない、好きなこと
に打ち込める環境がある。



平日は毎日給食がある。温かくておいしいと好
評だ。

深く考える経験が 進路選択につながる

伝える力と主体性を育むプレゼン
テーション教育は、探究学習の中で
も最重要テーマの一つだ。大宮開成
中学・高等学校は、2005年の中
高一貫部開設以来、プレゼンテーシ
ョン教育を推し進めており、長年の
積み重ねで指導にも一層厚みを増し
ている。

プレゼンテーション教育は中1〜
高1までの4年間にわたって行われ
る。中3からは個人で取り組むが、
中1、中2は4〜6人のグループだ。
「グループで取り組むと、互いの意
見が食い違ったり、積極的に取り組
めない生徒がいたりして、もめごと
も増えるのですが、そういうときに
どう行動するかは社会に出てからと
ても大事な力。なるべく多くの経験
をしてほしいので、あえてグループ
にしています」と、中高一貫探究開
発チームの鈴木真也先生(理科)。

プレゼンテーションの取り組みは
年度初めの4月からスタート。中1、
中2は資料をまとめ、正しく伝える
力を付けることに重点を置き、パワ
ーポイントを使ったスライドの作り
方からじっくりと進めていく。テー
マは、SDGsを切り口に、中1「身
近な環境」、中2「日本」、中3「世
界」の学年テーマから、各自、各グ
ループが自らのテーマを設定。SD
Gsは貧困やジェンダーといった難
しいテーマが多いが、生徒自身が自
分のこととして捉えることを大切に

しているという。

そして2月。1年間の学びの集大
成として「開成文化週間」が開催さ
れる。学年発表で選ばれた代表班は、
中1から高1までの全生徒と教員、
およそ300人の前で発表を行うの
だ。内容は年を追うごとにレベルア
ップしており、近年は、審査員とな
る先生方から、どの発表も素晴らし
く優秀賞を選べないという声も上
がるほど。卒業生からは、「プレゼン
学習が自分にとってのブレイクスル
ーとなり、志望大学で学びたいとい
う思いが明確になった」「一つのテ
ーマについて深く考えたことが進路
選択につながった」といった声が聞
こえるという。

2022年度中学入試では過去最
高の受験者数を記録した大宮開成。
その土台にあるのは、切磋琢磨し自
主的に勉強に臨む生徒の努力と、そ
れを支える先生方の熱意だ。職員室
前の共有スペースには、教え合い、
時には議論する生徒の姿と、気軽に
質問に答える先生の姿がいつもあ
ります。ますます期待が高まる学校だ。

School Data

〒330-8567

埼玉県さいたま市大宮区堀の内町1-615

☎048-641-7161

https://www.omiyakaisei.jp/

●創立 1959年

●交通 JR「大宮」駅東口から国際興行
バスで「天沼町」下車すぐ

コアネットの目

国際社会で活躍できるチャレンジ精神旺盛な真のリーダーを育てる▶資料の作り方、効果的な発表方法など、生徒全員が同じ指導を受けられるよう、先生方の中で「中高一貫探究開発チーム」が組織化され、全校一丸となったプレゼン指導が強み。学校説明会では生徒代表のプレゼン発表を見られる機会も。生徒のためにできることは何かを常に考え、行動に移す先生方を見て、生徒たちも学んでいる。



from the School

小林道夫副校長

自分のやりたいことを見つけて、とことんやり抜いてください。私たちが全力で手助けします。

Homepage



異学年合同で行う探究学習が 主体性・判断力・行動力を培う

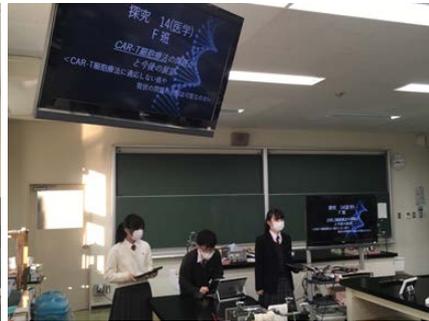


右／「総合的な探究の時間」の仕組みづくりに取り組んだ大場愛美先生。「生徒自身の興味関心を大切に、じっくり時間をかけて主体的に考える力を育てます」
左／探究活動はチームを組んでも一人でもいい。常に先進的なICT教育を進める同校。探究もタブレットなしでは成り立たない。
下／「探究の時間」中間発表の様子。パワーポイントを活用して中間成果をまとめ、5分間の発表と質疑応答を実施する。



上／神奈川県立四季の森公園から続く緑豊かなキャンパス。首都圏有数の敷地を誇る。

右／神奈川大学との高大連携の一環として、DNA講習で遺伝子組み換え実験を実施。教授の講義で専門性の深まる学びとなった。



23の多彩なゼミから 興味・関心事を選択

2022年度から高校に導入された「総合的な探究の時間」。神奈川大学附属中・高等学校は、これに先駆け、昨年度から独自の授業をスタートさせている。

最大の特色は、中3と高1の生徒が2学年合同で、23のゼミに分かれて「総合的な探究の時間」に取り組んでいる点だ。「探究の時間」主任の大場愛美先生(国語科)は次のように経緯を説明する。

「本校は以前から、『主体的に考え、判断し、行動できる生徒』の育成を目指し、探究学習を取り入れた授業を行ってきました。しかし、探究力というものは、学年単位の学びだけではなかなか伸びません。そこで、中高の枠を取り払い、異学年合同のカリキュラムをデザインしました」

ゼミは、図書館の日本十進分類法に基づいて、興味・関心のあるものを中3・高1の生徒全員にアンケート調査し、その回答を参考に用意した23講座。学術分野(心理学、哲学、医学、歴史、国際経済、数学、物理など)から、SDGs(環境、貧困、ジェンダーなど)、自然科学(宇宙、動物、昆虫など)、サブカルチャー(映画、漫画、アニメなど)まで、テーマは多彩を極める。

授業の流れは、まず1学期末までに自分の興味・関心のあるゼミを選び、一人ないし、2〜5人のチーム、フィールドワークなどを行い、集め

た情報や調査結果を2学期に整理・分析し、11月に中間発表。そして、3学期に論文を執筆する。

「正解のない課題に主体的に取り組めるよう、教員はファシリテーターに徹しています」と語るのは、自らも情報・プログラミングのゼミを担当する小林道夫副校長だ。

「壁にぶつかるとも含めて探究の学びです。昨年度、特に印象に残ったのが、南スーダンの貧困問題に取り組んだチーム。なかなか情報を得られない中で、JICAの日本人職員にたどり着き、なんと、現地スタッフの方を紹介していただいたのです。Zoomを使い、リアルタイムで英語のインタビュを体験した生徒たちは、『こんな国際的な活動ができるんだ!』と大感動でした」

同校では、「探究の時間」のエッセンスを6年間を通した学びに拡大していく方針だ。学校を挙げての探究学習は、各教科への知的好奇心を刺激し、進路やキャリアデザインにも生きてくることだろう。進化を続ける神大附属に期待が高まる。

School Data

〒226-0014
神奈川県横浜市緑区台村町800
☎045-934-6211
https://www.fhs.kanagawa-u.ac.jp/

- 創立 1984年
- 交通
 - JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅から徒歩15分
 - 横浜市営バス240系統・相鉄バス旭15「森の台小学校入口」下車、徒歩3分

コアネットの目

起業した卒業生が母校に協力して実現した「東大生セミナー」▶ 東大合格へのモチベーションを高め、勉強方法や計画の立て方について講演や面談を通してアドバイスする「東大生セミナー」。「東大合格を当たり前にした」という思いで、同校卒業生が東大在学中に起業したことから実現したプロジェクトだ。まさに身近な課題の解決を実践している頼もしい卒業生だ。



学力、国際対話力、人間関係力を 積み上げて大きく伸ばす6年間



from the School

片倉 敦副校長

創造性を伸ばす探究活動、社会性を身に付ける福祉活動。本校はその両方を備えています。



左/理科をテーマにした中等部の「探究報告会」。6年間の積み重ねで学力、国際対話力、人間関係力を伸ばしていく。

下左/王子キャンパス。本館は創立170周年を記念して2005年に完成した。

下右/「探究報告会」ポスターセッション。疑問を持ち、調べ、ポスターにまとめて発表する。



上/生徒・教員と大学教授や企業・団体職員がディスカッションを交えて学び合う「グローバルウィーク」は昨年、一昨年とオンライン開催となった。右/ボランティアにも非常に熱心。地元王子駅付近の花壇を整備。



全員参加の探究報告会と グローバルウィーク

「英知をもって国際社会で活躍できる人間を育てる」を教育理念に掲げ、「国際教育」「福祉教育」「進学教育」の3本柱を教育方針として打ち出している。多彩な国際交流プログラムやボランティア活動の蓄積は、順天中学校・高等学校の大きな特色だ。

「本校が伸ばしたいと考える能力、資質は、自ら課題を発見し、解決策を見いだす思考力と自己発信力を伴った『創造的な学力』、異なる文化・価値観を持った国・地域の人々とも対話し理解につなげる『国際対話力』、多様な人とチームを組んで力を発揮できる『人間関係力』です」と片倉 敦副校長。

この三つの力を伸ばすために不可欠なのが探究型の教育プログラムだ。同校では以前から探究活動に力を入れてきたが、2020年からは、高1、高2生全員が取り組めるようにカリキュラムを整備したという。

年度末に開催され、今年で3回目となった「探究報告会」は、すべてオンラインで行った。配信されたプレゼン動画は、中2の理科探究も含めると500本以上! 「ガラクトースを選択的に分解する乳酸菌の探索」などの専門的な発表から、「動物殺処分」「LGBTQ」など、高校生の興味関心の在りかがうかがえるものまで幅広いテーマが並んだ。

同校の独自性が光るのは、プレゼン動画を一人最低5本視聴し、ルー

ブリック(あらかじめ設定し公開した評価基準)に従って生徒・教員全員で評価、全プレゼンの達成度を数値化している点だろう。

「互いに高め合って、なんとなく優秀を決めるというのではあまり意味がない。それぞれの発表について何ができていて何が足りなかったのか明確に評価し、そこから修正点を発見することこそが、次につながる『探究学習』だと考えています」

質量共に圧倒される探究活動プログラムが短期間のうちに整ったのは、2016年から実施している「グローバルウィーク」があったから。毎年開催されるこの行事は、同校生徒・教員、国内外の大学教授・学生企業・団体職員など、多彩な話題提供者が参加、立場を超えて互いに学び合う機会だ。講演ではなく、テーマに沿ったディスカッションがメイン。ここで触れるさまざまなことが、生徒の知的好奇心に火を付けているのだ。同校の探究学習は、生徒たちの未来を大きく切り開く教育活動といえるだろう。

School Data

〒114-0022
東京都北区王子本町1-17-13
☎03-3908-2966
<https://www.junten.ed.jp/>

- 創立 1834年
- 交通 ● JR京浜東北線、東京メトロ南北線「王子」駅から徒歩3分
- 東京さくらトラム(都電荒川線)「王子駅前」駅から徒歩3分

コアネットの目

世の中の課題を解決! 実践する機会が豊富▶ 語学力を生かした社会貢献活動にも取り組んでいる。英語学習環境が整っていないカンボジアの子供たちのために、オンライン英語学習指導や、クラウドファンディングで寄付金を集めて英語図書を送る活動を、生徒主体で実施している。国際貢献、社会貢献に挑戦したい受験生は是非一度、同校に足を運んでみてはどうだろう。



from the School

青田泰明校長

どんな時代でも希望を持ち、挑戦的に自らをアップデートできる人を育てます。

Homepage



ダイアログ＝対話型アクションでワクワクする授業を展開



上／ゼミ「Social Change 私達にできること」で、困っている人を笑顔にする方法を皆で考えた。
左／アニメやマンガ、さらには義太夫など、ジャンルにとらわれず「物語」を鑑賞するゼミも。



放課後に、その日に学んだことを復習するSラボ。自学自習が基本で専任講師がサポートする。



中学では朝読書の時間を設け、読書の経験を重視。中1、中2の「ビブリオバトル」も大いに盛り上がった。



右／中学校理科では実験・観察を通して科学的な現象を体で感じることを大切にしている。

左／普段の授業の中にプレゼンのスキルを磨く機会がふんだんに用意されている。



中学校の3年間で非認知能力を高く伸ばす

青田泰明校長の下、新しい教育の形を次々と打ち出している青稜中学校・高等学校。コロナ禍を逆手に取ってICT教育が一気に進んだことでも注目されたが、いま、「学校だからこそできる」教育の形を模索し始めている。青田校長が特に重視しているのが、中学校におけるダイアログアクションだ。

「教科教育だけであればオンラインで対応できる面もあります。しかし、学校は経験学習の場です。特に中学校では、子供たちが、楽しかった、面白かったと言いながら、自然と非認知能力（意欲、自己肯定感、社会的能力など）が育っていくようにしたい。そのために、ダイアログ、つまり対話を主とした取り組みに挑戦しています」

たとえば、昨年からスタートした新しい行事に、全員参加の「ビブリオバトル」（中1、中2）がある。自分のお気に入りの本についてプレゼンし、聞き手はディスカッションしながら講評。トーナメント式のバトルで生徒たちは大いに盛り上がった。また、2020年から同校の教育の柱となっている青稜のゼミは、まさに非認知能力を伸ばすダイアログアクションであり、探究型学習の一つの形だ。ゼミは、教員がそれぞれ自分の専門や興味関心のあるテーマで講座を開き、生徒は1年間ゼミ生として学ぶというもの。

「変態学（メタモルフオーゼへの誘い）」など学際的な講座もあれば、体育や音楽分野で1テーマを掘り下げていく講座もあり、実にバリエーションに富んでいる。実験・実習も含まれ、中学2年生、3年生が混在して学び合う。

青田校長が担当する「2030（ミライへの挑戦）」は、SDGsを切り口に、名だたる企業の協力を得て進めるユニークなゼミだ。各企業のSDGs活動について知るとともに、「ペットボトルがもつとまぐ分別できるゴミ箱を作ってみよう」「30年後のコンビニエンスストアはどんな店になるか？」といった課題に、グループごとにアイデアを発表する。2学年合同なので、生徒たちはグループ編成時から戦略を立て、討論し、最終的には良い発表だったねと拍手し合う。

「これを体験することは間違いなく自己肯定感につながり、意欲的に物事に取り組む力が養われます」と青田校長。青稜から巣立つ生徒の今後が楽しみだ。

School Data

〒142-8550
東京都品川区二葉1-6-6
☎03-3782-1502
<https://www.seiryō-js.ed.jp/>

- 創立 1938年
- 交通 ● 東急大井町線「下神明」駅から徒歩約1分
- JR京浜東北線・りんかい線「大井町」駅から徒歩約7分
- JR横須賀線「西大井」駅から徒歩約10分

コアネットの目

教員の強い個性が、生徒の個性をより引き出す▶ゼミ授業の一番の特徴は、先生方の個性が最大限に発揮されているところにある。先生方自身が、興味があり精通しているからこそ、深く自由な学びの時間となり、生徒の個性を引き出すことにつながっている。進学実績だけでなく、その後を見据えた力の育成に注力する同校ならではの取り組みといえるだろう。



Homepage



知的好奇心に火を付ける バラエティー豊かな放課後ゼミ

from the School

「一中一高ゼミ」統括責任者
桐生正史先生

「一中一高ゼミ」は教師と生徒が
共に学ぶ者同士として集う場。
生徒発のゼミも生まれています。



右/「高校生模擬
起業グランプリ」
の審査を通過し、
美顔オイルパック
を商品化。
下/中1のスキー
教室は新潟へ。



中1の総合学習では稲作を体験する。専用農場
で田植え、除草、稲刈りを通して行う。



上/中学生高校生
が混在する「一中
一高ゼミ」。自分
の興味に応じて自
由に受講できるの
で、皆、非常に熱
が入る。



9月に開催される「桜花祭」。コロナによって一
般公開中止が続いたが、生徒たちは対面で参加。



中2の研修旅行は京都・奈良・広島。歴史を探
訪する。中3では北海道自然体験研修がある。

左/「全日本高校
模擬国連」に出場。
核軍縮について他
校と議論を深めた。

中高の全生徒を対象に 教員が得意分野で開講

「知耕実学」(本物に触れる実学を通し
て知を耕す)の教育理念の下、「お米
の科学」や「醤油を科学する」などの
特色ある学びを展開している、東京
農業大学第一高等学校中等部。20
18年度からスタートした放課後ゼ
ミが、たいへんな活況を見せている。

教員たちが自分の得意分野で開講
するこのゼミは、「一中一高ゼミ」
と呼ばれる、中高を問わず、全生徒が
自分の興味関心に応じて自由に受講
できるのが特徴だ。1回完結のゼミ
もあれば、連続して行われるものも
あり、複数の受講も可能だ。入試広
報部の川崎剛先生は、ゼミ開設に
至る経緯を次のように説明する。

「以前から大学受験講座などは実施
していました。しかし、受験目的だ
けでは学びの器が広がりません。も
っと誰でも参加しやすい形式にして
生徒の知的好奇心を広げたい。全校
を挙げてその種をまこうと、先生方
が参加してくれました」

内容は硬軟いろいろ。例えば、英
語の科学雑誌を読み解き議論するゼ
ミや、趣味的分野を深掘りするゼミ、
合唱コンクールに向けて指揮法を学
ぶゼミ、フードロスをテーマに昆虫
食の可能性を追求するゼミなど、実
に多岐にわたる。「全日本高校模擬
国連」「キャリア甲子園」といった
外部コンテストへの挑戦の後押しに
もつながっている。

昨年度は、中2女子のペアがヤマ

ハ主催の「ボカロ甲子園」中高生部
門でグランプリを獲得。そのほかに、
「高校生模擬企業グランプリ」の審
査を通過し、融資を受けて高品質の
美顔オイルパックを商品化したチー
ムも。ちなみにパックの原料は、同
校の母体・東京農大の北海道キャン
パスで飼育されているエミューから
採れるオイルだそう。付属校の利
点を活かした研究成果である。

「成果はうれしいですが、何よりも
大切にしたいのは、面白そう、学
びたい」という純粋な興味と好奇心。
そして、自ら行動するという経験が
学びへの主体性を高めるのではない
かと期待しています。実際、授業で
は見えづらかった能力が、ゼミ活動
で好きなことに取り組む中でパッと
開花する生徒もいて驚かされます」

そう語るのには、「一中一高ゼミ」
の統括責任者を務める桐生正史先生
(地理歴史・公民科)。生徒一人ひとり
の芽吹きを促す「知耕実学」は、放
課後も健在だ。

School Data

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-33-1
☎03-3425-4481(代)
https://www.nodai-1-h.ed.jp/

- 創立 1891年
- 交通 ● 小田急線「経堂」駅から徒歩約15分
- 東急世田谷線「上町」駅から徒歩約15分
- 東急田園都市線「桜新町」駅から徒歩約20分
- 東急田園都市線「用賀」駅、JR「渋谷」駅から東急バスか小田急バスで、「農大前」または「農大一高前」下車、徒歩約3分

コアネットの目

都立立川国際中の前校長・幸田諭昭先生が新校長に着任、生徒と共に新たな挑戦へ▶今春、国公立大、難関私立大の合格実績が過去最高を更新した同校に、東京都立立川国際中等教育学校で校長を務めていた幸田諭昭先生が新校長として着任した。幸田校長のモットーは「凡事徹底」。生徒一人ひとりが掲げる夢の実現に向け、小さなことからコツコツと粘り強く続ける努力は、必ずや実を結ぶことだろう。同校のさらなる成長に注目だ。



Homepage



「自由を生き抜く実践知」を育む 付属校ならではの学びが特色

from the School

五十嵐 聡校長

中高合わせて2600名。大規模校の良さは、多様な個性や新しい考え方に出会えることです。



中1の「総合」では、探究型学習の土台を築く。情報リテラシーやパソコンの基礎、図書館の使い方や発表の仕方を学ぶ。調べ学習を基本とする授業を展開。



右/実験・実習から自然の本質を知る学びを重視する。理科実験は中学3年間で70回以上実施する。

左/部活動は盛んで、体育系と文科系を合わせて50以上ある。写真は、吹奏楽部の地域コンサートの様子。



中3の研修旅行は広島へ。「総合」の時間は、「平和」をテーマに事前事後学習を行う。各班の研究成果はプレゼンテーション大会で共有。

中学での探究学習を拡充 「自分」をつくる時間に

法政大学の建学の精神「自由と進歩」と「進取の気象」の学風を受け継ぐ、法政大学第二中・高等学校。

「2016年に制定された法政大学憲章では『自由を生き抜く実践知』という表題を掲げ、『地球社会の課題解決に貢献すること』を社会に約束しました。これは法政の使命です。付属校だからできる「学び」を通して、社会の課題に向き合い、『実践』の中で解決の道を探り、そのために必要な『知』を本校で身に付けてほしい」と五十嵐聡校長は語る。

その「実践知」育成のため、昨年度からスタートしたが、中1と中3に導入した「総合」だ。従来、中高大連携の情報システムが充実した学校図書館を利用し、各教科が任意に探究の学びに取り組んできたが、それらを一つの授業形態に統合し、ブラッシュアップした。

中1ではテーマを設けず、図書館とパソコンルームを舞台に、生徒各自の興味・関心事について、資料の調べ方、情報リテラシー、発表の仕方などを学ぶ。中2の学年には、「総合」を設定していないが、中1での学びを生かして授業を発展させる。さらに課外活動での共同作業が育む人格形成も重視する。

広島研修旅行が控える中3の「総合」では、「平和」という大テーマの下、班ごとに小テーマを決めて事前事後学習を行い、3学期にプレゼンテーション大会を開催する。

例えば昨年度だと、世界各国の視点から見た広島原爆投下や、戦前に毒ガスを製造する軍事機密拠点だった『地図から消された島』（広島県大久野島）などに関する発表があった。なかでも五十嵐校長が特に感心したのが、原爆投下のわずか3日後、廃墟と化した広島街に市電を走らせたのが、女学生だったのはなぜか、その背景を考察した発表だという。

「戦争と平和という、今につながる人類の普遍的な課題に、大人顔負けの探究心で向き合う姿勢が、とても頼もしく思えました」と五十嵐校長。中学での探究型学習が、思考力や表現力を育成する土台となり、高校や大学で、「自分は何をすべきか」「いかに生きるか」といった根源的な問いに向き合い、将来への目的意識を養うことにつながる。「実践知」という法政の薫陶を浴びながら、未来を生き抜く力が身に付く学校だ。

School Data

〒211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町6-1

☎044-711-4321(代)

<https://www.hosei2.ed.jp/>

●創立 1939年

●交通 ●JR南武線「武蔵小杉」駅西口から徒歩約12分

●JR横須賀線(総武快速線・湘南新宿ライン・相鉄線直通)「武蔵小杉」駅横須賀線口から徒歩約15分

●東急東横線(みなとみらい線・東京メトロ副都心線・東武東上線・西武池袋線直通)、東急目黒線(東京メトロ南北線・埼玉高速鉄道・都営三田線直通)「武蔵小杉」駅南口から徒歩約10分

コアネットの目

きめ細かな手厚い指導を実践する大学付属校 ▶ 大規模校でありながら、中1・2の段階では、1クラス30人以下の少人数教育で徹底指導。英数では分割授業、多くの実験を行う理科では1クラス教員2名のチームティーチングなどきめ細かく対応し、中学の段階で学びの土台を育む。先生の目が行き届く、手厚い学習環境も魅力の大学付属校だ。



from the School

広報部長・副校長 今井 誠先生

進化した「インターナショナル+サイエンス」の学びで、未来を生き抜く力を育てる学校です。

Homepage



「自律した学習者」の育成を目指し 進化し続ける“学び”を展開

圧倒的な英語環境のなかで学ぶ、インターナショナルクラス(IC)。帰国生も多く、グローバルな環境だ。



情報収集→分析→構築→表現という日頃から実践しているサイクルの過程や学びの成果を披露する「MITA International Festival」。



「君はどう思う?」という教員からのトリガークエスションから始まる相互通行型授業。新たな知識を吸収しながら、知的探究を刺激する。

海外大学を視野に 「世界標準」の教育を

2015年度に学校名を改称し、共学化して以降、大胆な学校改革に取り組み、「世界標準」の教育を先鋭的に進めてきた三田国際学園中学校・高等学校。その成果は、直近の大学合格実績にも如実に表れている。

2021年度の卒業生は、国公立大18名、早慶上理ICU49名、GMARCH88名。そして、海外大の合格者は58名となった(4月22日現在)。

「世界ランク上位の海外大を目指す生徒が年々増え、今年は医大、医学部の合格者も複数出ました。国際教育の成果というだけでなく、講義形式型の日本の大学よりも、研究しながら学ぶ海外の大学のほうが、本校の学びのスタイルと、より親和性が高いからではないかと思えます」

広報部長を兼任する今井 誠副校長は、そう分析する。

三田国際学園が考える「世界標準」の教育には、次の三つのキーワードがある。

① THINK&ACT

「THINK」は習得した知識を基に考える力。「ACT」は考えたことを行動に移せる力。THINK&ACTを実践する学びを通して、豊かな人生を創造する力を育む。

② INTERNATIONAL

価値観や文化などの教室にあふれるさまざまな違いのなかで、多様性を尊重し合い豊かな国際感覚を育む。そして自分なりに社会に貢献する可

能性を広げるための「使える」英語を身に付けていく。

③ SCIENCE

物事を考えるうえで必要不可欠な手段であり、現代の教養と捉えている「サイエンス」。科学的アプローチのサイクルを身に付けることで、好奇心を深い思考へと導き自由な発想を生み出す。

なかでも、国際感覚を育む同校の環境は圧巻だ。常勤のネイティブ教員29名を擁し、多様なバックボーンを持つ帰国生も、今年は70名以上入学してきた。日常的に英語が飛び交う環境のなか、英語4技能を身に付けるだけでなく、考えを論理的に組み立て、英語で伝えられるコミュニケーション力を磨いていく。

相互通行型授業と 充実したサイエンス教育

教育の土台として、同校が長年実践しているのが、「考える力」を伸ばす相互通行型のアクティブラーニングだ。教員からのトリガークエスション(思考の引き金となる問い掛け)↓仮説を立てて議論↓論点を整理して発表と、論理的思考のプロセスを重視した授業を全教科で行っている。また、全員が中1のサイエンスリテラシーの授業で「収集↓分析↓構築↓表現」といった科学的アプローチのサイクルを学び、中2・中3で取り組むゼミナール形式の授業で、身に付けたサイクルを実践していく。興味に応じた講座を選び、調査研究フィールドワークを行い、論文にま



上/サイエンス教育をリードする博士号を持つ教員たち。



右/メディカルサイエンステクノロジークラス(MSTC)は中2からスタート。「基礎研究α」では、研究テーマを決めて、中1で身に付けた科学的アプローチを実践していく。

6年間のロードマップ EDUCATION ROADMAP



進路指導や学校運営、教育プログラムなどのあらゆる場面で開
わり、実践的な英語力の定着を手伝う29名のIT (International
Teacher)

とめて発表。大学のゼミと同様の学
びを中学で体験する。
「興味・関心のあるテーマについて
自ら課題を発見して解決策を探ること
として、こんなに面白いんだと、子
供たちが自覚していきます。研究者
に必要な資質・能力を引き出し、育
てる取り組みです」
中学でのゼミナール形式の授業を
体験した生徒たちが高校に進み、国
際シンポジウムやアカデミックなコ
ンテストなどで研究成果を発表し、
表彰された例は枚挙にいとまがない。
「学ぶ環境を整えさえすれば、子供
はどんどん伸びる。あらためてそう
実感しました」と今井副校長。

**新たなクラスとコースが
今年度から本格始動**

そんな手応えを基に、この春、新
しいクラス(中学)とコース(高校)
を編成してスタートを切った。イン
ターナショナルサイエンス(ISC)、
メディカルサイエンステクノロジー
(MSTC)、そしてインターナシヨ
ナル(IC)である。

「改編の大きな特徴は、どのクラス
にも帰国生を配し、インターナシヨ
ナル環境を広げたことと、サイエン
スリテラシーやゼミナール形式の授
業など、サイエンス教育を充実させ
たことです」

こうした、三田国際学園のより進
化したインターナショナルとサイエ
ンスの要素をバランス良く併せ持つ
のが、新クラス編成の象徴ともいえ
るISCだ。

「基礎ゼミナール」の授業も、文理
問わず幅広い分野から選ぶことがで
きる。そして、理数系や情報分野へ
の意欲が旺盛な生徒は、入試形態や
成績を考慮し、中2からMSTCに
移行できる。その後は、個々が選ん
だテーマに即した研究活動を通して
研究者としての一歩を踏み出し、高
校で研究を深めていく。

一方、中学ICは、異文化理解と
高いグローバル意識の醸成を目標に、
圧倒的な英語環境が用意される3年
間。英語の習熟度別に2グループに
分かれ、帰国生などの英語を使いこ
なせる生徒は、英・数・理・社の授
業をオンライングリッッシュで進行。
英語初心者も、日本語による授業か
ら段階的にオンライングリッッシュに
移行し、3年間をかけて英語で思考
し表現する力を身に付けていく。

国際性と科学的思考の同時習得を
促す独自のカリキュラムで「自律し
た学習者」になり、進路の選択肢を
世界へと広げる。生徒たちが織りな
す多様な学びが、今後どのような進
化を遂げていくのか、目が離せない。

School Data

〒158-0097
東京都世田谷区用賀2-16-1
☎03-3707-5676
<https://www.mita-is.ed.jp/>

- 創立 1902年
- 交通 東急田園都市線「用賀」駅から徒歩5分

コアネットの目

生徒の学習に対する意欲と学ぶ力を引き出す最高の教師陣 ▶ 生徒の知的好奇心を刺激するために、年間3回の教員研修を行う三田国際学園。研修を通
して自校のミッション(使命)を再確認し、模擬授業も頻繁に行うことで、生徒の学習意欲を引き出すための授業力に磨きをかける。生徒と教師が一体
となって学びに向かう様子は、まさに教育理念「知好楽」を現代版として体現している。



世界で活躍できる経験と力を養う 新たな国際教育の形

from the School

国際交流教育部部長 大村 学先生
多彩なプログラムを用意しています。必要な“学び”を選び、世界で羽ばたく糧にしてください。



ホームステイをしながら現地校で学ぶオーストラリア研修旅行。中3全員参加。



高2が全員参加する北米研修プログラム終了後、リターンビジットが行われる。カルチャーデーで日本の文化を伝える。



右/20カ国以上、約400名の高校生がニューヨークに集まり、英語でディベートをする国連世界高校生会議に、代表者を派遣している。

左/GLPプログラムの様子。「エンパワメントプログラム」で留学生とディスカッションしているところ。「Eyes on the World SDGs」では世界の問題について考える。



組み合わせ自由なGLP 体験型プログラムを拡充

横浜市郊外の緑豊かな丘陵に広大なキャンパスを有する、山手学院中学校・高等学校。1966年の創立以来、独自に拓いた「国際交流の舞台」を提供し、生徒一人ひとりが世界と触れ合える、手厚い国際教育で知られる学校だ。

中核となるのが、「国際交流プログラム」。中3では全員がオーストラリア研修旅行に参加し、ホームステイをしながら、クイーンズランド州教育省と組んだプログラムを体験する。さらに海外チャレンジを希望する中3生には、ニュージーランド・ターム留学も用意されている。

高2では、1969年から続く全員参加の北米研修プログラム（2週間）を実施。北米各地の小さな町に分散し、現地の学校行事などに参加する。特筆すべきは、教員が直接北米各地に赴き、現地校との交渉からプログラムづくりまで行っている点だが、「ほかにも山手独自の特色がある」と国際交流教育部部長の大村学先生。

「研修旅行の3カ月後、今度はホームステイ先の高校生たちが来日（リターンビジット）し、山手生の家庭に滞在するのです。単発に終わらず、長期にわたって国際交流が続くので、現地の子たちと深い絆が生まれます。コロナの影響で実施を見送っていましたが、今年度には再開すべく、準備を進めているところです」

もう一つ、国際教育の一環として

中3・高1の希望者を対象に行っている「グローバルリーダープログラム（GLP）」もユニークだ。年間を通じて、10の特別講座を土曜日に開講。加えて今年度からは、SDGsに特化した体験型プログラム「国内GLPツアー」も新たにスタートする。

例えば、先進的なゴミ削減の取り組みで、世界の注目を集める山間の町・徳島県上勝町を訪れ、循環型まちづくりの仕組みを体験する。ジエンター平等の活動を推進する福井県鯖江市や、共同商店の存続という地域課題を抱える沖縄県国頭村を訪れるツアーも企画されている。SDGsを身近な問題として理解し、課題解決に必要な思考力を養う機会となるだろう。

海外研修を中心とした充実の国際交流教育と、自分の関心や目標に合わせて、講座や体験型プログラムを自由に選べるGLP。同校の卒業生には、国際舞台で活躍している人が多くいるが、その理由もここにある。

School Data

〒247-0013 神奈川県横浜市栄区上郷町460
☎045-891-2111
https://www.yamate-gakuin.ac.jp/

- 創立 1966年
- 交通 ● JR京浜東北根岸線「港南台」駅から徒歩12分
- 横浜市営バス45、111系統ほか「横浜女子短期大学前」下車、徒歩4分
- 神奈川中央交通バス大船～金沢八景線ほか「山手学院入口」下車すぐ

コアネットの目

◆ 今春の国公立大合格実績139名！ 多種多様な経験を通して花開く ◆ 今春過去最高の国公立大合格実績を挙げた山手学院。コロナ禍で海外研修が実施できないときも、代替のプログラムを模索し、学びを止めない取り組みを実現してきた。新たなプログラムも充実し、興味・関心のあることに挑戦できる環境が魅力。生徒のモチベーションを高め、確実に力を伸ばす注目の進学校だ。



from the School

浅井宣光校長

勇気と知恵を兼ね備え、国内外でたくましく生きる女性を育てます。

Homepage



「想像と創造」、探究と教科横断で
新しい価値を創造する力を付ける



左/オンライン英会話で世界の人から意見を聞き、調べ学習につなげていく。
下/GS主任の篠原弘樹先生。



伝統ある制服。特に爽やかな夏の制服は人気がある。



パナソニックとのアイデアミーティングで、アイデアをプレゼンし、フィードバックをもらい、その後、パナソニックの取り組みを聞いて質疑応答。これをオンラインで行った。



教科横断型の学びで課題の解決案まで持っていく。

可能性を広げる 世界とつながった探究

1892年の創立以来キリスト教主義に基づく女子教育で人間力と英語力の強化に注力してきた松蔭中学校・高等学校。一昨年より二つのストリーム制が開始。英語初心者向けの「ディベロプメンタル・ストリーム(DS)」と、インターナショナルスクールと日本の学校の良さを融合したセミインターナショナルスクールともいえるべき「グローバル・ストリーム(GS)」だ。GSでは毎日30分、世界各国の英語話者と1対1のオンライン英会話を行い、中2の3学期には自分で問いを設定するまでに成長する。世界の共通認識、あるいは想定外の意見を体感することで、グローバルな視野や考え方を身に付けていく。

GS主任の篠原弘樹先生は「変化の激しい時代には、今あるものを改良したり、考えて何かをつくり上げていく。想像と創造」が大切」と語る。そこで同校が実践するのが探究と教科横断を合わせたスタイルだ。テーマを設定し、オンライン英会話で世界の人々に話を聞き、そこから日本語で調べ学習してディベートやディスカッションを行う。それをまとめ英語と日本語で小論文を書く。草案ができたなら英語や国語の授業で、それぞれの言語で書くのだが、単なる和訳ではなく、言語ごとの特徴を考えながら表現するので、実質二つの小論文を書くことになる。これを

年5回行うことで着実に力が付く。例えば中2の1学期では「日本の出生率を調べて解決策を考えよう」がテーマ。保健や家庭科と英語の教科横断だ。オンラインで世界各国の人に「理想の子供の人数とその理由」を聞き世界の現状を認識、さらに日本や世界の出生率の問題を考えた改善案までまとめた。

企業とつながる探究もある。日本国際博覧会協会の教育プログラムに参加し、パナソニックとのアイデアミーティングを実施。さらに一歩踏み込み、生まれたアイデアから「米ぬかを使った環境啓発活動」を実施して動画を作成。また有馬温泉の宿に話を聞きに行き、「おもてなしとSDGs」という対極にあるものについて考えたり、暮らしのなかの疑問を探し出し、調べて考察する「日常のなぜ」という取り組みも秀逸だ。来年度からは世界探訪オンラインツアーもスタート。フィリピンやザンビアの同世代の子供と話し、その後校外学習など年間を通じた活動につながる予定だ。こうした学びが彼女たち一人ひとりの可能性を広げていくことは間違いない。

School Data

〒657-0805
兵庫県神戸市灘区青谷町3-4-47
☎078-861-1105
https://shoin-jhs.ac.jp/

- 創立 1892年
- 交通
 - 阪急神戸線「王子公園」駅から徒歩15分
 - JR神戸線「灘」駅から徒歩18分
 - 阪神本線「岩屋」駅から徒歩20分



キャリアデザイン×ICT教育で 21世紀型思考力を育成

from the School



丸本周生校長

「生きる力」を育み、社会で問題に直面したとき、諦めずに踏ん張れる人間に育てます。



上/iPadを使いこなし、企業について調べる探究の授業の様子。

左/産経新聞社の出前授業で行う新聞作成。取材中の生徒たち。



上/中3のMY STORY (自分史)で、自分の人生の転機を見つける。

右/今年度の企業探究全国大会(オンライン)の様子(博報堂チーム)。



右/2019年に立教大学で行われたクエストカップ全国大会で発表するクレディセゾンチーム。

二つの総合学習で 「生きる力」を育成

ICT教育の先駆者として知られる近畿大学附属高等学校・中学校。同校が「キャリアデザイン教育」に取り組み始めたのは2011年に遡る。「生徒はさまざまな可能性を秘めています。自らの可能性に気付く、何を学び、何をなす人になるかを自分で考える力を育成するためにキャリアデザイン教育に取り組み始めました」と話すのは丸本周生校長。

そこから「書く・まとめる・調べる・話し合う・発表する」活動を各教科に取り入れ、授業だけでなくフィールドワークによる体験学習がスタート。「どうすれば能動的に取り組める授業ができるか」と試行錯誤してきたが、14年にICTを導入したことで一気に加速したという。

20年からは中学で「総合表現」「総合探究」がスタート。これは積み重ねてきたキャリアデザイン教育と、ICT教育を融合させた新たな学びだ。それぞれ週1時間ずつ設定し、「総合表現」では「書く」「まとめる」力を育成。中1は文章トレーニングで基礎を徹底し、中2では産経新聞社の出前授業による新聞を、中3ではMY STORY (自分史) を作成。これまでの経験を振り返って、自分がどんな人間なのかを考えさせる。

「総合探究」では中1で自校教育・SDGs 探究、中2で人物探究、中3で企業探究と、段階的に「調べる」「話し合う」「発表する」力を育成。

中学3年間で、これまでの自分を見つめ、自らの可能性を探ることへとつなげていく。

同校では多様な進路希望をかなえるために三つのコース制を敷いているが、そこでも探究的学びは多い。医療系大学への進学を目指す医薬コースでは、系列医療機関と連携した本格的な体験実習プログラムや、医療に必要な倫理感なども学ぶ。国公立大学進学を目指す英数コースアドバンストや近畿大学に直結した英数コースプログラズについても、和歌山の水産試験場の見学や、農学部での実習などを用意。大学の湯浅農場では、年3回の実習で作物の育成から収穫までを体験する。こうして近畿大学がどのような研究をしている大学なのかを肌で感じていく。

「近畿大学が好きになって推薦制度で進学する生徒、近畿大学を知ることと他大学への目標を持って受験勉強に取り組み生徒など、さまざまな選択肢があります。それらの目標を自分の力で見つけることが、「生きる力」の育成につながります」

School Data

〒578-0944

大阪府東大阪市若江西新町5-3-1

☎06-6722-1261

https://www.jsh.kindai.ac.jp/

●創立 1947年

●交通

●近鉄大阪線「長瀬」駅から徒歩約20分

●近鉄奈良線「八戸ノ里」駅から徒歩約20分

※近大シャトルバス約10分
通学バスの運行あり(詳細はホームページ)

コアネットの目

キャリアデザイン教育と探究の充実で、進路支援力がさらに向上▶ICT教育先進校として名高い同校。近年取り組みを加速するキャリアデザイン教育が、自身の可能性を知り、自ら将来を描く力を培う素地となっている。探究的学びもさらに充実し、熱意ある教師陣の試行・挑戦が生徒たちを導く。



Homepage



新たな総合・探究学習が始動 創立者の理念「世界標準の教育」へ

from the School

丸泉琢也理事長

答えを聞くaskの学習ではなく、
情報を集め再構築するinquire
の姿勢を育みます。



左/甲子園球場のグラウンド12個分、16万㎡の敷地全体が、中学「総合学習」の舞台となる。下左/「総合学習」の教材候補のひとつである、敷地内の炭焼池。自然のビオトープと人工のビオトープの違いから、生物多様性について考える機会を設ける予定。下右/目指すのは、地域と共同でつくり上げる「総合学習」。授業での活用に合わせて行われた竹林整備は、三田市内で環境活動に取り組む団体の協力を得て進められた。



「STREAM」では、「RoboCup2021世界大会(オンライン)」総合2位の実績を持つ物理部のノウハウを活用。



敷地内で伐採された竹は、三田青年会議所の企画により、三田市役所のモニュメントに使用された。



伝統の全人教育を礎に 価値観を創造する学校へ

2022年、創立110周年を迎えた三田学園。この節目の年に、2030ビジョン「Creation of Future Values ~未来の価値観創造~」の下、オリジナルの総合学習・探究学習をスタートさせた。丸泉琢也理事長は、「校祖・小寺謙吉先生が志した世界標準の教育、グローバルリーダーの資質を育む教育のさらなる推進を目的としたものです。本校に受け継がれる文武両道の全人教育を基盤としながら、学校全体として新しい価値観を発信していきたい」と話す。

4年前から高校で先行導入している探究学習を進化させた新たな学びは、社会で生きる力を育むことに主眼を置き、「総合学習 総合探究」と「総合科」として展開する「STR EAM」[GCP (Global Competence Program)]の三つの柱で構成される。中学の「総合学習」では、「天然のビオトープ」である広大な校地を活用し、SDGsと関連させた体験型学習を実施。生徒の発案を起点に校外学習も連動させながら進め、中3は「三田市活性化プロジェクト」に取り組むことで、高校の「総合探究」につながる基礎を習得する。将来的には、日本各地における里山の課題解決に向けたモデルケースとなることが目標だ。「総合探究」では兵庫県立大学社会情報科学部との連携、卒業生の支援の下、グループ探究・個人探究へと深化させる。

二つ目の「STREAM」は、「STREAM」に、同校で活発な「Robotics」の要素を盛り込んだ科目横断型の学びで、思考力や創造力の向上を目的に中学のカリキュラムに組み込む。自走式ロボット製作やプログラミングに取り組みが、既成キットは使用しない。設計や制御系プログラミングを一から行う過程で小さな失敗を経験し、その解決策を見つけていくことで、観察力・適応力を高めていく。

国際的な資質を高めるプログラム「GCP」では、コミュニケーション能力をはじめグローバルリーダーに求められるコンピテンスを「多様性のある社会の中で自分の能力を発揮できる価値観や行動習慣」と定義。外国人教員によるオーリングリッシュの授業で、「正解のない問い」についてグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを重ね、中1〜高2の5年間で、英語で考えアウトプットする力を確立させる。教科学習をはじめ教育活動全体のネットワーク化も見据えたワクワクするような学びが切り開く、生徒と学校の輝かしい未来に注目。

School Data

〒669-1535
兵庫県三田市南が丘2-13-65
☎079-564-2291
https://www.sandagakuen.ed.jp/
●創立 1912年
●交通 神戸電鉄「横山」駅から徒歩1分

コアネットの目

グローバルリーダーを育む新たな総合・探究学習が始動 ▶ 抜群の教育環境と文武両道の全人教育で名高い三田学園中学校・高等学校。豊かな校地は、探究学習・総合学習の舞台としても生徒一人ひとりを支える。校祖が願ったグローバルリーダー育成メニューの充実にも期待したい。

滝川第二中学校・高等学校

Homepage



進化を止めない滝二の挑戦は 学びの多様なニーズに対応

from the School



中学主任 金子幸平先生

新コースは個々の生徒が持つ才能を的確に伸ばし、夢を実現させていきます。



左／人工芝のグラウンドを完備、部活動も盛んだ。



下2点／プログレッシブ数理探究コースでは数学的思考を鍛え、実験で柔軟な思考力を育む。



上／神戸大学でフェアトレード活動をしている学生から、フェアトレードについて学んだ。



右／I.U.E.知識実践コース、中1の3学期に行う姫路城での校外学習。ネイティブスピーカーに英語で姫路城を案内した。

個性と可能性を伸ばす 新コースがスタート

「至誠一貫、質実剛健、雄大寛厚」を校訓とし、毎年難関大学への合格者を輩出、部活でも全国区の活躍を続ける文武両道の滝川第二中学校・高等学校。昨年からの時代のニーズに応える三つのコースが開始した。

生徒の可能性を引き出す探究学習を中学から実践し、培った好奇心の芽を高校でさらに伸ばすことを目指し、難関国立大学への進学を見据えた「プログレッシブ数理探究コース」では週2時間の探究の時間を設け、まず前段階となるアイデアを育むことに注力する。「考えるきつかけをつくりたい。それも良質なきっかけであれば、生徒の思考の芽は育ちます」と理科の西島健先生。条件付き確率問題や必勝法がある問題を考察し、言語化することで思考を鍛える数学。理科では柔軟な思考力や実験の勘どころとなる技術などを深めていく。高い所から生卵を安全に落とす「エッグドロップコンテスト」など答えのない問いもある。

「I.U.E.知識実践コース」では、国際理解教育とオンライン英会話などを通して、語学力と異文化理解力を身に付ける。中1の1学期ではアルティメットフリスビーを取り上げ、英語で書かれたルールを理解させたものからスタート。3学期にはネイティブスピーカーに姫路城を英語で案内。またフェアトレード活動を

する神戸大学の学生の協力で、「フェアトレードとは何か」を学び、チラシ制作も行った。こうした学習の集大成が中3に行う約2カ月半のカナダ留学だ。「現地でも出会う多様な文化に共感できる下地をつくり、留学をきっかけに自分の進路を見極めてほしい」（英語科・三村裕美子先生）。

School Data

〒651-2276 兵庫県神戸市西区春日台6-23
☎078-961-2381・2385
<https://takigawa2.ed.jp/>

- 創立 1984年
- 交通
 - JR「西明石」「明石」駅・山陽電車「山陽明石」駅から神姫バス「平野小学校前」下車、徒歩約8分。「環境西事業所前」下車、徒歩約10分
 - 神戸市営地下鉄「西神中央」駅から神戸市営バスで「西体育館前」下車、徒歩約5分
 - * 登校時直通バス JR「西明石」「明石」駅と山陽電車「山陽明石」駅から「滝川第二中・高前」まで、所要約25分

同じく新設された「エキスパート未来創造コース」では、多岐にわたるアプローチを行うことで自分の得意を見つけていく。「こうした学びは高校でも総合学習の授業という枠に収めず、校外活動などに幅広く発展させていきます」（金子幸平先生）。

開校以来、「教育は感動」を motto に学ぶことの楽しさと素晴らしさを生徒と教員が共有してきた同校。一人ひとりの関心や得意を伸ばせるコースがあり、多くの感動体験ができるよう見守る先生たちがいる。それが将来、社会で活躍できる基礎をつくる。

コアネットの目

「感動体験」の積み重ねと進化し続ける学びが、進学実績の伸びに結実▶時代を先取りする先進教育が近年の進学実績にも結び付く同校。部活動で活躍する生徒も多い。探究学習プログラムも中学から豊かに展開され、始動した3コースでも日々丁寧に実践されている。多様な活動がある国際教育にも注目したい。



from the School

社会科 奥 修輔先生

自分の進むべき道を探す生徒を、
教師全員が応援します。

Homepage



学内外と連携し、自由に学ぶ 多様な探究で「人間力」を養う



左／担当教科の垣根を越えて教員が開催する「探究ゼミ」。生徒は興味のあるゼミに参加する。

下2点／「探究プロジェクト」では起業体験も。実際に生徒が作った商品を生徒自身が販売するところまで行う。



上／28グループがボスターセッションを行う探究EXPO。生徒たちは付箋に感想を書いて貼る。

右／同校は折に触れ先生に会いにくる卒業生が多い。



生徒たちの可能性広げる 雲雀丘の探究

1949年の創立以来、「孝道」の精神と「やってみなはれ」というチャレンジ精神を教育理念とする雲雀丘学園。進学校としても注目を浴び、今年も国公立推薦が24名、なかでも大阪大学8名は全国一。244名の卒業生の45・5%に当たる111名が京都大学をはじめとする国公立大学に現役合格した。これは受験に対応できる学力だけでなく、実社会で「生きる力」を育んできた雲雀丘の探究プログラムの成果だ。

同校では「多様な体験が生徒のキャリア形成へとつながる」という考えで早くから探究教育を進めてきた。2019年度にはコース制を廃止し、探究学習重視に舵を切り、「授業の探究」「探究プロジェクト」「探究ゼミ」を三本柱とした。

まず「授業の探究」は中2から高1まで週2時間。中2では半年かけて修学旅行のコース決めを生徒自身で行う。プレゼン、投票によって6コースを決定するが、生徒はクラスに関係なく希望するコースを選べる。中3では新聞出前授業を受け、サントリのさまざまな活動を調査して本物さながらの記事にまとめた。

「探究ゼミ」は教員がオリジナルテーマあふれるゼミを展開。昼休み・放課後・夏休みなど実施期間も自由で、テーマに興味を持った生徒たちが、学年の垣根を越えて集まる場となっている。Eテレの「昔話法廷」を題

材に法律を学んだり、缶とペットボトルとボトル缶で、それぞれコーヒールを商品開発したり、株の売買ゲームを行うなど実に多様な内容だ。「探究プロジェクト」は企業や大学と連携して実施する課外授業。高1・高2はNPO法人と協力した起業体験プログラムを実施。会社に見立てた生徒のグループが、与えられた予算で商品を企画・商品化し、校内で販売した。この体験を通して生徒は、ものづくりの多くの工程、素材や機能性、コストなどをすり合わせることを学び、各教科で学んだことが社会で綿密につながっていることも理解したという。こうした取り組みが評価され、同校は「第14回キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」を受賞した。

「これが私たちの目指す生徒たちの伸ばし方。最終目標は生徒たちが社会に出たときの可能性を大きく広げることです」と話す奥 修輔先生。学校が多様なチャンネルとプログラムを用意すれば、生徒はそれに旺盛な好奇心で応え、想像を超える成長を見せる。理想の学びの姿がここにはあった。

School Data

〒665-0805

兵庫県宝塚市雲雀丘4-2-1

☎072-759-1300

https://hibari.jp/

- 創立 1949年
- 交通 ● 阪急宝塚線「雲雀丘花屋敷」駅から徒歩約3分
- JR宝塚線「川西池田」駅から徒歩約12分

コアネットの目

「やってみなはれ」精神を受け継ぐ探究プログラムが進学にも生きる▶近年、国公立大学への進学実績が躍進する同校。探究プログラムでは、生徒たちが知的好奇心に突き動かされ、学びに没頭しており、目を見張る成長を見せる。「本物の学び」を体感する生徒の様子を、学校イベントで確かめていただきたい。

「社会」と「教育」の距離を縮めるために

社会で生きる力を具体化する デジタルテクノロジーの学び

コロナ禍の教育現場では、オンライン授業などでデジタルテクノロジーの活用が急激に進みました。デジタルテクノロジー導入で、

教育現場はどのように変化していくのか、その可能性とは？

株式会社ドワンゴの設立者で、角川ドワンゴ学園の理事として、2016年に開校したネットの高校・N高等学校などの運営やカリキュラムの開発に携わる川上量生さんに、コアネット教育総合研究所のEdTech推進・導入サポートを担当する岡田育也さんがお話を伺いました。



EdTechを活用した 新しい学びの形

岡田 2019年12月に文科省が「GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想」を打ち出し、公立校ではEdTech導入・活用の具体案が見えてきました。その後、すぐにコロナの感染拡大があり、私立学校でも児童生徒一人一台の学習用端末の配備やオンライン授業が一気に進んだわけですが、学校現場にはまだ抵抗や戸惑いが多くあります。EdTech導入の現状について、川上さんはどのように捉えていらっしゃいますか。
川上 問題は二つあります。一つは、教育そのものにデジタルテクノロジーを活用しなければいけない問題。もう一つは、社会がデジタルテクノロジーを求めているのに、教育現場でそれを子供たちに教えていないという問題です。つまり、「社会」と「教育」の距離を縮めることが必要だと考えますが、今はどちらかというと教材のデジタル化など技術面ばかりが目立って、既存の教育制度のなかで議論され、初歩的なところでつまづいているように見えます。

岡田 たしかに私自身、公立校や自治体、私立学校でEdTechのサポートに携わっていますが、まずは端末やツールを導入し、それからどう使しましょうという段階の学校も多いですし、社会で求められるITスキルを意識して養成している学校は少ないのが現状です。EdTechに対する先生方の反応やスキルもさまざまなので、議論になります。

ネットの高校・N高等学校(以下N高)は、EdTech活用を前提とした学校運営をされていますが、実際、先生方はどのように対応し、活用されているのでしょうか。

川上 N高は2016年設立の若い学校で、母体の一つはIT企業 株式会社ドワンゴです。IT技術を使うのは当然で、新任教員向けの初期研修も設定していますが、必要なことは基本的に自分で調べて学んでいきます。例えば広く普及している教育ツールなども、N高の教職員たちは自発的に勉強し、自分でカスタマイズして使いやすくしています。IT技術は専門の人が担当するものとしていましたが、今は誰もが自分でやる状況ができています。うちは新卒の教職員が多いこともあり、新しく学校文化をつくっているところでは、

岡田 教科横断型のカリキュラムでSTEAM教育を組み立てようとする際、現教員では難しいので外部人材を登用して行うことがあります。しかし、外部人材にお任せの状態になると、内容の精査が不足することになります。

川上 実際に子供たちと向き合う教員が技術面か



通学プログラミングコースの授業の様子。

ら使い方で自分たちでやらないと、狙ったものにならないでしょうね。

うちでは現実の社会で役立つことを最優先にしているのが、プログラミングなども教育用のプログラミングツールではなく、実社会で使われている言語を選択しています。幼児教育ならともかく、中学生の学びは実践的であるべきだと思います。授業で使うソフトや、学内でのコミュニケーションツールも、学校専用のものでは生徒のスキルにならないので、ビジネスの場で標準的に使われるAdobe Creative CloudやSlackを使用しています。

岡田 「学びのための学び」にならないようにする、生きたITスキルを身に付けるということですね。今、伺った話は、文科省が新学習指導要領で打ち出している「生きる力」学びの、その先へ「」にもつながるように思います。

川上 「生きる力」を、ITの技術を使って具体化しましょうということですね。

個別最適化学習と「デジタルコミュニケーション」

岡田 一方で、既存の教科学習をEdTechツールを活用する形に置き換えて効率化を図ることが、一般の私立学校でも広く行われるようになってきました。ただ、AI型の学習ドリルなどを活用したときに、取り残される子をどうするのか、どこまでカバーできるのか、疑問視する先生もいらっしゃると思います。川上さんは、そのあたりについてどのようにお考えですか。

川上 現実の教育で取り残されている生徒がたくさんいるのに、新しい教育で取り残されてはい

けないというのは、そもそも矛盾だと思います。取り残される子供のパーセンテージが減ることが大事で、そのためには一斉授業ではなく、個別最適化された学習を目指すべきだと思います。

岡田 個別最適化された学習の一つの方法が、AI型の学習ドリルです。本人の学習到達度を分析して、いろいろな角度から問題を出していく。心配されるのは、主体的に取り組めるかという点でしょうか。

川上 主体的な学習はなかなか難しい。でも、これも一斉授業だからといって主体的な学習が身に付くものでもありません。

岡田 常に課題となるところです。

川上 通信制であるN高のオンライン授業でも、生徒のモチベーションの維持は常に課題です。いろいろな実験も行っていて、例えばZoomを活用した「ネット学習室」というサービスを始めています。これは、自分の勉強予定時間に「ネット学習室」に入り、カメラを作動させて、自習室に入っているほかの生徒と一緒に勉強する環境をつくるものです。

岡田 仲間の存在を感じながら学習に取り組める環境が、「やるぞ」という気持ちにつながるんですね。一般の学校にも自習室はあり、主体的な学



川上量生 さん
Kawakami Nobuo

学校法人角川ドワンゴ学園理事

1968年生まれ、大阪府出身。京都大学工学部卒業。1997年株式会社ドワンゴ設立。通信ゲーム、着メロ、動画サービス、教育などの各種事業を立ち上げる。株式会社ドワンゴ顧問、株式会社KADOKAWA取締役、スタジオジブリプロデューサー見習い。



Zoomを使った授業では、ディスカッションも行う。
写真提供/N高等学校・S高等学校 (前ページの1点も)

習のために活用している例もありますが、もし、それがリアルには無理な状況だったとしてもIT技術で可能になる。これもEdTechの一つといえるでしょう。

川上 あと、懸念があるとしたら、コミュニケーションの問題だと思えます。学校の休み時間に友達と話をしたり、先生とも授業とは違う雑談をしたり。目の前にいるとスムーズにコミュニケーションをとれますが、それもネットでいいじゃないかという時代になっています。すでに子供同士の会話はLINEで行われています。ネット空間だけではコミュニケーション力が身に付かないというのは、正しい場合もあるかもしれないけれど、正しくないことも増えています。

社会性を表す言葉として、「コミュ力」という言葉をよく使いますが、これからの子供たちに期待されているのは、むしろ「デジタルのコミュ力」です。例えば、町のパン屋さんでアルバイトするとしても、これからはネット上でお客様と売買のやりとりができないと、コミュ力がないということになります。「面接や英会話の練習もオンラインが多くなっています」。

岡田 今後、コミュニケーション力は、オンライン・オフラインそれぞれの場面で求められる能力が違っていくという視点で、捉えていく必要がありますね。
川上 同じコミュニケーションでも、オンライン

ならば時間と場所の制約を受けません。N高の部活動、例えばeスポーツ部、ダンス部、研究部、政治部、投資部などでは、同じ嗜好を持つ友達と、広くオンラインでつながることができそうです。

興味関心の掘り下げが 真の主體的な学びにつながる

川上 もちろん、オフラインでの体験も重要です。N高でも職業体験やスタディツアー、ワークショップなど、独自の体験型のプログラムを多数用意しています。例えば「山口県長門市向津具半島でイカ釣り漁を学ぶ」では、1週間イカ釣り漁船に乗りました。実際に体験すると、いろいろなドラマが生まれますよ。

部活動でいえば、研究部のアドバイザーには各分野の研究者・クリエイターに協力していただき、生徒たちは大学・大学院レベルの研究テーマを深めていきます。自分の研究や作品について各界トップレベルの人に講評してもらおう体験は、生徒たちの人生を変えるものになるのではないかと期待しています。

岡田 そうした大学のゼミのような探究型の学習は、私立学校でも取り組んでいるところが増えていきます。

川上 単純に考えて、今の子供たちの勉強時間は、親世代と比べて格段に長くなっています。その時間が、より偏差値の高い大学の受験を突破するためだけのもの、つまり社会で役に立つものでないとしたら、これほど不幸なことはありません。同じ時間を費やすならば、必要な学習はIT技術によって効率化し、本当に社会で求められるITスキルを身に付け、後は自分の好きな学びに使うほうが幸せでしょう。

最近、大学入試も総合型選抜などの流れが出てきているのはすごくいいことで、多様な学びへの自由が生まれるべきです。

岡田 中大連携、高大連携の学びや、企業とコラボレーションするような実践的な学びの場はもつとあったほうがいいのかもしれませんが。子供たちの興味関心が引き出されたり、自分が好きでやっていることに自信を持って、将来やりたいことに結び付けたりするには、何かきっかけが必要だし、タイミングも大事でしょう。だから、オンライン・オフラインともにたくさんの仕掛けを用意したほうがいい。この方向性は、どの学校においても同じだと思います。

川上 結局、主體的な学びというのは、自分がやりたい勉強をすることであり、好きなテーマで研究するとき生まれるものです。デジタルテクノロジーは、その可能性をより大きく広げます。

岡田 その点から考えてもEdTechの導入は必然です。従来型の教育から脱した、EdTechによる個別最適化された学習、一人ひとりの興味関心に従った多様な学びは、同一線上にあるものなのでしょう。

川上 新しい教育を進めようとする学校がたくさん現れてきたのは、僕たちにとっても心強いことです。みんなで頑張っていきましょう。



岡田育也 さん
Okada Ikuya

コアネット教育総合研究所
新教育推進室副室長
EdTech推進・導入サポートを担当。

城北中学校・高等学校



from the School

清水 団教頭

東大・京大志望者の多くは変更することなく出願しました。「迷わず挑戦」が浸透しています。

Homepage



ICT環境の活用を通してつかむ「やりたいことができる」実感



上/冬期講習時に清水教頭が行ったプログラミング講座。中3から高3の多くの生徒が参加した。

左/アクティブラーニングの専用教室「iRoom」。生徒たちは多彩なツールを使いこなし、積極的に課題に取り組む。「判断力・思考力・発信力」を自ら育む。



ICT教育の環境が整う。授業中だけでなく、校外活動や研修旅行でもフル活用する。



右/広大なキャンパスと充実した設備のなかで、クラブ活動も盛んだ。クラブ数は40以上。

左/文化祭実行委員が中心になり、生徒主体で開催される文化祭。一大行事だ。



生徒の創造性と表現力の幅を広げるICT教育

城北中学校・高等学校は、生徒数が1800名を超える規模の大きな男子校である。「人間形成と大学進学」を教育目標に掲げている。2016年から3カ年計画でICT環境を整えてきており、今年度で全生徒が端末を持つ形となった。

「他校ではPCかタブレットを購入または貸与するのが一般的ですが、本校はその両方です」と語るのは清水団教頭。

「学校の備品としてノートPCとタブレットをそろえ、生徒が自身の端末を学校に持ち込んで使うことも許可しています」

使用するケースに合わせて、使いやすい端末を選べるようにしている。また、生徒の各家庭にもWiFi環境を整えてもらっている。こうしたICT環境が、コロナ禍での授業で功を奏したことは言うまでもない。しかし、目指すICTの活用は、生徒一人ひとりが「自分のやりたいことを実現すること」が本意だ。

「中高生の場合、やりたいことがあるけれども、時間がなくて、調べきれない自分には調べる能力がないと、諦めてしまうことがよくあります。それをなくそうと思ったのです」

かつて清水教頭は米国での教育研修で、プログラミング言語「Scratch」を開発したミッチェル・レズニック教授に「知識の習得でやりたいことが生まれてくるのか、や

りたいことがあって知識が備わっていきのか」と尋ねたことがある。レズニック氏は後者だと答えた。

清水教頭はそれが深く印象に残り、「やりたいことを見出し、それに取り組める環境づくりをしたい」とICT化を推進したという。

生徒たちはその思いに応えるように、ICTを使いこなしている。例えば、オンライン開催となった昨年度の文化祭。研究発表の録画配信をはじめ、対談、演劇、音楽のライブ配信と多彩なプログラムがホームページを彩った。クオリティも高かったという。

「そのような創造性、表現力を大切にしていきたい。その体験は、生徒たちの進路決定、あるいは将来の夢の実現への動機付けになりますから」

今年度から同校は、カリキュラムの一部を変更する。1時間目の授業の開始を9時と遅くし、その前の時間帯を自由な学びに充てる。それぞれが自分の好きな学びを追求する時間だ。そこから何が生まれてくるのか、城北中学校・高等学校の新しいチャレンジに注視していきたい。

School Data

〒174-8711
東京都板橋区東新町2-28-1
☎03-3956-3157
https://www.johoku.ac.jp

- 創立 1941年
- 交通 ● 東武東上線「上板橋」駅から徒歩約10分
- 東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅から徒歩約20分

コアネットの目

最後まで諦めずにやり抜くチャレンジ精神を育む▶多数の難関大学合格実績を誇るのは周知の通りだが、同校の素晴らしい点は、結果だけでなく目標に向かってチャレンジする精神とそれをサポートする環境があることだ。今年の東大クラスの受験生は、一人も途中で志望校レベルを下げることなく最後まで挑んだ。やりたいことが実現でき、それを先生方が丁寧にサポートしてくれる、そんな成長の場が整っている。



教育と科学技術の融合を図り 先進の教育環境を生徒に提供する

from the School



吉田宏一 中学教頭

中学生のうちに、生徒が自分なりになんらかの目標を見出せるようにと考えています。



河合孝允 校長

下/昨年度実施されたプログラミング講座の様子。生徒たちは熱心に取り組む。



右/アクティブラーニングの授業では、ICTを使いこなし、生徒たちは主体的に学んでいる。



下/中1の林間学校は、はじめての宿泊行事。火おこし、ティビーづくり、ネイチャークラフト、ネイチャートレイル散策などを体験する。



右/理科の授業では実験を通して、サイエンスリテラシーを学ぶ。



左/中2で行う日光山研修。座禅や写仏などを行い、自分自身を見つめる体験になる。

中高の教育連携を深める 「国際先進コース」一本化

10年先、20年先の社会を見越し、教育の在り方を考える駒込中学校・高等学校の河合孝允校長。
「本校はEdTech(エドテック)を活用した教育ビジョンを推進しています」と語る。EdTechとは、Education(教育)とTechnology(技術)の融合を意味する。ICTの活用を含む近未来型の学習環境づくりに、同校は5年前から積極的に取り組んできている。

「昨年春、ベンチャービジネスを立ち上げ、社長に就任して卒業した女子生徒がいました」と河合校長。そうした環境づくりの成果といえる。
一昨年度から、中学のコース編成が変更になった。従来は「本科」と「国際先進コース」に分かれていたが「国際先進コース」に一本化された。「高校で選択できる『理系先進コース』と『国際教養コース』とつながりを持たせ、生徒が学びの目標をより捉えやすくするため」と説明するのは吉田宏一 中学教頭。

このコースは、STEAM教育(数学に情報工学等を加味した教育)を基盤とする「理系先進」、イメージョン教育とグローバル教育を基盤とする「国際教養」、高校の両コースの要素を併せ持つ内容になっている。
「STEAM教育と併せ、プログラミング教育にも力を入れています。本校では創造性や表現力も重視してSTEMにアートの要素を加えたS

TEAM教育の充実を図ります」と吉田教頭は言う。外部の企業の協力によるプログラミング教育もあり、それらは放課後の特別講座として開講されている。
「中学のプログラミング講座は中1から中3までが対象です。Scratchというソフトを使いますが、熱心に取り組む生徒が多い。今年度は30名の募集に40名を超える応募がありました」

このような先進的な取り組みを続け、高校の「理系先進コース」においては、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の申請もしている。
その一方、同校は300年以上の歴史を持つ仏教校であり、「心の教育」も大切にしている。生徒一人ひとりの個性に光を当てる教育は、天台宗の教え「一隅を照らす」に由来する。己の利にこだわらず、他者の利を思う「利他の精神」も重んじる。

「中学では『感謝の心』を大切にしています」と吉田教頭。それを表現できる生徒には、自己肯定感と向上心が備わるといえる。心の成長も次世代人材に欠かせない素養である。

School Data

〒113-0022
東京都文京区千駄木5-6-25
☎03-3828-4141
https://www.komagome.jp/

- 創立 1682年
- 交通
 - 東京メトロ南北線「本駒込」駅から徒歩約5分
 - 東京メトロ千代田線「千駄木」駅から徒歩約7分
 - 都営三田線「白山」駅から徒歩約7分

コアネットの目

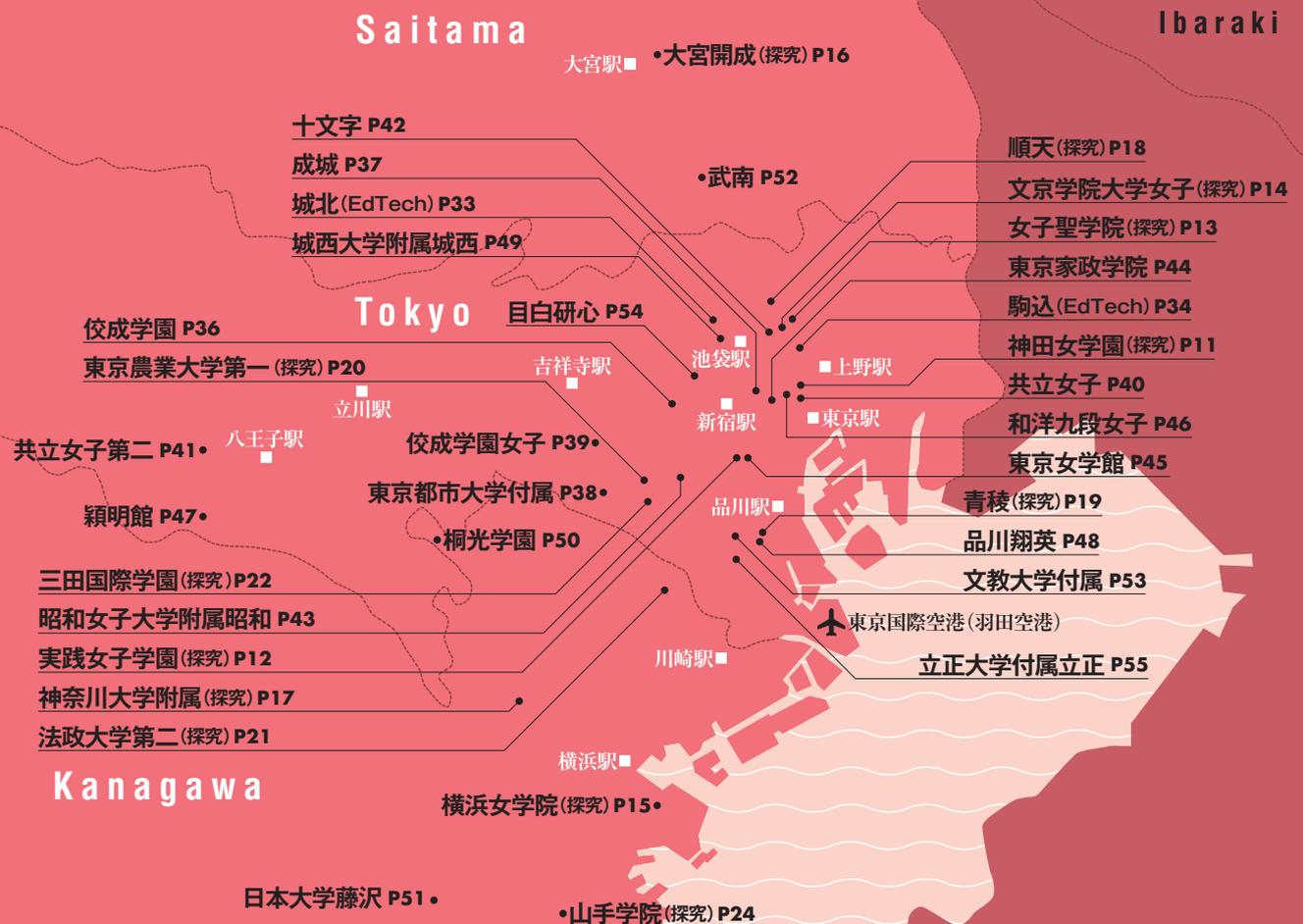
海外大学へも多数合格！ さまざまな経験で、自身の進路を切り開く▶高校では最先端のSTEAM教育を行う「理系先進コース」、世界で活躍する生徒を育てる「国際教養コース」、多様な進路に対応したカリキュラムがある「S(特S)コース」の3つに分かれる。今年度は海外大学合格者6名をはじめ、国立17名、早慶上理ICU52名の実績を出している。今後も同校に注目が集まりそうだ。

East

首都圏

東京都、神奈川県、埼玉県

私立ならではの教育が魅力の首都圏の中高一貫校35校





国際社会で「使える」英語力を 中高6年間でじっくり育成する

from the School



広報部長 南井秀太先生

大らかな校風の下、男の子が秘めている資質・能力をじっくり着実に育てる学校です。



上/中学卒業までに全員が英検[®]準2級取得、高校3年までに準1級レベルの力を付けることが目標。
右/中1のモンゴル異文化体験プログラム(コロナの状況がよくなれば再開予定)。



中1のフィールドワークでは自然体験を行う。



高校アメリカンフットボール部は、2020年全国大会優勝を勝ち取った強豪だ。



上/シンガポールでの教員経験を持つ、英語科の久保田祥弘先生。
右/iPadを利用して生徒同士で意見を交換したり教え合ったりする機会が増えたという。



フィールドワークで見つけた自分の問いと、活動の進め方について文化祭で中間報告を行う。

男子の成長に即した 実用英語教育を展開

建学の精神に「平和な社会の繁栄に役立つ若者の育成」を掲げる佼成学園。中学校では国際理解教育に注力し、モンゴルをはじめとするアジア諸国など、世界的ネットワークを活用した、独自性の高い研修旅行プログラムで知られる男子校だ。

2021年度には、「グローバルコース」を新設。海外・国内研修を柱に、グローバルコミュニケーション講座やオンライン英会話など、国際教育に特化したプログラムを実施し、真のグローバルリーダーを育成する。

同コース以外(アドバンストクラス、マスタークラスの英語教育も非常に手厚い。今年度から中学の英語教育のひとつである「プラエ」(Practical English)を、従来の英語ネイティブの講師による授業を軸に、海外研修歴のある日本人教員が受け持つ授業形式へと刷新。その意図を広報部長の南井秀太先生は次のように説明する。

「中1男子は、精神的にまだ幼くて引っ込み思案な生徒もいます。いきなりネイティブスピーカーに教わるのは少しハードルが高く、生徒と教師のコミュニケーション不足が生じやすいのが課題でした。そこで、最初は日本語も織り交ぜながら、成長に合わせた形で、じっくりと実用英語の土台を築かせたいと考えました」

併せて、週3時間だった「プラエ」を週4時間に増設。習熟度別にクラ

スを二分割し、少人数授業を行う。担当の久保田祥弘先生は、同校からシンガポールの日本人学校に向向した経歴の持ち主。

「多民族国家のシンガポールでは皆発音の正確さなど気にせず、自分の考えを堂々と英語で話します。英会話を学ぶうえで大事なものは、英語でこれを話したいんだ、という意見を持つこと。ディスカッションやプレゼンテーション、エッセイライティングなどを授業に取り入れ、自分の考えを伝えることができる発信力身に付けさせたいですね」

全員が参加する中2のフィリピン・セブ島への語学研修(2週間)は、個別指導をメインに1日8時間のレッスンを受講。発話力をぐんと伸ばす絶好の機会となる。

「目標は、中学の3年間で全員が英検[®]準2級以上を取得すること。さらに、高校3年間で準1級以上の取得を目指します」(久保田先生)

中学入学時に英語未経験でも、高校卒業時にはグローバル社会に貢献できる、使える英語力が身に付く教育。佼成学園は、英語を学ぶ、その先にある未来を見据えて本気で取り組んでいる。

School Data

〒166-0012
東京都杉並区和田2-6-29
☎03-3381-7227
<https://www.kosei.ac.jp/boys/>

- 創立 1954年
- 交通 東京メトロ丸ノ内線「方南町」駅から徒歩約8分

コアネットの目

学校全体が主体的な学びにあふれる元気な男子校▶佼成学園には主体的な学びがあふれている。活発なICT活用や探究プログラムを通して、生徒たちは自ら学ぶ力を発揮。先生方も生徒に負けておらず、より良い授業・取り組みのための研究活動に励み、ディスカッションを重ねている。工夫に満ちた授業で学ぶ生徒たちの姿は必見。ぜひ学校説明会に足を運んでみてほしい。

成城中学校・成城高等学校

Homepage

文武両道の伝統ある男子校
土台を固めながら着実に成長する6年間

from the School



岩本 正校長

体験型の活動が多いのも本校の特色。夢中になれるものが見つかるよう願っています。



上/国語科の吉光樹先生。「点検読書」に取り組んでいる。左/「点検読書」の授業。スピード重視で本の概要を正しくつかむ力は、大学生、社会人になっても役立つはずだ。



「点検読書」の発表は司書の先生にも聞いてもらう。図書館の企画や展示もますます充実。



江戸時代、新宿近郊の農家がこぞって栽培していたという内藤とうがらし。この伝統野菜の栽培に挑む体験型授業。

右/クラブ活動も多彩。体操部は中高共に関東大会に出場した実績がある。下/伝統の臨海学校。中学1年生が参加し、2年生が指導補助を行う。



中3～高2が対象の「エンパワーメントプログラム」。留学生と共に英語に親しむ5日間だ。

中1からの積み上げで
自己表現力を伸ばす

1885(明治18)年創立の男子校。臨海学校などの伝統行事を継承しつつ、生徒一人ひとりに向き合う新しい時代の教育に積極的に取り組んできた。2018年には高校募集を停止し、昨年度から完全中高一貫校に。同年、新校長に就任した岩本正校長は、「今まで以上に独自性を高め、

中高6年間をより有効に使って教育を進められるようになりました」と語る。教科カリキュラムの見直しや、高3でのコース分け廃止、選択授業の増強などにより、大学入試への対応が手厚くなったことがまず大きな変化だが、中学での探究型学習にも力を入れられるようになったことが大きいという。

「自己表現力を育む探究活動の下地を中1からつくっていく、中3の『国語表現』で行う論文作成、プレゼンにつなげていきます」

探究活動の土台として中1で設定されている授業が「数学統計」だ。高校数学の内容を一部切り取り、統計処理を学ぶ。コンピュータを使った実技もあるので中学生男子の多くは興味津々。データの分析と利活用の方法を身に付け、楽しみながらその重要性を意識させていく授業だ。

一方、中1の国語の授業に盛り込まれているのが、図書館と協働する「点検読書」だ。教科書で扱った説明文と関連するテーマの本の内容を、短時間でチェックするグループ活動。

1班5人が、人数分の本を6分程度で回し読みし、班ごとに「これだ!」という1冊について発表する。読むというより、目次や概要の点検になるわけだが、他班の発表を含めると1回の授業で10冊以上の本に触れることに。この授業が年7回、長期休暇中の課題書を加えて年間100冊の本と出会える仕掛けだ。大量のインプットと、口頭による即時性のあるアウトプットがポイントだ。

「『点検読書』のための選書は図書館司書の先生にお願いしました。おかげで興味関心を持って本を借りる生徒も増えました」と国語科の吉光樹先生。

好奇心を広げ、自己表現にも慣れ、中2からは本格的に探究活動に入る。「中1の成長度合いは大きくて、発表の内容も格段に良くなりました。最初は、声も出ない顔も上げられない状態でしたから」

早い段階で下地をつくるという岩本校長の狙いどおりであろう。今後はICT教育の新たな展開も計画している。常に注目を集め続ける伝統の男子校だ。

School Data

〒162-8670
東京都新宿区原町3-87
☎03-3341-6141
<https://www.seijogakko.ed.jp/>

- 創立 1885年
- 交通 都営大江戸線「牛込柳町」駅
西口から徒歩約1分



Homepage



コロナ禍でもこだわった対面授業 教師との信頼関係で生徒を伸ばす

from the School

主幹教諭 野田宏幸先生

新型コロナ禍でわかった「目には見えない教育の大切さ」を、これから生かしていきます。



左／中学3年間で約60テーマに取り組む科学の実験。分析力や思考力が向上する。

下左／難関大ガイダンスでは、国立私立難関校の出題傾向や勉強方法など、OBからアドバイスを受けられる。

下右／最難関国立大のキャンパスツアーでは、その大学に通う先輩に案内してもらおう。写真は2019年に実施した東大キャンパスツアーの様子。モチベーションアップにつながる。



勉強も部活も全力投球、まさに文武両道の学校だ。



コロナ禍に開催された柏苑祭。生徒たちが同じ目標に向かってつくり上げる一大イベント。写真は、感染対策を取って行われた屋外ステージでの演奏。



こまめな補習と応用講座で 中学生の伸びしろを築く

2007年、高校での募集を停止し、完全な中高一貫教育体制を開始したとき、全教員の声を集めて学校づくりについて協議された。そして打ち出されたのが「明るく元氣な進学校」という方向性だった。

「大学進学は大きな目標ですが、そこで大切にされたのが『明るさ』です。明朗快活で、生きていくうえで必要な強い心と優しい思いやりの心を持ち、社会に貢献できる男子を育成することが本校の使命です」と主幹教諭の野田宏幸先生は語る。

生徒へのサポートが手厚い学校であり、中1からこまめな補習で学習のつまづきをなくす。その一方で、できるところは応用講座で伸ばしていく。生活面では生徒自身が1週間の予定を「タイムマネジメントシート」に書き込み、社会に出ても必要な自己管理ができるように指導する。学校行事や部活も、生徒の成長に欠かせないものと捉え、生徒と教師間の触れ合いと信頼の構築を大切にしている。その姿勢がひとつの教育成果として表れたのが、このたびのコロナ禍への対応だった。

「休校要請期間はオンラインで授業を行いました。とにかくこだわったのは対面での授業です」

オンライン授業で作成された動画は1000本に上った。しかし、対面での授業を求める声は、教師のみならず生徒にも多かった。

「特に受験を控えた高3の生徒がそうでした。学校で勉強したい、先生から直接アドバイスを受けたらという生徒が多く、1月からの特別授業では、教室に入りきれないほど生徒が集まった教科もありました」

昨年度は、東京大学志望者が40人に上り、特別に東大クラスを設けた。その生徒たちは、直前まで受験対策の添削を教師に望んだ。教師たちは生徒たちの意向を尊重し、全力で応えた。「そこに確かな信頼関係を感じる」と野田先生は言う。

中3のキャリアスタディでは、企業体験や会社経営者などの講話を聞き、レポートを発表する。高1では中期修了論文をまとめる。さらに、大学のさまざまな学部の先生から、専門研究の説明を直接受けられる。それらが生徒自ら進路を決める道しるべとなる。

「明るく元氣な進学校」の生徒たちは、日本ジュニア数学オリンピックで銀賞を獲得するなど、校外のコンペティションへのチャレンジ意欲も旺盛だ。

School Data

〒157-8560
東京都世田谷区成城1-13-1
☎03-3415-0104(代)
https://www.tcu-jsh.ed.jp/

- 創立 1951年
- 交通 ●小田急線「成城学園前」駅から徒歩約10分
- 東急田園都市線・大井町線「二子玉川」駅から徒歩約20分、「東京都市大学付属中高前」下車すぐ

コアネットの目

「生徒のため」がキーワード! 最高の環境で学べる。▶同校では「生徒のため」という言葉をキーワードに、先生方がさまざまな手法で生徒たちの学びを支えている。サポートが手厚く、勉強もクラブも両立できる環境で、東大・京大などの難関大学合格者数を伸ばし続けている。2023年度入試は2月1日午前入試に参入し、ほかの入試日程も変更する予定。ますます同校の今後に目が離せない。

佼成学園女子中学高等学校

Homepage



新時代の教育に向かって 画期的な取り組みを次々に打ち出す先進校

from the School



西村準吉教頭

「人間力」を教育の柱とし、骨太で息の長い、充実した学びを目指しています。



総合的な学習では各学年で探究学習を進める。テーマは「夢と現実」「貧困」「日本の再犯率」「LGBTQ」など幅広い。



3月に開催される「Presentation Day」で探究学習の成果を披露する。質疑応答も活発に行われる。



中3修学旅行は6泊7日でニュージーランドへ。ファームステイや学校訪問で3年間学んだ英語力を発揮。



部活動も全国レベル。ハンドボール部はインターハイ出場16回、優勝4回の強豪。



高校のスーパーグローバルクラスでは3年生の春に6週間のロンドン大学研修がある。



美術・音楽の実技科目は外国人教師から英語で学ぶ、イメージ教育を実施。

中間試験を廃止すると 授業が変わる

「国際社会で平和構築に貢献できる人材の育成」という教育理念を掲げる佼成学園女子。ハイレベルなプログラムを持つ、高校の国際コースがよく知られているが、近年は、既存の学校システムを根本から見直す「新時代の教育」に取り組んでいる。これは、知識習得と単元網羅を目的とした一斉授業の限界を突破し、学習者主体の対話型授業、探究型学習の実現を目指すもので、さらにはキャリアデザインにつながる大きな改革だ。西村準吉教頭に解説していただいた。

「まずは中間試験を廃止します。これにより時間的余裕が生まれ、授業デザインも変わってきます。重要なのは評価基準で、期末テスト30%、小テスト・アチーブメントテスト30%、発表・協働表現30%、平常点・教員裁量10%の3・3・3・1制にしています。生徒は、教科担任が明示するシラバスを学習の手引きとし、定期試験があるから勉強するのではなく、主体的に学習計画を立てる形に変わります」

新しい形を不安視する教員も生徒も保護者もいるが「そこを変えていかなければならない」と西村教頭。一方で、コミュニケーションとアウトプットを重視した新しい授業が生まれている。たとえば国語におけるグループワーク。宮沢賢治の『永訣の朝』について解釈を深め、イメージ

動画を創作するという課題は、まさに探究型学習だ。コンセプト形成や役割分担はリモート授業でもZoom機能を利用して問題なく進み、ユニークな作品が出来上がったという。

もともと同校には、英語教育と連携させた中学の総合学習や、高校のコースごとの探究学習など多彩な学習機会があったが、日々の授業内容にも探究の要素が加わったといえる。

一方、コロナ禍で一気に進んだICT化と情報共有により実現できたのが「チーム担任制」だ。これは、1学級1担任ではなく、3クラスに4〜5人の担任が付き、多角的な視点で生徒に寄り添っていくシステム。「複雑なメンタリティを持つ中高生に一人に対応するのは難しい面がありますし、豊富な情報を統合する生徒カルテは、個別最適な進路指導にもつながります」

ますます細分化されていく大学入試に向き合うためにも、学校は変わるべきなのだろう。高大接続など次のプロジェクトを計画中という佼成学園女子から目が離せない。

School Data

- 〒157-0064 東京都世田谷区給田2-1-1
☎03-3300-2351
https://www.girls.kosei.ac.jp/
- 創立 1954年
 - 交通 ●京王線「千歳烏山」駅から徒歩5分
 - 小田急線「千歳船橋」駅から京王バスで約15分「南水無」下車すぐ
 - 小田急線「成城学園前」駅から小田急バスで約20分「千歳烏山駅」下車、徒歩5分

コアネットの目

多様化する大学入試に合わせたサポートが充実！ 好調な大学合格実績 ▶多様化している大学入試に合わせて、さまざまなサポートを行っている。そのひとつが卒業生によるチューター制度だ。さまざまな入試形態で合格を勝ち取った先輩が、親身になって学習面や精神面のバックアップをしてくれる。そのほか、校内予備校も年間を通じて開講されている。在籍数の3倍の枠がある指定校推薦制度もあり、大学進学に向けたサポートが充実している。



伝統校の文化資源を土台に 新機軸「共立リーダーシップ」で前進する

from the School



前田好子校長

多くの人と出会って、いくつものコミュニティの中で自分らしさを見つけてください。



左/高校夏季講座では共立女子大学の学生をファシリテーターに招き、リーダーシップについて考える体験ワークを行った。



下左/中1から、外国人講師による少人数の英会話の授業がある。多様な留学プログラムも設定されている。下右/中1の5月からiPadを所持。日々の連絡、電子黒板との連動、プレゼンテーションなど、さまざまな場面で活用されている。



上/礼法・マナー教育は共立の特徴のひとつ。「社会に出てから本当に役立つ」という声が多く寄せられている。右/表現、創造、鑑賞の楽しさを知り感性を磨くため、美術、音楽などの実技科目も重視している。



高大連携のメリットが生む新しい「探究学習」

1886(明治19)年に設立された共立女子職業学校を始まりとする伝統校。女性が自立して社会人として職業に就くことを目的として、先覚者34名が「共に立てた」学校が、幼稚園から大学院までの総合学園に発展した。

共立女子中学高等学校は、東京一出会いの多い女子校、元氣な女子校というイメージが定着している。新校長に就任した前田好子先生は同校の卒業生。生徒が、それぞれの場所でそれぞれの形で力を発揮していくのが共立の校風だという。「何か困った状況になったときにも、じゃあ私かなんとかしましょうか?と一歩踏み出す人がいる。多くの生徒にそういうマインドが育つ。それが共立らしさだと感じます」

学校の成り立ちや、誠実・勤勉・友愛という校訓によって醸成された特徴を踏まえ、今年度から教育の軸として打ち出しているのが「共立リーダーシップ」だ。

「大学のビジネス学部の『リーダーシップ開発』というプログラムを中学高校の教育活動にも広げていこうという取り組みです」

大学の講座にも携わる広報部主任の金井圭太郎先生によると、「リーダーシップ開発」は、他者と協働して成果を生み出す新しいリーダーシップ論を学ぶプログラムだという。特定の立場の人が権限を持つてま

める従来のリーダーシップに対して、「チームに良い影響を与える行いはすべてリーダーシップ」という視点を持たせていく。課題解決プロジェクトなどで、「自分らしいリーダーシップ」の獲得を目指す。

こうした内容の一部を取り出し、昨年度は高校夏季講座で体験ワークを行った。「今年度はリーダーシップをテーマにした探究学習を中1からスタートさせました。チームに良い影響を与えるために自分は何ができるのか。目標を定め行動して相互支援していくことを積み重ねます。大學生がファシリテーターとして授業に入ることもあり」と金井先生。この新しい探究学習は、つまるところ「自分自身を深掘りして、フィードバックをもらう」作業になるわけだが、前田校長はそこに期待しているという。「ポジティブなフィードバックをたくさんもらって、『チャンスがあれば行く!』という気持ちを高めてほしいと思います」



ますますパワーアップする共立女子の未来が楽しみです。

School Data

〒101-8433 東京都千代田区一ツ橋2-2-1
☎03-3237-2744(代)
https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/chukou/

- 創立 1886年
- 交通 ● 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町」駅から徒歩3分
- 東京メトロ東西線「竹橋」駅から徒歩5分
- JR「水道橋」駅・「御茶ノ水」駅から徒歩15分

コアネットの目

多様な個性が集い、多様な学びを実現する東京一出会いの多い女子校 ▶ 共立女子の学びと入試の接続を進め、合科型入試や英語4技能入試などを導入してきた同校。これから進める改革は、それらを土台としてさらに飛躍を目指すものだ。さまざまなタイプの入試を経て入学した多様な生徒たちが、探究的な学びを通して互いに刺激し合い、社会で生きる力を身に付けていくことは間違いない。

共立女子第二中学校高等学校



from the School

入試広報部主任 戸口義也先生

いろいろなタイプの生徒がいて、それぞれが自分らしい居場所を見つけれられる学校です。

Homepage



豊かな自然環境の中で育まれる 次世代女性のリーダーシップ



左/PBL型のアクティブラーニングを幅広く実施している。主体的な学びは議論へと発展し、協働性やプレゼンテーション能力を育ててゆく。

下/中学の「礼法」の授業では、身に付けておきたい礼儀作法を学ぶ。高校では、「マナー講座」「華道・茶道・装道」の体験授業がある。



上/英語教育は、「4技能統合型授業」を実施。「聞く、話す、読む、書く」の4技能を、アクティビティを通して身に付ける。

右/体験プログラムが充実する。理科や家庭科の授業の一環で、校内で野菜などの栽培を行う。



中学3年間で取り組む「新聞スクラップ」。タイトルを付れたり、要点をまとめたり、感想を書いたりすることで、記述力や表現力を養う。



英語教育の改革にも成果 楽しく能動的に学ぶ

東京・八王子市の郊外に東京ドーム5個分のキャンパスを有する、共立女子第二中学校高等学校。自然に恵まれたこの広大な環境が「さまざまな個性の生徒を受け入れ、育む素地となっている」と入試広報部主任の戸口義也先生は語る。

そんな同校が目指すのは「リーダーシップの共立」。そのリーダーシップは、従来の人を率いるものではなく、自分らしく自分をリードし、主体的に社会に貢献できる女性像であるという。

「女性の社会的な自立は、創設以来の本校の教育理念です。豊かな感性を持つ、自らの考えを発信できる、他者を理解し共生できる、その人格こそが現代の女性に求められるリーダーシップであり、21世紀に必要な生き抜く力だと考えています」

特色として、体験を重視する授業や課外活動が挙げられる。例えば野菜作り、中1の英語劇、そして礼法など。さらに学校行事も多い。

「ほぼ毎月、なんらかの行事があります。文化祭や合唱コンクールなど、多くは生徒が主体となって運営します。他者との協働も、リーダーシップを育むうえで大切な体験です」

同校の特色として、7年前から取り組んできた英語の授業スタイルの改革がある。

4技能統合型の学習を軸として、英語教育の第一人者の指導により独

自に開発した指導法「レイヤードメソッド」が取り入れられている。これは音読を中心に、教科書を繰り返し使用する学習法だ。ペアワークで行う「スピーキング&ヒアリング」、教師のスピーチを英語で書き留める「リード&ライト」など、授業時間の大半で、生徒が能動的に英語を使うように組み立てられている。これを取り入れてから、英語が嫌いと言った生徒はいなくなり、高3までに英検準1級を取得する生徒の数も倍増したという。

最近の話題は、今年度から高校の新コース制がスタートしたことだ。従来の総合進学コースと特別進学コースに、英語コースと共立進学コースが加わった。英語コースでは、世界中で語学教育を展開するベルリッツと提携した授業が行われ、ニュージーランドチーム留学が必須となっている。共立進学コースでは、高3で共立女子大学の講義が受講できる。高大連携プログラムも実施される。豊かな自然環境に抱かれ、創立136年の伝統を礎としながらも、進化し続ける女子校である。

School Data

〒193-8666
東京都八王子市元八王子町1-710
☎042-661-9952
https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nichukou/

- 創立 1886年
- 交通 JR中央線・京王線「高尾」駅、JR中央線「八王子」駅南口からスクールバスあり。みなみ野・七国循環ルートも運行
※スクールバスは無料

コアネットの目

豊かな教育環境でユニークな教育活動を実践する注目の女子校▶同校にはユニークな取り組みが多いが、注目は2022年4月からスタートする英語コースだ。新コースでは、CEFR B2レベル(英検準1級程度)の英語力を習得できるカリキュラム、クラス全員のニュージーランドへのターム留学(1年次3学期、約3カ月間)を採用するなど、これからの社会で活躍できる人材を育成する女子校として発展している。



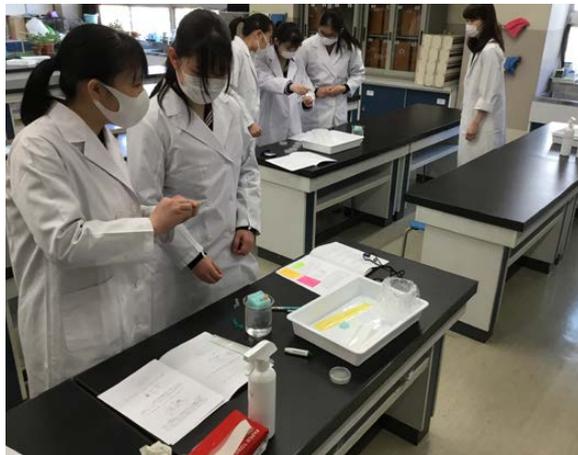
創立100周年を迎え次のステージへ 学びを進化させる新コース制

from the School



横尾康治校長

挑戦するマインドを育てたい。そのために私たちは「失敗してもいいよ」と言い続けます。



上/高2での自由課題のプレゼンテーション。ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの力を段階的に高めていく。

左/安全な実験用大腸菌を用いた大腸菌の遺伝子組み換え実験(高3)。本物に触れる機会を大切にしている。



高1の必修「十文字学園女子大学によるキャリア講座」。大学での学びを体験して興味を広げる。



右/運動会は中高合同で行う。企画、運営を生徒が行う学校行事は自主性を育む大切な機会だ。

左/文化祭での歌劇部の発表。衣装も自分たちで作ってステージに臨む。



2019年度からNECと共同して、探究型学習プログラムの開発に取り組んでいる。

「自走する力」を身に付け 自己発信力を育む6年間

今年で創立100周年を迎える十文字中学・高等学校。

「自分の行動が誰かの役に立つこと、誰かの幸せにつながることは、そのまま自分の幸せでもあるという価値観を共有し、将来どんなふうにも世の中と関わっていくか、どう自己発信していくかを生徒一人ひとりにじっくりと考えてほしい」と語る横尾康治校長。その教育理念を反映させた新しいコース制が、今年度から高校でスタートした。

「これまでは基本的に学力でコースを分けていましたが、新コース制では学力で分けないと決めました。自分はどういうスタイルで学びたいか、学びのスタイルで選択するコース制です」

具体的には、文理、芸術など幅広く科目選択し、将来の可能性を広げる「リベラルアーツ」、高1から人文と理数に分かれて(後での変更も可能)難関大受験に備える「特選」、探究型授業に多くの時間を割き、プレゼン力やリサーチ力も磨いていく「自己発信」の3コース。

今年の高1では、学力面でトップクラスの生徒たちが、「特選」に集中することなく3コースに散らばるなど、学力で分けずに学びを進化させるというコース設定の意図どおりになっている。

もともと生徒たちは多様で、難関大を目指すにしても、コツコツと勉

強して入試を頑張るタイプもいれば、好きな分野の研究を深めて推薦合格するタイプもいる。その個性を学校側が後押しする形だ。

これに伴い、中学3年間の教育も変化させている。

「生徒が自分で年間の学習計画を立て、学習進度を自分でコントロールする仕組みを昨年から始めています。まずは計画が立てやすく、理解度の差が広がりがちな数学から。今年は個別最適化を実施します」

キーワードは「自走する力」。集団授業は導入の概念形成のみで、演習は個人やグループで行う。先へ進んでもよし、ゆっくりと進んでもよし。自己評価が盛り込まれたAI学習アプリや教育系YouTuberの動画なども活用する。到達度は教員がチェックするので取りこぼす生徒がいなくなり、上位層は先取り学習できるようにになった。この仕組みを有効化するために増員したという数学科教員が、一人ひとりを見守っている。「学校がすべきことは何かを考え続けています」と言う横尾校長の言葉には、真の熱意が感じられる。

School Data

〒170-0004
東京都豊島区北大塚1-10-33
☎03-3918-0511
<https://js.jumonji-u.ac.jp/>

- 創立 1922年
- 交通
 - JR山手線「巣鴨」駅・「大塚」駅から徒歩約5分
 - 都営地下鉄三田線「巣鴨」駅から徒歩約5分
 - 都電荒川線「大塚駅前」駅から徒歩約5分

コアネットの目

国公立、難関私立大に多数合格！ 大学入試にもしっかり備える▶理系に進む生徒も多く、安定的に国公立大学合格者を輩出し続けている。2022年度は、国公立16名、早稲田14名、慶應4名、明治21名、立教19名など、難関私立大にも例年以上に合格者が出ている。中学、高校の6年間で自ら学ぶ姿勢を身に付け、大学入試にもつなげていく。十文字生の強みは学ぶ楽しさを知っていること。これからの活躍に注目だ。

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校

Homepage

「SHOWA NEXT」を目指す
混迷の時代を強く生きる女性像

from the School



粕谷直彦中学校教頭

生徒の日常生活をぜひ見てください。その姿から、本校の目指すものが伝わるはずですよ。



左／キャンパス内にはテンブル大学ジャパンキャンパスとブリティッシュスクールがある。国際色豊かな環境だ。

下左／「スーパーサイエンスコース」では、基礎力を学び、さらに高いレベルの学びへと研究内容を深める。
下右／ポストン研修は中2全員が参加する。昨年度はコロナ禍で渡米はできなかったが、オンラインで学びを深めた。



上／「私の研究」では、自分で選んだテーマについて研究し、その成果を発表する。分析力、課題解決力、発信力を養う。

右／ボランティアと学びを合体させた「サービスマーケティング」など、多彩な探究プログラムがある。

探究の「もやもや体験」が
多角的な考察力を育む

こども園から大学院までの教育機関が集まる昭和女子大学の世田谷キャンパス。同大附属中学校・高等学校もその一画を占めている。

米国立テンブル大学ジャパニキャンパスとブリティッシュスクール・イン・トウキョウ昭和と同じ敷地内にあり、また米国立ポストンの大学キャンパス（昭和ポストン）も含めて相互に連携する。例えば、昭和女子大学に進学する生徒は高3のときに、高校に籍を置きながら同大学の講義を受け、単位を取得できる。さらに同大学で3年、協定大学で2年の計5年の履修で両大学の学位を取得できるダブルディグリープログラムもある。

建学の精神「世の光となろう」を受け継ぐ伝統校だが、国際色豊かで先進的な教育環境を擁する。6年前に「SHOWA NEXT」という新しい学びのプログラムをスタートさせ、コース制も導入した。

「混迷の時代、性差に惑わされず、限界を決めず、天を破り抜くほどの勢いで強く生き抜く女性を育てたい」と粕谷直彦中学校教頭は言う。

そんな同校が力を入れるのは、中学からの探究授業だ。特色のひとつは「私の研究」という個人研究。テーマもアプローチ法も、自分で考えて決める。教員はサポート役だ。

「今の子供たちは、正解か不正解か2元化して物事を見る傾向があります。しかし、現実社会ではその中間

の「もやもや」した部分が多い。その「もやもや」と向き合い、粘り強く解決する体験をしてほしいのです。試行錯誤を恐れず、多角的に物事を見て分析し、判断する力を個人研究で養うのだ。

高校の探究では、社会課題解決学習を行う。これまでの「サービスマーケティング」と「LABO」活動を発展させ、地域課題から国際的課題まで、各自が自由にテーマ設定し、研究をする。世田谷区の協力の下、ボランティア活動を通し、区の課題に取り組んだり、貧困、ジェンダー、途上国における女性問題などの国際的な課題にも向き合う。空論で終わらせず、解決策を形にしておくことを重視する。

コロナ禍により、海外研修などの実施ができない状況だが、昭和ポストンや海外提携校との連携授業などで対応している。それができる環境があることも同校の強みだ。

School Data

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
☎03-3411-5115(中高部代表)
<https://jhs.swu.ac.jp/>

- 創立 1920年
- 交通 ●東急田園都市線「三軒茶屋」駅から徒歩約7分
- 「渋谷」駅から下記方面行きバスを利用し、「昭和女子大」下車すぐ(上町・等々力・田園調布・弦巻営業所・二子玉川・高津営業所・成城学園・祖師谷大蔵・狛江・調布)
- 「目黒」駅・「祐天寺」駅から三軒茶屋行きバスを利用し、「三軒茶屋」下車、徒歩約7分
- 「下北沢」駅から駒沢陸橋行きバスを利用し、「三軒茶屋」下車、徒歩約7分

コアネットの目

「グローバル」から「サイエンス」まで多様な関心に対応する人気の女子校▶中学から3つのコース制を採用。「グローバル留学コース」「本科コース」に加え、2021年度から中1で「スーパーサイエンスコース」が新設された。医・薬をはじめとする理系進学を目指しており、グローバルからサイエンスまで、生徒の多様な関心に対応できる。大学が併設されていることもあり、豊かな教育環境も魅力のひとつだ。



家庭生活はSDGsの原点 社会に貢献できる女性を育てる

from the School



佐野金吾校長

信頼できる仲間と一緒に成長しながら、わくわく楽しく心豊かに学ぶことができる学校です。



体育祭で披露する優美で華麗な舞いは同校の伝統だ。



中学1、2年生が縦割りチームをつくって、千代田区内の企業や社会人に取材し、働きたいや地域への愛着を掘り起こしてポスターを制作。

一人ひとりの学習状況や習熟度に合わせてサポートには、タブレットが欠かせない。



課外授業で、花道(大和花道)と茶道(裏千家)の資格取得も可能。



上/全校プレゼン大会。全学年が参加して1年間の探究活動の成果を報告。リバークリーンプログラムではラフティングも体験。左/「誰もが主役になれる学校です」と安達京子教頭。

手厚い少人数制教育で 学びと進路をサポート

1923年の家政研究所開校からその歴史をスタートした、東京家政学院中学校・高等学校。創立者・大江スミが女子教育の理想とした「知識(Knowledge)を高め、技術(Tech)を磨き、徳性(Virtue)を養う」を建学の精神とし、近年は、SDGsへの貢献を目的とした、さまざまな探究活動でも注目されている。

中学の「総合的な学習の時間」で取り組む体験型オリジナルプログラムは、その最たる例だ。

「家庭生活はSDGsの原点というのが本校の考え。身近な衣食住をテーマに課題を発見し、自分のこととして環境問題に向き合うステップを踏みます」と佐野金吾校長は語る。

例えば中1では、家庭内での食品ロス削減を実践して記録。取り組みの成果をパワーポイントにまとめて発表する。中2では、東京の里山でのフィールドワークを展開。人と自然の持続可能な共存について探究する。多摩川の汚染状況を調べ、リバークリーンプログラム(川の清掃活動)を体験した昨年度は、「うれしい成果があった」と安達京子教頭。

「河川のゴミ問題を実感した本校の生徒のデザインが、『ゴミ回収BOX』に採用されました」

こうしたフットワークの軽さを支えているのが、少人数制教育だ。これが高校における、手厚い進路指導で効力を発揮する。山形純一郎入試

広報部長に話を聞いた。

「行ける進路先ではなく、行きたい進路先を目指してほしい。たとえ本人の成績と志望先に乖離があっても諦めずに第一志望を目指して頑張っていく生徒を全力でサポートし、一人ひとりオーダーメイドの進路指導を行う。それが本校のスタンスです」

指定校推薦枠は、100大学以上9割近くの生徒が指定校推薦、公募推薦、総合型選抜などを利用して進学を果たしている。推薦入試や一般選抜でも全員の合格を目指し、受験に必要な小論文、志望理由書、面接の各講座を開講。担任や進路指導教師なども指導に参加する万全のバックアップ体制だ。

東京家政学院大学の合格を得たうえで他大学を受験できる併願制度を利用できるのも同校の強み。生徒の成長と夢の実現を手助けしてくれる、面談のいい学校だ。

School Data

〒102-8341

東京都千代田区三番町22

☎03-3262-2559

https://www.kasei-gakuin.ed.jp

●創立 1923年

●交通

- JR中央・総武線「市ヶ谷」駅から徒歩約8分
- 東京メトロ南北線・有楽町線・都営新宿線「市ヶ谷」駅から徒歩約5分
- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門」駅から徒歩約8分
- 東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅から徒歩約10分

コアネットの目

一人ひとりの「好きなこと」を大切にしてくれる女子校▶東京家政学院の先生方は、生徒の「好きなこと」に耳を傾け、その気持ちを大切にしてくれる。少人数制だからこそ一人ひとりに向き合うことができるのだ。そのような環境で生徒たちは「好き」を大切にしながら自分自身と向き合っていくことで、高3時に「行きたい進路」をしっかりと選択することができる。

東京女学館中学校・高等学校



from the School

中高英語科主任 木下健太先生

アクティブラーニング型授業で、英語で臆せず意見を言えるようになります。

Homepage



一人ひとりの学習サポートを最適化する、少人数の習熟度別授業を実施



左/「国際学級」の教材は英語圏の学校で使われている教科書や副読本のほか、ニュース記事や小説なども使用。ディスカッションやプレゼンテーションに重きが置かれている。



右/国際学級主任のクリスタル・ブルネリ先生

下左/中2のグローバルコンピテンスプログラムでの発表の様子。自分たちの理想の街について考え、英語で説明する。

下右/記念祭で発表するオーケストラ部。久しぶりの舞台上、生徒たちは力を存分に発揮した。



一般学級の英語授業は習熟度別に基礎から丁寧に行われている。アクティブラーニングを取り入れ、主体的な学びにつなげている。

新しい指導体制の下
自律的な学びを深める

1888(明治21)年の創立以来、「高い品性を備え、人と社会に貢献する女性の育成」を教育目標とする東京女学館中学校・高等学校。英語教育・国際理解に特化した「国際学級」を有する伝統校だ。

帰国生と一般生が混在する「国際学級」は、レベル別に3分割で授業を実施。2020年度からは、一般学級でも英語力に応じた習熟度別授業形態を導入した。海外の教科書を使いオールイングリッシュで授業を行うクラスと、日本の教科書を用いて基礎から学ぶクラスに分かれる。

「どちらのクラスも、主体性や創造性を引き出すアクティブラーニング型授業を行っています。学びの入り口は違っても、6年間かけて目指す到達点は同じ。自分のレベルに合った学習に取り組みながら、語学力だけでなく、将来海外の人と協働して社会に貢献できるコミュニケーション力と国際感覚を磨きます」と英語科主任の木下健太先生。

中間試験を廃止し、期末試験のみとしたことも、大きな改革の一つだ。「英語の技能を伸ばすのは時間がかかります。学習直後の短期記憶された知識を問うだけでは、生徒の習熟状況はつかめません。学期末に熟達度テストを行い、長いスパンでの生徒の技能の伸びを見ることにしました。教科書に依存しない実力テスト形式なので、どう試験に備えたらいいか、

生徒が学び方を自律的に考えるようになりました。各レッスンの確認テストや語彙や文法などの小テストを定期的に行い、その時々での学習内容の理解度も確認しています」

一方の「国際学級」は、北米型言語教育を独自にアレンジした「ランゲージアーツ」を特徴とする。読み書きのほか、ディスカッションやプレゼンテーション、寸劇、自分史作りなどを少人数グループで展開。

「最大の目玉は、中3で披露する英語劇『ロミオとジュリエット』。憧れの『ロミジュリ』をやる日のため勉強を頑張る、という子供たちも多いんです。台本・演出・舞台美術など、誰もが貢献できる仕事を見つけ、インクルーシブ・リーダーシップ(一つの課題を共有し、それぞれが主体的な視点を持って解決する包括的な力)を身に付けていきます」と、国際学級主任のクリスタル・ブルネリ先生。昨年度からは、中2の道徳や理科の環境の分野を「英語で学ぶ」教科横断型のプログラムもスタートした。新しい指導体制下で自律的に学ぶ女子たちがどんな可能性を開くのか、期待が膨らむ。

School Data

〒150-0012
東京都渋谷区広尾3-7-16
☎03-3400-0867
https://tjk.jp/mh/

- 創立 1888年
- 交通 ● 東京メトロ日比谷線「広尾」駅から徒歩約12分
- 「渋谷」駅、「恵比寿」駅から都営バスで約10分「東京女学館前」下車すぐ

コアネットの目

主体的に学ぶ姿勢を育む、東京女学館の英語教育▶英語教育に定評のある同校。習熟度別・少人数制の指導によって、生徒たちは教えを待つ姿勢から自らが工夫をして学びを進めるなど、「主体的に学ぶ」姿勢を身に付けている。また、中2の道徳授業を英語で学ぶという新しい取り組みにより、英語へのモチベーションはますます上がっている。今後も同校の英語教育に注目が集まりそうだ。



Homepage



PBL型授業を学校全体で展開 「つながる学び」で視野を社会へ

from the School

中込 真校長

多様な人とのつながりが、生徒を何倍も成長させます。そこで学びを大切にしています。



左/PBL型のアクティブラーニングを全教科、学校全体で実施している。主体的な学びは議論へと発展し、協働性やプレゼンテーション能力を育ててゆく。

下/広島・京都への3泊4日の修学旅行。京都ではグループごとにテーマを設定、その目的に合わせて訪問先を決めて行動した。



上/グローバルクラスでは、英語ネイティブスピーカーが授業を行う。右/英語、英会話、英検対策など、きめ細かく英語教育を行う。SDGsの教科書を使い、グローバル教育にも力を入れている。



日本文化の授業では、茶道・華道・書道などを体験し、礼儀作法を身に付ける。日本文化や伝統を学び、発信できる能力を養う。



体験型の学習をリアルで 専門家を招いての講習も

創立125年の歴史を持つ和洋九段女子中学校高等学校。創設者が説いた「自営の心」は、今日に置き換えれば「一人の人間として、自立して生きていくための考え方や行動力を指す」と中込真校長は言う。

「長く受け継がれてきた礼法、茶道、華道、書道などは、伝統文化に根差した教養として大切にしています。その一方で、21世紀型教育の基盤ともいえるPBL（問題解決型学習）を、教科学習ばかりではなく、学園生活全般に取り入れています」

PBLとはいわゆるワークショップ形式で展開される学習である。課題に関する基礎知識を習得し、その解決法を考え、グループで議論をし、結果を発表し合う。

「意見をきちんと主張し、行動に移し、異なる考えを受容する。コミュニケーション力やプレゼンテーションスキルを身に付けていけるのが、PBLの良いところです」

例えば、中学で取り上げた課題の発展版を、高校の授業でもPBLで行う。習熟度を深めるため、「つながる学び」を同校は重視している。そして、もうひとつの「つながる学び」が、他校の生徒との交流や企業訪問など、校外での体験学習だ。「広島修学旅行で現地の女子校と交流する予定が、コロナ禍でできなくなったので、オンラインでグループワークをしました。生徒たちの提案

で、Zoomを使って両校の生徒間で打ち合わせを繰り返して、充実した事前学習になりました」

中学の企業訪問もZoomでのセッションとなったが、同校は一昨年の4月には全生徒へのタブレット配布が完了していたので、生徒たちはオンラインでの授業にもグループワークにも慣れている。

「しかし、体験型の学びは対面でやりたい」と、昨年度から研究機関や大学などから講師を招く講習を、年間を通して企画している。

同校の中学は本科クラスとグローバルクラス、高校は本科コースとサイエンスコース、グローバルコースと分かれているが、クラスやコースに関わりなく、今年度は校内での授業や活動でグローバル感覚を養う工夫に取り組むという。

「PBL型授業を軸にしてから、生徒たちは教科書を深く読み込み、理解するようにになりました」と中込校長。何ごとにもアクティブに取り組む姿勢が育まれている。

School Data

〒102-0073

東京都千代田区九段北1-12-12

☎03-3262-4161

https://www.wayokudan.ed.jp/

●創立 1897年

●交通

- 東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅から徒歩約3分
- JR総武線「飯田橋」駅から徒歩約8分
- 東京メトロ有楽町線・南北線・都営大江戸線「飯田橋」駅から徒歩約8分

コアネットの目

安心の教育環境、社会で自立できるしなやかな生徒が育つ▶PBLの学びによって社会に出てから役に立つ力を育む同校。自分で考えることができる生徒を育てている。体育祭や文化祭の企画・演出など、生徒たち自ら企画して手がけるところにも、その力が育成されていることが表れている。また、礼法などで学んだルールも考える力の育成に役立っており、同校の魅力として欠かせない要素といえる。



from the School

橋本好広校長

緑豊かな環境のなかで、生き生きと、伸び伸びと、自分の夢を育んでください。

Homepage



夢の実現へと挑み続ける「EMK未来プロジェクト」



放課後の自学自習をサポートする「EMK未来サポート」。集中して学習に取り組める、仕切りの付いた個別ブースを完備。



世界に羽ばたく真のグローバルリーダーを目指して、6年間のさまざまな学びがある。



上/中3から設置された「アドバンストクラス」。中2の成績を基に、学年上位者でクラスを編成する。



右/グローバル教育をさらに強化し、オンライン英会話システムも取り入れた。



400mトラック付きの人工芝のグラウンド。ほかにも温水プールや天文ドームなど、充実した設備も魅力だ。

※プロジェクトに冠したEMKは、Experience(経験)、Morality(道徳)、Knowledge(知識)の頭文字を組み合わせたもの。頌明館のイニシャルにも掛けている。



高1では第2外国語(フランス語と中国語)を選択することもできる。

学校改革を支える 新たな五つの取り組み

豊かな多摩の自然に抱かれるようにキャンパスが広がる、頌明館中学高等学校は、「国際社会に羽ばたく真のリーダーを育成する」という建学の精神の下、1985年に開校。近年、東大などの難関国立大、医学部、難関有名私立大への合格者を数多く輩出している、男女共学の進学校だ。

2019年度からは、より進化した教育を目指し、「EMK未来プロジェクト」を推進している。柱は、「進学指導の進化」「放課後学習支援の強化」「グローバル教育の活性化」「ICT教育の充実化」「探究学習の整備」の五つだ。橋本好広校長の解説を交え、具体的に見ていこう。

進路指導では、クラス単位で習熟度別授業を実施するほか、中3からは難関大学への進学を見据えた授業を行う「アドバンストクラス」を設置。スポーツのように勉強も切磋琢磨し、互いに高め合おうという気持ちを育成する狙いがある。

「EMK未来サポート」と銘打った放課後学習支援システムにも注目だ。図書館内に仕切りの付いた自習専用ブースを整備。希望登録制で利用できる自学自習の場を提供している。

「低学年のうちに学習習慣をしっかりと定着させるために、中学1、2年生は全員登録です。朝、始業前や昼休みをはじめ、放課後は19時まで利用できます。部活(18時まで)終了

後に駆け込み、自習していく生徒も多いです」と橋本校長。

開校以来、高1全員参加の「USA・カナダ体験学習」ほか、多彩なプログラムを実施しているグローバル教育には、新たにオンライン英会話も導入。また、高1の希望者を対象に週1回、第2外国語(フランス語・中国語)と英会話の講座を開講している点も見逃せない。

ICT教育、探究学習については、「すでに実施しているレゴマインドストームを活用したプログラミング授業に加え、昨年度からはタブレット端末を活用した授業も行っています。さらに、中2・中3で実施している宿泊体験学習(広島・奈良・京都)や、SDGsも視野に入れた頌明館独自の探究学習にも力を入れています。また、昨年度はコロナの状況によりオンラインホームルーム、オンライン授業も実施しました」

学校改革の先に見据えているのは、生徒一人ひとりの夢の実現。大学受験はその登竜門であり、「だからこそ進路指導にも力が入る」と橋本校長。ますます進化する頌明館の今後が目が離せない。

School Data

〒193-0944
東京都八王子市館町2600
☎042-664-6000
https://www.emk.ac.jp

- 創立 1985年
- 交通 ● JR中央線・京王高尾線「高尾」駅から京王バスで約15分
- JR横浜線・相模線・京王相模原線「橋本」駅からスクールバスで約25分

コアネットの目

広大なキャンパスと充実した設備で、学力だけでなく体力・人間力も育む。心身共に成長著しい中高生にとって、豊かな教育環境も学校選択においては重要な要素のひとつ。充実した設備で、部活動を含むさまざまな活動を通して、生徒たちは成長している。新たな教育プログラムも軌道に乗り始め、ますます魅力が増している頌明館。多摩の名門校として、真のリーダーを輩出し続けている。



from the School

村上亜矢子教頭

生徒主体の環境をつくるため、あらゆる制度、学校生活を見直し、活性化させていきます。

自分を律し、楽しみながら「学び続けるLEARNER」を育てる



上/メンターとの面談。メンターとなる教員を生徒自身が選ぶ(年2回希望を出し途中で変更も可)。左/元タカラジェンヌを招いて実施した中学生の「ドラマエデュケーション」。表現力、想像力を育む。



全校で盛り上がる体育祭。安全に力を発揮できるように、実行委員会が連日話し合いを重ねた。



上/募集対策室長の三本正行先生。左/自律学習をサポートするラーニングセンター。チューターに質問もできる。

右/探究学習の授業。協動的な学びと主体的な学びを経験し、自律学習法を学ぶ。下/中1、中2による個人探究の発表会。「ゲームと学習について」など生徒の興味に基づいたテーマが並んだ。



「自己調整学習」のための新しい取り組みに挑戦中

女子教育80年以上の歴史を持つ小野学園が2020年に共学化し、品川翔英と校名を改めた。新校訓「自主・創造・貢献」の下、次々と学校改革を進めている。

「現代は変動性、不確実性、複雑性、曖昧性を増し、子供たちは予測困難な社会を自分の力で生き抜かなければなりません。そのために必要なのは学び続ける意欲を持つこと、本校では「学び続けるLEARNER」(学習者)の育成を教育目標にしています」と村上亜矢子教頭。

「学び続けるLEARNER」として身に付けてほしい素養は、①愉しむ力 ②主体性 ③自律性 ④協働性 ⑤批判的思考力 ⑥創造力 ⑦貢献力。生徒がこれら七つの素養を伸ばせるように、学校は環境の整備に尽くしている。

たとえば同校には定期テストがない。教員は1年間の学びの全体像がわかる大シラバスと、単元ごとの小シラバスを作成して提示。生徒は、学習の狙いと小テストの時期・回数、課題を確認し、ルーブリック(評価基準)を踏まえて授業に臨む。

「生徒たちが自分で計画、実行、見直しができるような仕組みをつくっています」

カギとなるのは、「自己調整学習」の実現で、それを支える教員の体制にも特色がある。すでに同校では、学級担任制から、学年全体の教員が

チームで各クラスを受け持つ「学年担任制」に移行しているが、2021年度からは「メンター制」を導入。学校生活全般をサポートする教員「メンター」を生徒自身が選択する制度だ。生徒とメンターは1対1の面談を重ねて信頼関係を構築し、日々の学習や模試、部活や進路などについて、深い対話ができるようになった。

毎日の生活や学習を振り返るツール「フォロースイト手帳」もメンターがチェック。タブレットPCを活用してICT化が進んでいる同校だが、この手帳はあえて紙ベースに。メンターとして生徒に接している岩田和也先生は、「ノートの使い方や筆跡から、生徒の状況や気持ちと言葉以上に伝わってきます」と言う。

こうした大変革、教員の反応が気になるところだが、募集対策室長の三本正行先生は「学校、教員の役割がこれまでとは変わってきたと先生方もわかっています。後は学校が本気でやるかどうかです」と答える。品川翔英は「いま、間違いなく本気で変わろうとしている」。

こうした大変革、教員の反応が気になるところだが、募集対策室長の三本正行先生は「学校、教員の役割がこれまでとは変わってきたと先生方もわかっています。後は学校が本気でやるかどうかです」と答える。品川翔英は「いま、間違いなく本気で変わろうとしている」。

School Data

〒140-0015
東京都品川区西大井1-6-13
☎03-3774-1151
https://shinagawa-shouei.ac.jp/

- 創立 1932年
- 交通 ● JR横須賀線・JR総武線快速・JR湘南新宿ライン・相鉄線「西大井」駅から徒歩6分 ● JR京浜東北線・りんかい線・東急大井町線「大井町」駅から徒歩12分

コアネットの目

メンター制を通して生徒のメタ認知を高める ▶ 生徒の自律を促すため、生徒が「自分で考える」ことを大切にしている。生徒自身で規律を考えるようになってほしいとの思いから、校則がないのも特徴だ。入学当初は自律や目標管理が難しくても、メンターが伴走者となってくれるので、日々の対話を通してメタ認知力が高まり、おのずと「自分で考える」ことができるようになるだろう。

城西大学附属城西中学・高等学校

Homepage

現実の問題に向き合う授業で
国際化社会を生き抜くスキルを身に付ける

from the School



神杉旨宣校長

エビデンスを明らかにした教育内容で、生徒一人ひとりの能力を高めていきます。



左／中3の全員が参加するオーストラリア海外研修。国際人にふさわしい教養を身に付けることを重視する。

下右／PBL型授業では、「調べる・考えをまとめる・発信する」ことで、考察を深める。下左／本物に触れることにこだわる体験学習。稲作体験学習では、教科横断型の学びを実践する。



上／2週間のオーストラリア海外研修を目標に、英語4技能を磨く英語の授業。実践的な英語力を付ける。右／昨年度の高2の修学旅行は、コロナ禍のため国内で実施した。事前学習と事後学習を通して、探究力や問題解決力を養う。

課題解決力を培う
体験型・教科横断型学習

「真の自由が、自ら伸びる意志と力を健やかに育む」とし、個性と自発的な活動の尊重を重んじる城西大学附属城西中学・高等学校。この4月、教頭を務めていた神杉旨宣先生（社会科）が校長に就任した。

「生徒中心に、教員との信頼関係を第一に考える本校の姿勢は変わらない」としながらも、「授業の在り方はもちろん、学校行事も教育効果の検証に基づき、必要な見直しや改善に取り組んでいきます」と語る。

同校は、創立100周年に当たる2018年にJOSAI Future Global Leader Program（FGLP）を出した。中3の全員が参加する2週間のオーストラリア海外研修を目標とし、英語4技能を磨くとともに、他教科とも連携を図る国際教育を強化したプログラムだ。国際感覚を身に付け、グローバル社会に貢献できる人材育成を目的とする。

残念ながら昨年度は、コロナ禍の影響で、海外研修は実施されていないが、このプログラムと併せて展開してきたPBL（問題解決）型授業や体験学習の効果が大きく、生徒たちの成長につながっている。

例えば、高2の修学旅行。本来はハワイ、台湾、国内の選択制だが、コロナ禍のため、昨年度は国内のみで実施された。

高2生は2組に分かれ、東日本と西日本へ行ったが、西日本グループ

は、過疎集落の課題を事前に学習し、班ごとに地域再生プランを企画。現地で提案したプランのひとつが採用された。生徒が学びを生かして考案した実現性の高い商品企画だった。「通らなかつた企画のほうが多かったです。それが貴重な体験です。今後も、体験型学習や教科横断型の授業を積極的に取り入れていきます」と神杉校長。

昨年度は起業家や芸術家、動物愛護活動家など、多彩なジャンルの方を講師に招く講演&討論会も開催している。「生徒が自身の将来を描く動機付けに」という思いからの企画で、受講した生徒には好評だった。また、今年度からは予備校とタイアップし、放課後の補習も強化するという。

「今後は、NPOやさまざまな分野の専門家などの協力も得て『なぜ学ぶのか』『何を指すのか』という問いに応じる共感と感動を、生徒たちに提供していきたい」

現実の課題と向き合い、社会貢献の意義を知る。それは将来を切り開く、大きな原動力となるはずである。

School Data

〒171-0044
東京都豊島区千早1-10-26
☎03-3973-6331
https://josaigakuen.ac.jp/

- 創立 1918年
- 交通 ● 西武池袋線「椎名町」駅から徒歩約7分
- 東京メトロ有楽町線・副都心線「要町」駅から徒歩約6分

コアネットの目

一人ひとりにスポットライトが当たる環境で、自己肯定感を育む ▶ 自身の発想に自信を持って、形にすることができる在校生のマインドは、伝統的に受け継がれてきた城西大城西ならではの文化。先生方も生徒の「やってみたい」という気持ちを最大限に尊重し、小さな成功ひとつひとつを、わが子のこのように喜び、寄り添っている。ぜひ学校説明会に足を運んで、その雰囲気を感じてほしい。



「大学訪問授業」と「TOKO SDGs」 課題解決プロセスの学びに特色

from the School



小塚良雄理事長

次に来る時代のニーズを捉え、本校の教育と、そのための環境づくりに反映させています。



コロナ禍の学校生活を振り返り、先生、生徒、保護者の声をまとめた一冊。

広大なキャンパスにはさまざまな施設が整う。創立50周年までに、さらに教育環境は充実する。写真はサッカー場と屋内アップコート。



ICT教育を導入し、各教科においてICTの使い方を学び、アクティブラーニングを行う。



多様な分野の第一人者を招いて行われる「大学訪問授業」。写真はジャーナリスト池上 彰氏の講義。



上/独自の「TOKO SDGs」に取り組む。主体的な学びを目的に、課題を見つけて解決法までを考えていく。左/運動部・文化部共にクラブ活動が盛んだ。写真は「全日本学生音楽コンクール 声楽部門 高校の部」で優勝した板戸耀央さん。今年の「第94回選抜高等学校野球大会」開会式で国歌独唱の大役を担った。

創立50周年へ向けた 新たな環境づくりに着手

桐光学園は、男女別学の中高一貫校。「他者との関わりの中で自己を高めていこう」「失敗を恐れず失敗から学んでいこう」「一生続けられる好きなことを見つけよう」を教育目標とし、難関校を含む国公立大学の合格者が多い進学校でもある。男女別学制を堅持するのは「成長と学びのプロセスに、男女それぞれの特性があるため」と小塚良雄理事長。「ただし、授業以外の学校行事などでは男女一緒に活動する機会も多い。男子校、女子校、共学校の良さを兼ね備えた学校です」と説明する。

同校の特色のひとつに挙げられるのが「大学訪問授業」。多様な分野の第一人者を講師に招き、年20回程度実施される体験授業だ。過去の講師には、ノーベル化学賞を受賞した根岸英一氏など研究者のほか、音楽家の坂本龍一氏や棋士の羽生善治氏、作家の沢木耕太郎氏の名があり、毎年書籍化もされる。

また「TOKO SDGs」の導入も目を引く。国際的な行動指針であるSDGs（持続可能な開発目標）の中高校生版を独自に設け、課題抽出から解決策までを生徒と教員が共に考える。「正答のない問題を考える力や社会課題への視点を育む取り組み」だ。

同校は、自然豊かな丘陵部に広大なキャンパスを擁する。体育館やグラウンドが複数あり、教室棟にも実

School Data

〒215-8555
神奈川県川崎市
麻生区栗木3-12-1
☎044-987-0519
<http://www.toko.ed.jp>

- 創立 1978年
- 交通
 - 小田急多摩線「栗平」駅から徒歩約12分
 - 京王相模原線「若葉台」駅、小田急多摩線「黒川」駅からスクールバス運行

に多様な施設が設けられている。実は、それらの設計を手がけてきたのが、建築家でもある小塚理事長だ。「常に時代のニーズを見越した環境づくりに取り組んできた結果です。環境は、生徒の成長に大きく影響します。意欲ある生徒たちが活躍できる舞台をつくりたいと考えてきました。しかし、建築家にできるのは空間を提供するところまでです。生徒たちはいつも、予想外の使い方や私たちを驚かせてくれます」と語る。

例えば、強豪で知られるサッカー部のために建築した片屋根のアップコートは、いつしか吹奏楽部やダンス部などの練習場にもなった。全面人工芝のサッカー場も、昼休みには女子生徒たちが輪になって昼食を楽しむ憩いの場になっている。

「それで良いのです。柔軟な発想で別な使い方を見出す力は、起業精神とも通ずるところがありますから」と小塚理事長。そこに生徒たちのたくましさを見ている。

2028年に創立50周年を迎える同校は、新たな環境づくりを構想している。どのような空間が創出されるのが楽しみだ。

コアネットの目 生徒の自主性を重視！ 生徒が描く理想の将来をサポート ▶ 生徒自らの意思で選び、受講する講習制度が行われている。「キャリア甲子園にチャレンジしよう!」「脳トレ〜目指せ! 謎解きマスター!」といった知的好奇心や探究心を刺激し、学習する楽しさを実感できる「ユニーク講習」もある。また、学習内容や学習状況に応じた希望講習も行われており、希望する進路へ向けた自分だけのオリジナルカリキュラムを確立することができる。



from the School

広報部主任 三武蒼生先生

さまざまな経験を通して自らの可能性を広げ、伸び伸び成長できる6年間があります。

Homepage



大学と共有する恵まれた環境で 伸び伸びと未来への夢を広げる



上/生物資源科学部との
高大一貫教育として、
大学動物病院を見学。



右/中1からタブレット
PC、Chromebook
を1人1台所有する。



大学の施設を利用するフィールドワーク。中1は農場実習。大学の畑で整地から野菜収穫までを1年かけて体験する。中2は食品加工実習(右)。ソーセージなどの加工品を作る。



日本大学生物資源科学部に隣接する広大なキャンパス。



右/中学でのキャリア
教育は選択肢を広げる
ことがテーマ。1年生
はキzzaニア、2年生
は職場体験。



左/中2の林間学校は
富士山麓で実施。5合
目までの登山をメイン
にさまざまな体験プロ
グラムを行う。

付属校ならではの 体験プログラム

日本大学の生物資源科学部に隣接する正付属校。比較的少人数の学校規模で、アットホームな校風だ。習熟度別授業(英・数)や特別授業でしっかりと学力の土台を築くと同時に、国際理解教育や語学研修、中大接続のフィールドワークなど、独自の教育プログラムを展開。生徒たちの知的好奇心、探究心を高めている。

なかでも生物資源科学部の教授や学生と共に「フィールドワーク(中1＝農場実習、中2＝食品加工実習)」は、農作物生産の現場を体験し、「食」に関する研究の一端を知る貴重な機会となっている。

「大学生と交流し、生物資源科学部の研究環境を身近に感じることは、学びの姿勢にとっても良い影響を与えています。特に女子のなかには、生物系に興味があり、動物が好きで将来獣医学科進学を希望して入学してくる生徒も少なくありません」と広報部主任・三武蒼生先生。

付属高校共通の内部試験において日大藤沢の成績は常に上位で、獣医学部進学の人気は毎年1位。三武先生によると、中学入学後の6年間で伸びが顕著だといひ、外部受験でも難関大や医大合格の実績を出している。アカデミックかつ自然豊かな環境が生徒たちの本来持つ能力を掘り起こしつつ、一方で学力・進路に合わせたカリキュラム編成や特別授業の実施などによつて的確にサポ

トしている結果だろう。

「健康・有為・品格という校訓を体現するように、生徒たちは人間的にも大きく成長します。小学校が併設されているので、年少者をサポートする場面が日常的にあることも、良い影響の一つだと考えています」

高校からの入学生も多いが、学生会活動など学校生活の中核を担うのは中学からの内進生たちだ。「昨年度の生徒会長も内進生でした。コロナ禍での運営方法をよく考え、工夫して文化祭・体育祭を開催しました」行事や部活も活発だ。陸上トラックやテニスコート、体育館など充実した施設で中学時代から活動できることも付属校のメリット。高校での部活はさらに多彩になり、意外なことに特別進学クラスの女子生徒に人気があるのがカラテ部だとか。

「週3回の練習ながら戦績も良く、文武両道の彼女たちが大学受験でも結果を出しています」と、三武先生。一度はキャンパスに足を運び、自分の目でその価値を確かめたいという学

School Data

〒252-0885
神奈川県藤沢市亀井野1866
☎0466-81-0125
(中学校)
☎0466-81-0123
(高校)
<https://www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp>
●創立 1949年
●交通 小田急線「六会日大前」駅から徒歩約8分

コアネットの目

大学付属の環境を存分に生かし、生徒の夢の実現を後押し▶卒業生に東京2020五輪の銀メダリストも輩出した同校。日本大学生物資源科学部に隣接し、フィールドワークで本物に触れる学びが、生徒の知的好奇心と主体性を育てている。内部進学だけではなく、国公立大学や難関私立大学への進路実現にも積極的。2022年度から2科入試を新設し、高い人気を集めた。



STEM教育やSDGsの導入で 「武南スピリッツ」の構築へ



from the School

遠藤修平校長

素直で明るく、落ち着いて行動し、自分の考えを自分の言葉で話せる生徒が多い学校です。



上/多彩なフィールドワークや校外研修を実施する。中1で鎌倉散策、中2ではJICAやユニセフを訪問する。左上/中2で行うアジア研修ではベトナムとカンボジアを訪問。現地の中高生と交流し、日本とベトナムのつながりについても学ぶ。左下/STEM教育が導入され、昨年度から埼玉大学と連携してプログラミング学習がスタートした。



「アカデミック英語コース」の授業風景。英語学習を通して「考える力」を向上させる。



古典芸能への造詣を深めるためのフィールドワーク。事前・事後学習をしっかりと行う。

大学並みの英語の習得と 課題解決型の学習を融合

武南高校の創立50周年に当たる2013年に中学校を開校し、中高一貫コースを設けて今年度が10年目になる。今年度より校長に就任した遠藤修平先生は「これまでは『武南スタイル』構築の10年。これからは『武南スピリッツ』構築の10年」と同校の今後を位置付ける。

「世界に通用する知性と確固たる人間性の育成」を掲げ、英語を中心とするグローバル教育に力を入れている。「アカデミック英語コース」「アジア・アメリカ研修(中2と高一)」「ワールドワーク」の3本柱からなる「グローバルリーダー育成プログラム」が特色となっている。

なかでも注目されるのが「アカデミック英語コース」だ。これは米国カリフォルニア大学デービス校の監督で、大学レベルの英語を学ぶ授業。中高6年間を通して実施される。海外研修はコロナ禍で休止中だが、研修を想定して学習を重ねている。昨年度は外国人講師を招き、ホームステイを模したグループワークも行った。フィールドワークも、理科、社会科、国際理解、芸術科と多彩で、事前学習と校外学習後のレポート作成や発表といった事後学習を伴う。これら従来の取り組みを基盤とし、「自ら考え行動し、課題解決を図り、目標を達成できる人格形成」に磨きをかけていくと遠藤校長は言う。

「新たな取り組みのひとつは、問題

解決型学習としてのSTEM教育(科学・技術・工学・数学を融合させた教育)の導入です。すでに昨年度、埼玉大学のSTEM教育研究センターの協力でプログラミング学習を実施しましたが、それが今年度も引き継がれます」

もうひとつの新たな取り組みは、SDGsを取り入れた英語学習。これは総合的な学習の時間に導入し、「アカデミック英語コース」と融合させていくという。

「本校は『自主・自立・自学・協同』を建学の精神としていますが、中学の3年間で重視しているのが『自学』すなわち自学自習の習慣をしっかりと身に付けることです」

同校から難関大学に進学した生徒に共通するのが自学自習の習慣。中学生の早い時期に学習習慣を付けることが大切だ。そして多彩なフィールドワークなどを活用して、自主性や自立心、これからの社会で求められる「想像力と創造力」を育みたいと語る。

武南中学校・高等学校は、次の10年へ向け、力強い一歩を踏み出している。

School Data

〒335-0002
埼玉県蕨市塚越5-10-21
☎048-441-6948
<https://www.bunan.ed.jp/j-highschool/>
●創立 1963年
●交通 JR京浜東北線「西川口」駅から徒歩約10分

コアネットの目

学年を超えて学び合い、先輩から後輩へ受け継がれる「武南スピリッツ」▶国公立大学やGMARCHをはじめとする中高一貫生の難関私大への進学実績を着実に伸ばしている。外部講師やアーティストを積極的に学校に招き、生徒の興味関心・視野を広げることに積極的。STEMの授業は生徒だけではなく、先生方も参加し、振り返りの時間から得られた気付きは授業運営にも生かす。進化を止めない同校の教育に注目だ。



新たなプログラムの導入で 主体性と創造力を養う

from the School



神戸 航副校長

世界規模の社会貢献から、地域や隣人への貢献までを考え、実行できる人格を育成します。



上/コロナ禍のオンライン授業ではZoomを利用し、対話を重視した授業を展開。放課後もオンラインで質問に対応した。
左/すべての教科でICT教育が導入されたことにより、効率化を図るだけでなく、生徒の主体性や創造力が養われている。



放課後、校内各所に配置されているフリースペースで生徒同士の学び合いが見られる。



右/クラブ活動も盛んで、同好会も含め約30ある。室内温水プールで活動する水泳部や、冷暖房完備の体育館で活動するバスケットボール部やバレーボール部などが人気。



左/新校舎のEAST PORT(東棟)1階にある食堂では、日替わり定食が人気だ。



新校舎の教室には電子黒板と無線Wi-Fiを完備。

新構想プロジェクトで 取り組む二つの教育施策

学習塾と連携したオリジナルの放課後学習支援システムの導入をはじめ、さまざまな学校改革で成果を上げる文教大学附属中学校・高等学校。進学実績が向上した一方で、入試志願者数も今年度は過去最高を記録した。そればかりではない。

「物事に主体的に取り組める生徒が増えた」と神戸航副校長は語る。「背景として、ICTの活用も大きいと思います。休み時間にタブレットを片手に作業をする光景は、今や日常的になりました。必要な知識や情報を集め、学校に提案をしてくる生徒たちもいます」

一昨年の緊急事態宣言時は、休校からわずか1週間足らずで、オンライン授業を開始した。今は全校生に端末が行き渡っている。「ICTは単なるツールにすぎない。本校教育の要としているのは、『文教ユニバーサルコンピテンシー』です」と神戸副校長。

同校が教育の柱とするコンピテンシーは「発見力・思考力・行動力・探究力・表現力」の五つ。21世紀型教育の文教指針である。

一方で同校はこの3年間「新構想プロジェクトチーム」を組織し、伝統である「人間愛」を礎とする教育と学校の在り方を問い直した。「各教科学習の内容ばかりではなく、学校行事や部活までも含め、今後どうあるべきかを議論しました」

そして今年度より新たな取り組みが始まる。ひとつは「グローバルコンピテンシプログラム(GCP)」という独自科目の設置である。GCPは、コミュニケーションスキルや多言語学習、異文化理解など国際的な場面で必要となる能力を養うのが目的。文教ユニバーサルコンピテンシーと合致するこのプログラムを授業として、中2から高2で実施する。

もうひとつは、中学の「総合的な学習の時間」と高校の「総合的な探究の時間」をつないで今年度より実施する「クリエイティブチャレンジ」である。これはいわば自由研究のようなもの。中1では自校を知る「文教学」と、その地域を知る「品川学」、中2でもある程度のテーマを設定し、研究と発表の手法を学ぶ。

「中3から高2は、テーマを自由に選びます。テーマの共通性でグループに分け、学年は混合。生徒それぞれが関心のある課題に挑みます」大学のゼミのような形で、自ら課題を見だし、その課題解決に取り組む。文教教育の新たなステージが、この春から始まっている。

School Data

〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17
☎03-3783-5511(代)
<https://www.bunkyo.ac.jp/jsh/>

- 創立 1927年
- 交通 ● 東急大井町線・東急池上線「旗の台」駅から徒歩約3分
- 東急大井町線「荏原町」駅から徒歩約3分
- 都営浅草線「中延」駅から徒歩約8分

コアネットの目

夢を実現するために必要な学び方を知り、実践する▶自分の状況を把握し、必要なことを考え、自ら実践できる力を育むために、生徒のためとなる時間の使い方を重視している同校。先生方はそうした自学探究の姿勢が身に付くまでのサポートを重要視する。生徒一人ひとりに目を行き届かせ、かつ個々の状況に合わせて、自ら学びに向かえるようアプローチを徹底する温かさの対応は、文教ならではの魅力だ。



時代に適応し続ける 伝統あるグローバル教育



from the School

松下秀房校長

「夢に終わらせるな、夢を追え！」
が私の口癖。失敗を恐れず挑戦
する意思を支えます。



夜8時まで学校で勉強ができる学習
支援センター。



全員参加の中3カナダ
修学旅行。プリティッ
シュコロンビア州の協
力を得て実施。



ACEプログラムの授業はネイティブ教員によ
るオールイングリッシュ少人数制授業。



秋に行われる桐陽
祭。新宿区にあり
ながらキャンパス
には緑がいっぱい。



好きなことに打ち込む時間
も大切。ラクロス(女子)は
中高合同で活動。



iPadはアクティブラーニングに向いている。主
体的に考え、主体的に学ぶ力の習得に役立つ。



学年ごとに決められたテーマに沿って全員が英
語でスピーチする「英語スピーチコンテスト」。

建学の精神を体現する 厚みのある国際教育

日蓮聖人の教えに基づく建学の精神「主・師・親」。松下秀房校長は現代的視点で、「主」は自主性、導く象徴である「師」は表現力・発信力、「親」は協働する力・多様性への寛容と解釈し、「どれも、変わり続ける時代に適応できる力」と述べる。

そんな現代版目白研心スピリットが最も反映されているのが、伝統あるグローバル教育だ。20年前に中学に導入されたACE (Active Communication in English) プログラムはその代表例。海外のテキストを使用した体験型学習を通して4技能を身に付け、異なる文化・価値観を持つ人々と協働するためのグローバルスキルを磨く。このプログラムが、英語と国際理解に特化した中3からの「スピーキングリッシュコース(SEC)」開設の土台となった。また、学年ごとのテーマに沿い、生徒全員が英語で発表を行う「英語スピーチコンテスト」は、今年で46年の伝統を誇る。中1から中3までの全生徒が、同じ土俵で英語の語彙力を競う単語テストも、同校独特の取り組みだ。「日常会話レベル以上の実践英語力を養うには、語彙力を増やすことが重要だと始めたものですが、先輩たちに刺激を受けて勉強を頑張るので、1年ごとに学年平均点が伸び、生徒たちの自己肯定感を高める効果も生んでいます。身に付いた力を試す海

外研修も、状況を見ながら再開していきたいですね」と松下校長。状況が改善した場合に再開する中3のカナダ修学旅行(特進・総合各コースは1週間、SECは3週間)は、ホームステイをしながら現地校のサマーキャンプを体験する。高2では、恒例のオーストラリア短期留学(SEC対象)のほか、特進・総合の両コース全生徒を対象とした、台湾研修旅行も新たに計画しているという。

「コロナ禍で実施できないことも多々あった3年間ですが、大事な気付きもありました。例えば、『教育』の2文字の意味。知識を『教』えるはオンラインでもできますが、人間性を『育』てるは、集団中での刺激や体験の絶対量が不可欠です。教室の授業だけでなく、協働性、多様性の受容、他者への理解を育むクラブ活動や、探究の時間なども重視しながら、アフターコロナを見据えた教育環境を整えていきます」
英語の学びに代表される先取の気風と、「教育」の原点に事あるごとに立ち戻る質実剛健さ。どちらも併せて、目白研心の魅力である。

School Data

〒161-8522
東京都新宿区下落合4-31-1
☎03-5996-3133
https://mk.mejiro.ac.jp/

- 創立 1923年
- 交通
 - 西武新宿線・都営地下鉄大江戸線「中井」駅から徒歩8分
 - 都営大江戸線「落合南長崎」駅から徒歩10分
 - 東京メトロ東西線「落合」駅から徒歩12分

コアネットの目

生徒の自己肯定力を育み、入学後の成績が著しく伸びる学校▶ 少人数の利点を生かしたきめ細かな教育と、英語教育に定評がある。2022年度は中学・高校共に入学者が前年比約1.5倍となった。あえて先取り教育をせずに、授業では基礎教育に重点を置き、生徒一人ひとりに寄り添って主体性や個性を伸ばしている。部活動が終わった後でも利用可能なチューター常駐の学習支援センターが、最適な自学自習プログラムを支えている。

立正大学附属立正中学校・高等学校

Homepage

将来必要な力を育てる
「R-プログラム」とキャリア教育

from the School



大場一人校長

先の見えない時代だからこそ、
未来を見据えた真の力を身に付
けてほしい。



左/毎朝ショートホームルームで実施される「R-プログラム」。「コラムリーディング」と「1分間スピーチ」を行い、「調べる・読み取る・表現する力」を養う。

下/「働くこと」「社会で生きること」の理解を深めるために行う「職業講話」。さまざまな仕事に就いた卒業生が講演する。写真は映画監督の藤井道人さん。



上/電子黒板やタブレット端末を活用し、各授業にアクティブラーニングを積極的に取り入れている。

右/人工芝のグラウンドをはじめ充実したスポーツ施設が整う。写真は2021年度に関東大会に出場した弓道部。



高校教頭で進路指導部長の平林重郎先生。



中学教頭で教務部長の島村雄一先生。

調べる、読む、表現する
将来役立つ「3R」の力

「行学二道（学んだことを行動に生かす）」を建学の精神に掲げる、立正大学附属立正中学校・高等学校。

「21世紀を生き抜く資質・能力を6年間で身に付けてもらうこと。それが本校の教育目標です」と語るのは大場一人校長。その目標達成のため、同校が2013年から継続しているのが、「R-プログラム」だ。

Research（調べる）、Read（読み取る）、Report（表現する）。自己実現の土台となる三つのスキルを伸ばすことを目的とした「R-プログラム」の柱は、中1から高1まで、毎朝20分間のショートホームルームで実施される。新聞の社説やコラムなどを読み、自分の意見を200字程度の文章にまとめる「コラムリーディング」と、まとめた意見をみんなの前で発表する「1分間スピーチ」だ。

「低学年では、社会ルールなどの生活に密着したテーマを扱い、学年が上がるごとに、社会問題やSDGsなどにテーマを広げていきます。中学の早い時期から社会に目を向ける習慣が付き、これからの世を生き抜くために必要な思考力や表現力、コミュニケーション力を養うトレーニングになります」と島村雄一中学教頭。読解力・記述力を向上させる日課が、大学受験対策にもつながっているのは言うまでもない。

キャリア教育にも立正らしい特色がある。中1を対象に卒業生が講演

を行う「職業講話」は、20年以上も続く同校の伝統行事だ。

「証券会社、環境省、看護師、パイロット、作曲家、映画監督ほか、本校にはさまざまな分野で活躍する卒業生がいます。今は子供と社会のつながりが希薄な時代。中学の早い段階からいろいろな大人と接することで、社会を知ってもらい、将来を意欲させることが最大の目的です」と、平林重郎高校教頭は説明する。

中2・中3の「職場体験」をはじめ、コロナ禍においては実施できなかった行事も、今年度から感染対策を徹底したうえで、情勢を見極めながら可能な限り実施していく予定だ。「オンライン文化祭やリモート授業で得た成功体験を生かし、今後は対面とオンライン、二つの学びを融合させた、ウィズコロナ型教育に取り組んでいきます」と大場校長。

昨年度の中1よりタブレット端末の所有が始まり、来年には全校生徒が一人一台のタブレットを活用して授業に臨む。ICTの本格的導入により、立正独自の「R-プログラム」とキャリア教育がどのように進化するのか、期待が高まる。

School Data

〒143-8557
東京都大田区西馬込1-5-1
☎03-6303-7683
<https://www.rissho-hs.ac.jp/>

- 創立 1904年
- 交通 都営浅草線「西馬込」駅から徒歩約5分

コアネットの目

多様な進路を実現！ 充実したサポート体制が魅力！ ▶ 付属校ながらも他大学への進学割合が6割超という同校。2022年度の大学入試では京大、一橋大などの国立大、難関大、GMARCHに多数合格。さらに東京藝術大、東京海洋大、防衛大などの合格実績もあり、進路の幅が広い。それを実現しているのがきめ細かなサポートで、年間3回以上の面談や、高校における多様な選択授業（中国語など）が実施されている。

West 関西

大阪府、兵庫県

私立ならではの教育が魅力の関西の中高一貫校17校





from the School

平岡宏一校長

将来像を持ち、そこから逆算して「今何をしなければならないか」を考える思考力が必要です。

Homepage



仏教をベースとする人間教育で 変化が激しい時代を生き抜く力を

マンツーマンで徹底的に読書感想文や小論文を指導する。



右/ウクライナ情勢など最新のニュースも交え、毎日の朝礼で講話を行う平岡校長。



下/大阪上本町駅から徒歩約3分と、通学の便が良いのも魅力。写真は中央館。



オリンピック選手も輩出する体操競技部をはじめ、インターハイで何度も優勝しているヨット部など、部活動の活躍も目覚ましい、まさに文武両道の学び舎だ。

興味関心を探求できる 知的好奇心の種をまく

男子校として長い歴史を持ち、難関大学への進学実績を誇る進学校であり、クラブ活動でも多数のトップアスリートを輩出してきた清風中学校・高等学校。約9割の生徒が部活動に参加し、昨年も卒業生が東京オリンピックの体操競技で銀メダルを獲得するなど、「文武両道」を貫く。

清風では学生生活すべてを学びの時間と捉え、部活や行事を通して生きる力を育てる。そういった経験を積み重ねることが、考える力・問題解決力を伸ばすとともに、リーダーとしての自覚も育む。定評ある中学の「読書感想文」や高校の「論文指導」には専属スタッフの指導もあり、文筆で知恵を磨くことで思考力と表現力の土台を構築していく。

同校は今年はじめに東京大学推薦入試で合格者を輩出。京都大学の特色入試でも薬学部にも合格者がいた。前者の生徒は中学入学後に仏教に興味を持ち、高野山真言宗僧侶でもある平岡宏一校長が執筆した専門書を読破したうえで、22もの質問状を送ってきたという。薬学部にも合格した生徒は、国語が苦手だったが中学の週1回のプロジェクトや感想文指導で徹底的に勉強。数学物理研究会でも甘く感じる理由を研究し、入試の面接でもその話をしたという。

「苦手を克服したうえで、自分で課題を見つけ、深く議論して結論まで

たどり着いた。今回のことから大学が欲しているのは、自分からやりたいことに対して本気で探る、尖った生徒。だと実感しています。倫理観と道徳観をベースに知的好奇心を持ち、それを突き詰めていくことができる人間。当校でも将来のキャリア形成を踏まえて志望校を考えられる生徒が年々増えてきました」

創設以来の基盤は仏教をベースとする人間教育だ。同校では毎日の朝礼で平岡校長による講話がある。自分を高めていくことで、多くの人々を幸せにする「自利利他」の精神を根付かせ、予測困難な未来を生き抜くための指標を持たせたい考えだ。最近ではウクライナ情勢について触れることも。「私たちにあって人権や民主主義は空気のように存在しますが、そうでない地域もある。だからこそ自覚して守っていかねばならない。話し合いで解決するならば、お互いの人権を尊重して、同じ目線で行わなければならない」。そういう日々の問い掛けが、彼らの心に知的好奇心の種をまく。

School Data

〒543-0031
大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町12-16
☎06-6771-5757
<https://www.seifu.ac.jp/>

- 創立 1945年
- 交通
 - 近鉄・阪神なんば線「大阪上本町」駅から徒歩約3分
 - 大阪メトロ谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅から徒歩約7分
 - JR大阪環状線「鶴橋」駅から徒歩約12分



コース刷新で未来を切り拓く リーダーシップ・プログラムが充実

from the School



下川清一校長

新たな時代に必要とされる力を身に付けるよう、全力で育てていきます。



上/コロナ禍にはイングリッシュキャンプで国際体験。



左/日本のマッチ王といわれた実業家・滝川辨三によって創立されてから104年を数える。



上/以前から高校で行っていた課題研究のポスターセッション。

右/「Science Global一貫コース」では3カ月間のニュージーランド留学を行う。生徒たちは見違えるほどたくましくなって帰ってくるという。



医学部進学に 特化したコースも

創立から104年、「至誠一貫」質実剛健「雄大寛厚」の三つの校訓と、実学重視のDNA、リーダーシップ教育への熱い思いが脈々と受け継がれている滝川中学校・高等学校。本年度より中高の新コースがスタート。中学校が「医進選抜」「Science Global一貫」「ミライ探究一貫」の3コース、高校は「Science Global」「ミライ探究」の2コースで、高2から文系・理系に分かれる。

「医進選抜」はゴールを医学部進学に特化したコース。そこに向かって高い意識を持って臨む生徒を徹底的にサポートします。医学部に合格するには、とにかく勉強するしかありません。多くの問題に短時間で解答し正解することが、医師に求められる瞬時の判断力を鍛えることにもつながります。そう語るのは下川清一校長。そのために医学部専門予備校とタイアップして教員とチームを組み、通常の授業だけでなく毎日の放課後講習を行うという。

手厚い進学指導に加え、強い使命感と倫理観を育んでいくことも怠らない。そのために医療や命に関する学びを深めるイベントを月1回実施し、医師以外の医療の仕事を知る機会も設けられている。こうして6年後のゴールを目指す。

高い学力と豊かな人間性、主体性を身に付けて国際社会に貢献する

School Data

〒654-0007
兵庫県神戸市
須磨区宝田町2-1-1
☎078-732-1625
<https://www.takigawa.ac.jp/>

- 創立 1918年
- 交通 神戸市営地下鉄・山陽電鉄「板宿」駅から徒歩約5分

「Science Global一貫」コースでは、中3の3学期にニュージーランド3カ月留学を必須としている。現地では全員違う家庭にホームステイ。学校と生活を通して異文化に触れ、問題を自分の力で解決する力を養いながら、実践的な英語力を伸ばす。また多彩な実験・観察を行う理科授業も充実している。

深い学びを通して語学力と教養を身に付け、未知なる課題に挑戦する「ミライ探究一貫」コース。こちらは多くの探究プログラムを用意し、6年間かけて「自分はどういう道に進みたいか」を考え、自信を持って歩める生徒を育成する。

探究活動は、以前から高校で行っていた課題研究をポスターセッションで発表するプロジェクトを中学でも実施。学びながら自分のやりたいこと、進むべき道を見つけ、伸ばしていける環境を整える。下川校長が「校内に三つの学校があるようなもの」と語るほど、それぞれのコースの特色が際立っている。生まれ変わった名門の挑戦に期待したい。

コアネットの目

リーダーシップ教育の滝川が、今年度から中学にも新3コースを導入▶兵庫を代表する男子校として、リーダーシップ教育や社会人の基礎力を伸ばす特色教育に注力する滝川中高。導入される新3コースには、それぞれ入学者へのメッセージが際立つ。著名な実業家であった創立者から脈々と受け継がれた挑戦心は健在だ。



本物に触れる留学体験で 自分の意思で人生を歩み、活躍できる女性に

from the School



横山 強校長

自ら学ぶ意欲、他者理解、英語力を基礎から身に付け、国際社会で活躍できる女性を育てます。



上／摂津市の静かな環境の中にある学び舎。
右／リアルな英語にふれるネイティブ教員の授業が数多くあり、高校卒業時に英検®1級～準2級取得を目指す。



入学後すぐに行われる体育祭で、仲間との絆が生まれる。



一方的な授業ではなく、まずは英語を話してみることに重点を置き、生徒同士でiPadを使ったプレゼンも盛り込みながら授業を展開。少しずつ話せるようになっていくことで、生徒自身が成長を実感できる薫英独自の英語教育メソッドを構築した佐藤先生。

「話す・聞く・読む・書く」の英語4技能を、アクティビティなどを通して楽しく学ぶ。中1ではとにかく易度も上がり、中3では社会的なトピックも取り上げ、異文化理解などアカデミックな内容になっていく。



右／薫英独自の班学習。ネイティブ教員による手厚いサポートで、英語に対する苦手意識が「好き」に変わっていく。

左／1年間の長期留学と、3カ月間の短期留学がある。直近2年間の留学先はカナダで、コロナ禍でも生徒を送り出している。



留学体験が育む 自己実現への道

昨年、創立90周年を迎えた大阪薫英女学院中学校・高等学校。同校がこだわっているのは「ひとりりで勉強しない」ということ。英語検定®もほぼ全員が取り組み、仲間が勉強する姿に刺激を受け、切磋琢磨する。その結果、高校卒業時には約92%が準2級以上を取得し、20年連続で英検®1級取得者を輩出。その英語力をひとつの力として、自分たちの進路実現に向かっていく。

「当校は入学後すぐ4月に体育祭を開催することにこだわっています。目的に向かって上級生と一緒に、ひとつの行事に取り組むことで感動が生まれます。こうした経験を数多く経て未来の糧となる熱中力を育み、仲間を大切にできる「薫英生」になつていくのです」(横山強校長)

一貫教育の国際・進学コースの英語授業は、中学ブロック長の佐藤啓先生が勉強会に参加しながら、校風に合う形で薫英メソッドを構築した。授業は基本オールイングリッシュ。

「できるだけネイティブが言語を習得していく過程と同じような形で、英語を体験させていきます」

「話す・聞く・読む・書く」の英語4技能を、アクティビティなどを通して楽しく学ぶ。中1ではとにかく易度も上がり、中3では社会的なトピックも取り上げ、異文化理解などアカデミックな内容になっていく。

薫英は「英語を学び留学する」ことを目的に入学する生徒が多い。そのため生徒の7〜8割が、中3で約1年間ニュージーランドへ留学する。現地の学校は1校につき2〜3人、ホスト家庭に生徒1人が原則だ。薫英が姉妹校提携している学校は50校以上。30年以上前からこれまで約4500名を留学させてきた。そんな実績からコロナ禍で多くの学校が海外活動を断念するなか、昨年も行き先をカナダとして実施した。

留学を終え帰国した生徒は見違えるほどの成長を見せ、国内外のさまざまなフィールドで活躍する卒業生も多い。「本物を見せなければ意味がない。現地で人生観が変わるような体験をして感動したり、カルチャーショックを受ける。そういう体験があつてはじめて、本当の意味で語学は身につく。それが実現できるのが本校の強みです」と国際教育部長の谷口秀一先生は語る。根幹にあるのは人間力の育成。「自分の意思できちんと歩める女性になってほしい。そうならばおのずと学力はついてくると確信しています」(谷口先生)

School Data

〒566-8501
大阪府摂津市正雀1-4-1
☎06-6381-5381
<https://www.kun-ei.jp/>

- 創立 1931年
- 交通
 - 阪急京都線「正雀」駅から徒歩5分
 - JR京都線「岸辺」駅から徒歩10分
 - 大阪モノレール「摂津」駅から徒歩15分

コアネットの目

「留学なら薫英」の評価は本物。試練を乗り越えて真の国際人を目指す▶国際教育、英語教育の伝統校として名高い同校。特に、長年留学を支えてきた教師陣が持つ現地の人脈や現地校との信頼関係、豊かな経験はコロナ禍でも効果を発揮した。感動体験を重ねて熱中力を備えた「薫英生」の、未来の活躍が待ち遠しい。



Homepage



キリスト教に基づく教育により 真の自立心と自ら未来を切り拓く力を養う

from the School

入試対策室長 村上 蘭先生

思いやりをもって他者と関わる。
平和な世界を創り出すひとを育てます。



上/歴史ある学び舎。正面の建物がヴォーリス設計のヘールチャペル(国登録有形文化財)。



左/一条校として大阪で初の日本語ディプロマの認定を受けた、高校英語科の国際バカロレアコース。



自分の特性に気づく中学3年間を経て、高校では普通科(文系、理系)、英語科(英語コース、IBコース)に分かれる。



年間を通して宗教行事、文化行事、体育行事などの多彩な学校行事があり、生徒たちが自主的に運営している。写真は合唱祭。



毎朝の礼拝では、讃美歌を歌い、聖書のことばに耳を傾ける。



文化祭は、最も盛り上がる行事のひとつ。

極めたいものに 好奇心のまま挑む

1884年の創立以来、138年にわたりキリスト教に基づく教育を实践してきた大阪女学院。伝統的に自由を重んじるその教育は、ユニークな魅力に彩られている。

中学校はコース設定のない、いわゆるリベラルアーツのカリキュラム。例えば理科の授業ではフナ解剖と観察に8時間かけ、ものをよく見る視点を養うなど、じっくりと時間をかけて深め、生徒が興味を持って取り組めるよう工夫されている。こうした学びを通して、自分には何が適しているかを考え、進みたい方向を見極め、自身で選択できるように指導していく。

「コース別ではないので、多様な生徒が共に生活します。この環境で学んでほしいのは、人と違っているんだ」ということ。思春期という多感な時期にこそ自己肯定感を高めてほしい」と話すのは、入試対策室長の村上蘭先生。同時にほかの生徒の意見を「否定しない」ことを大切にしている。自分と違う意見を受け入れる柔軟さと、正しいと思うことを物おじせずに発言できる強さを携え、他者のために働ける思いやりを持った人に育ててほしいと願っている。

また、コミュニケーションツールとしての英語力習得に力を入れる。英語を学ぶというより、英語で学ぶことを意識し、自分の思いを英語で伝えられるようになることを目

標としている。さまざまな視点から多彩なトピックを学ぶ機会に恵まれ、海外に興味を持つ生徒も多い。

海外で活躍する卒業生も多く、コロナ禍の一昨年は22人が海外大学に進学。海外進学を広くサポートするため、学内には生徒・保護者の進路相談から海外大学との入学提携、奨学金まで豊富な情報を提供する「海外進路」の部署を設置している。

また、2018年度から高校英語科に「国際バカロレア(IB)コース」を設置。「本校はキリスト教の教えに基づき、愛と奉仕の精神で社会に貢献する人間を育てるという教育方針を掲げています。それはIBの理念と親和性が高く、すなわち平和な世界を創ることに貢献できる人の育成につながると思っています」

クラブ活動も盛んで、生徒の85%が参加。また、放課後の時間は自分と向き合い、人生を豊かにするための時間に使ってほしいと考え、16時には授業を終了できる時間割となっている。世界に羽ばたく生徒たちの未来に期待したい。

School Data

〒540-0004

大阪府大阪市中央区玉造2-26-54

☎06-6761-4451 (中学校)

https://www.

osaka-jogakuin.ed.jp/

●創立 1884年

●交通

- 大阪メトロ長堀鶴見緑地線「玉造」駅から徒歩約3分
- JR大阪環状線「玉造」駅から徒歩約8分
- 大阪環状線・大阪メトロ中央線「森ノ宮」駅から徒歩約12分



未来を決めるのは私たち 探求する心が道を切り拓く

from the School



中林千景副校長

答えのない世界で、未来を自分で決めることができる生徒を育て、社会へ送り出します。



左/「探求・環境」はSDGsについてグループワークで研究。

下左/全校生徒がつながるアトリウムは、明るく開放的な空間。

下右/年間を通してさまざまな学校行事があるが、なかでも体育大会は盛り上がる。



1人1台のタブレットを使ったオンライン国際交流。



生徒たちには発表の機会も多く設けられている。

深く追求する「探求」が 甲南女子の学びの根幹

建学の精神「まことの人間をつくる」を核にした伝統と、先進的な取り組みを融合させた人間教育で多くの女性を社会に輩出。国公立大学や医学部へ毎年合格者を出し、進学実績も目覚ましい甲南女子中学校・高等学校。教育環境もアップデートし、一人一台所有するiPadを活用したオンライン英会話の導入や、「Google Workspace for Education」「Meta Moji Classroom」を活用して学びの質を向上させてきた。

それ以上に大切にしているのが「総合学習」だ。同校では20年以上前から教育に取り入れ、常に未来を見据えて教育改革に取り組んできた。「自分の興味のあるものを見つけて、それを深く追求する『探求』こそ学びの根幹と捉えています。その過程で生徒自身が自分の適性や目標を見極めて勉強する。それは20年以上変わらません」と中林千景副校長は語る。そのための仕掛けとして中1では「尊重」をテーマに、アサーショントレーニングを導入し、他者との違いを認め、互いを尊重することの大切さを学ぶ。中2では学校の内外問わず他者と「対話」して理解し合うことを目標とする。週1時間、さまざまなテーマで友達とも意見交換し、2学期には、広島での被爆関係者へのインタビューで戦争の知識と共に他者と対話するスキルも身に付ける。さらに中3では総合の1時間を使っ

た「探求・環境」。SDGsの17の目標の中から6講座をつくり、生徒は興味を持った項目を選んで調べ学習や意見交換、あるいは企業や大学の協力を得て話を聞いたり現地訪問などを実施。「1年を通じて1テーマで深めていく。ここからは他者と関わりながら自分自身を発見していく旅になります」（中林副校長）

今年から始まる高1の週2時間の「自己探求」は、探求学習の集大成。SDGsをテーマに6講座に分け、講座ごとにふたりの担当教員が付いて個別の指導をきめ細かく行う。ここでは知的なレベルアップだけでなく、視野を広げてほしいという思いもある。

変化の激しい時代だからこそ、何かあったときに柔軟に対応できる「しなやかな強さを持った女性」になってほしい。未来は誰にもわからない。不安はあるが希望もある。「社会には答えが見つからない問題が山積みだけれど、甲南女子で6年間を過ごした生徒たちは、強い決意を持ち、しっかりと前を向いて歩いていくでしょう」（中林副校長）

School Data

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町5-6-1
☎078-411-2531
<http://www.konan-gs.ed.jp/>

- 創立 1920年
- 交通
 - 阪急神戸線「芦屋川」駅から徒歩約15分
 - JR神戸線「甲南山手」駅から徒歩約10分



考える力と表現力を身に付け 「美意識」を育む教育



from the School

楠野宣孝校長

生徒が自分の中に確固たる判断基準＝美意識を持ち、それを表現できるように育てていきます。



上／自分のため、人のために頑張っている生徒の行いを見逃さず、校長の名前で生徒の自宅に送られる小さな表彰状「プライドカード」。

左／年間行事も多彩。3学期には箏曲部の演奏をはじめ、読み手、審判もすべて生徒が行う百人一首大会も。



生徒たちが自主的にウガンダ支援の活動を行う「ウガンダプロジェクト」。



「国際教養コース」では中3でイギリス研修(2週間)を予定している。



右／毎朝10分間、朝の学習として音読や百マス計算などを行う。心を落ち着かせる効果があるという。

左／クラブ活動に集中できる環境を整えた「身体表現コース」。ダンスと新体操、バントワリング、ボンボンチアの4つのクラブがあり、全国レベルを誇っている。



さまざまな体験が 美意識を向上させる

大正期、船場の子に教育を受けさせたいとの機運が高まり、樟蔭学園の礎を築いた森平蔵は、私財を投じて私立の高等女学校を設立。戦後の学制改革などを経て、幼稚園・中学校・高校・大学・大学院からなる女子の総合学園として発展した。「当校のモットーは「知・情・意を兼ね備えた女性を育む」。高い知性と豊かな情操を備え、強い意志を持った女性を育てることです。知性だけでは、人に影響を与えることはできません。そこで求められるのが情つまり豊かな情操です」。そう語る楠野宣孝校長。

豊かな情操や強い意志を持つこと、すなわち独自の判断基準を育むために「美と表現」を教育の指針とし、さらに「美意識」というキーワードを挙げる。ここでいう美意識とは表層的なものではなく、すべての事象に対する価値判断を指す。一人ひとりが確固たる判断基準を持ち、それを美意識として育てていく。

具体的な取り組みとしては、陰徳を積み、それを教員が認め、褒め育てる教育がある。そのひとつが、生徒の小さな頑張りに対して贈られる「プライドカード」という表彰状の郵送。こつこつ努力を続ける生徒を称えたいと9年前から始め、発送数は3000通を超えた。些細な頑張りや変化を見逃さずに褒めることで、普段は目立たない生徒も自己肯定感

を高めることができ、それが美意識の萌芽となる。中学校では、英語教育が充実し、国公立・難関私立大学への進学を目指す「国際教養」、基礎学力を定着させ、有名私立大学や大阪樟蔭女子大学へ進学する「総合進学」、個々の能力や個性を伸ばし、豊かな感性と人間性を培う「身体表現」の3コースが設けられ、生徒のさまざまなニーズに応えている。ユニークなのは3コースの生徒がクラスに混在すること。国語・数学・英語以外はクラス単位で授業を受け、毎年クラス替えもある。

School Data

〒577-8550
大阪府東大阪市菱屋西4-2-26
☎06-6723-8185
https://www.osaka-shoin.ac.jp/

- 創立 1917年
- 交通 ● 近鉄奈良線「河内小阪」駅から徒歩4分
- JRおおさか東線「JR河内永和」駅から徒歩5分

同校ではボランティア活動にも積極的だが、これも美意識の表現といえる。創立100周年にスタートした「ウガンダプロジェクト」が発展し、ボランティア活動に取り組み有志の団体CSAを結成。学校周辺の清掃からウガンダ支援のための文房具回収・寄贈や募金活動などを自主的にを行っている。目的を見つけ、何をすべきかを考え、行動に移す。こうした取り組みが、一人ひとりの資質を引き出し、高い美意識を育んでいく。

を高めることができ、それが美意識の萌芽となる。中学校では、英語教育が充実し、国公立・難関私立大学への進学を目指す「国際教養」、基礎学力を定着させ、有名私立大学や大阪樟蔭女子大学へ進学する「総合進学」、個々の能力や個性を伸ばし、豊かな感性と人間性を培う「身体表現」の3コースが設けられ、生徒のさまざまなニーズに応えている。ユニークなのは3コースの生徒がクラスに混在すること。国語・数学・英語以外はクラス単位で授業を受け、毎年クラス替えもある。

同校ではボランティア活動にも積極的だが、これも美意識の表現といえる。創立100周年にスタートした「ウガンダプロジェクト」が発展し、ボランティア活動に取り組み有志の団体CSAを結成。学校周辺の清掃からウガンダ支援のための文房具回収・寄贈や募金活動などを自主的にを行っている。目的を見つけ、何をすべきかを考え、行動に移す。こうした取り組みが、一人ひとりの資質を引き出し、高い美意識を育んでいく。

コアネットの目

高い美意識を育む、きめ細かな教育活動の工夫と継続が確かな成長へ▶知性・情操・強い意志を持った女性を育てる、幼稚園から大学・大学院までの総合学園として発展してきた樟蔭中学校・高等学校。自身の判断基準を持つ人へ、という教育観、褒め育てる教育で自己肯定感を高めるきめ細かさにも注目したい。



入試広報部長 古庄 誠先生

体験学習で身に付けた主体的に学ぶ力が、未来を生きる力となります。

Homepage



学力と人間力を育み 難関大学進学を目指す一貫教育

from the School



左／仲間と共にゴールを目指す同校名物の「しまなみ海道夜間歩行」。最後まで諦めずに頑張る貴重な体験だ。



下／コロナ禍の昨年は日帰りで行った「理科実習」。調べて発表するまで持つていく。



上／前身は1914年に設立された大阪貿易語学校。108年の歴史を誇る。



左／一昨年の高校2年の修学旅行は、北海道夕張市へ。人口減少などの課題をもらい、解決のアイデアを現地で発表した。写真は酪農体験。

学ぶに楽しいへと 関心を広げる探究教育

「自分で考えて行動する力」、それが身に付くのが開明の学びだ。中学は東京大学・京都大学・国公立大学医学部医学科への進学を目指す「スーパー理数」と、国公立大学や難関私立大学への現役進学を目標とする「理数」の2コース制。習熟度別に指導し、卒業生の6割近くが国公立大学へ進学する。

今年、国公立大学は学校推薦型選抜や総合型選抜入試で40名の合格者を輩出し、過去最高となった。また京都大学は特色入試がスタートした16年度から7年連続で合格者を出してきたが、今年は7名と全国最多の合格者が出た。古庄 誠入試広報部長は「一般人試で受験する生徒にも、大きな励みや原動力となった。やりたいことに対して最後まで諦めずに頑張る姿勢が、生徒たちに定着したと実感しています」と語る。

開明中学校の学びの特色のひとつは、本物志向であること。和歌山県の磯で観察や実験を行う中2の「理科実習」など、座学だけでなく校外での体験学習も展開することで本物に触れる機会を増やし、学ぶ楽しさから学習意欲を高めてきた。「行事の開明」として知られる同校では、こうした行事をおよそ3カ月に2回の頻度で実施。行事は教科の指導とも結び付いており、実施後にはレポートの作成や感想文などのまとめも必ず行っている。

一昨年は高2の修学旅行も無事行われた。ここでは夕張市から漁業や人口減少などの課題をもらい、事前の調査でスライドを作成、現地での体験とまとめて発表した。「課題に対して自分で調べ、まとめて人前で説明する力が付けられます」と古庄先生。こうした行事を経て生徒自身が大学で学びたいことを見つけ、その実現に向けて進路指導や担任が一緒に探っていく。

なかでも卒業記念行事「しまなみ海道夜間歩行」は、中学校生活の集大成ともいえるイベント。広島県生口島の海洋センターから愛媛県今治市の糸山公園まで約43kmを14時間かけて歩く。夜を徹して仲間と歩く体験が、試練を乗り越える力になり、達成感や仲間との一体感など、多くを得ることができるといふ。「長年やってきたことが、子供たちの中に定着してきた。今後も生徒に考えさせるきっかけを増やし、クオリティを保ちながらブラッシュアップし、次のステージを目指します」

School Data

〒536-0006
大阪府大阪市城東区野江1-9-9
☎06-6932-4461
<https://www.kaimei.ed.jp/>

- 創立 1914年
- 交通
 - JR・京阪「京橋」駅から徒歩約8分
 - JRおおさか東線「JR野江」駅、京阪本線「野江」駅から徒歩約12分
 - 大阪メトロ長堀鶴見緑地線・今里筋線「蒲生四丁目」駅、谷町線「野江内代」駅から徒歩約12分

コアネットの目

行事や体験学習など、本物の学びが、群を抜く進学実績に結実 ▶ 国公立大学合格等の進学実績に定評がある開明中学校・高等学校。京都大学・特色入試をはじめとする学校推薦型、総合型の合格者も堅調に伸びている。日々の教育実践はもちろん、行事や体験学習の豊富さが原動力となっている。



未来を見据えた学習環境が完成 無限の可能性を引き出す



from the School

進路指導部部长 向井 史先生

本当にやりたいことを見つけ、
そこから志望校を決めるのが本
校の進路指導です。

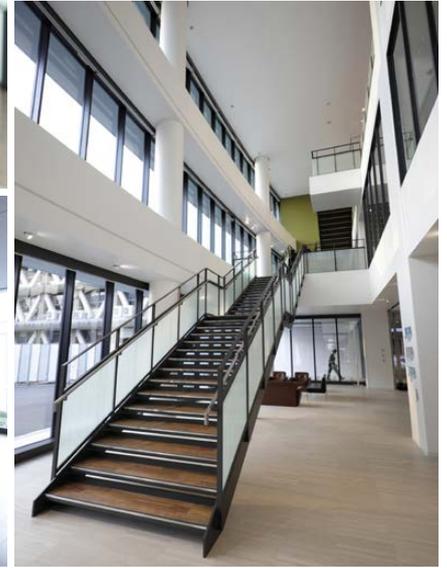
今年の4月から供用を開始した中央共用棟には、図書室に加えて、生徒たちが自主的に学べる快適な場所が用意されている。



探究ではSDGsについても重要なテーマ。



自然が残された広大な敷地で、生徒たちは伸び伸びと学校生活を楽しんでいる。



偏差値ではなく、 自主的に大学を選ぶ

今年創立120周年を迎える関西大倉中学校・高等学校。自然豊かな校地12万㎡を生かした学びは、新しい高校棟や中央共用棟の竣工により、ますます可能性に満ちたもの。高校棟から渡り廊下でつながる中央共用棟は、多機能型図書館が備わった学習センターや、知的好奇心をかきたてられるサイエンスラウンジなど、これからの教育を意識した内容だ。歴史ある進学校として知られる同校では今年、国公立大学に166名が合格。京都大学・大阪大学・神戸大学へは33名。その背景には丁寧な学習指導と専属の進路担当者による指導がある。「こまめな小テストがあり、中学の数学では週1回、鍛錬テストを実施。結果や必要に応じて再テストや補習を行います」と進路指導部部長の向井 史先生。日々の積み重ねが、確かな基礎学力の定着を生み出していく。

「生徒には『行ける大学ではなく、行きたい大学に行きなさい』と指導しています。偏差値に合わせた進路指導ではなく、生徒が自主的に大学を選ぶのが当校の特徴です」。そのため大学と連携し、キャンパスの雰囲気やハイレベルな学びを具体的に体験・体感できる機会が用意されている。独自の学校見学会やオープンキャンパス体験は毎年実施。「学問体感」では、京都大学をはじめ国公立大学の先生を招き、講義を受講し

て、学習意欲の向上と受験に対するモチベーションを上げる。

探究への取り組みにも独自性が光る。昨年4月、「自分たちで問いを立てる」ところからスタート。高1では自分が日々の暮らしで疑問に思うことをテーマにした。すると、「生きたら何か」など、哲学のように答えのないものも。それもありとし、答えを出す過程を重視。中間発表ではクラスメートからさまざまな疑問を投げ掛けてもらい、自分なりの結論に導いて発表する。

国際教育も充実しており、昨年から実施しているPBL型オンライン国際交流に加え、今年4月から中1・中2を対象にグローバル・コンピテンス・プログラムを始動させる。グローバルコミュニケーション力、文化横断的・相互的なものの考え方、多様性の尊重などからなり、これからのグローバル社会で生きる能力を身に付ける。「教材も思考力や表現力を意識したプログラムとなっており、これをきっかけに海外で活躍できる人材に育ってほしい」と向井先生も期待を寄せている。

School Data

〒567-0052
大阪府茨木市山2-14-1
☎072-643-6321
<https://www.kankura.jp/>

- 創立 1902年
- 交通 阪急宝塚線「石橋阪大前」駅、北大阪急行・大阪モノレール「千里中央」駅、阪急千里線「北千里」駅、JR京都線「茨木」駅、阪急京都線「茨木市」駅からスクールバス

常翔学園中学校・高等学校



Homepage



未来に必要とされる力にフォーカス 強く生き抜くための多彩なプログラム

from the School

根来和弘校長補佐

多くの体験を通して、自分の将来像や、そうなるための進路目標を見つけてほしい。



左／同一法人に大阪工業大学など3つの大学を擁するメリットを生かし、中高大連携のプログラムを実施している。

下左／保護者から好評の放課後学習サポートシステム。生徒のレベルに合わせて、学習の習慣を付ける。
下右／高校では探究学習を深化させていく。



すぐ横は淀川が流れ、環境にも恵まれている。



同校は今年学園創立100周年を迎え、100周年記念ソング「常翔ライダー」を制作、ホームページにもアップされており、入学式で披露された。

6年間で社会や企業、働くことを学び体験する

関西工学専修学校を前身に2011年の中学校開校以来、進学校、大学併設校、独自のキャリア教育を実践する特色教育先進校という三つの要素を併せ持つハイブリッド校として、進化を続けている常翔学園中学校・高等学校。

今年からは最難関国立大学合格を目指す「スーパーJコース」を新設。中1から大学受験を意識し、思考力重視のハイレベルな授業を展開する。今年の中学入試は募集25名に対して志願者は180名と約7倍となり、期待値の高さそうかわせる。

同校は生徒を丁寧に見てくれる学習のサポート体制が充実。人気の要因となっている。それが上昇し続ける進学実績につながり、現役で国立大学100名以上、関関同立にも250名を超える合格者を出す学校になった。「JOSHOU+」は外部団体と連携した放課後学習サポートシステム。講師が常駐し、生徒がいつでも質問できる環境を整えている。またAI教材のatama+でつまづきの原因や苦手分野を数値化し、個々に応じた的確な指導を実現している。中1は全員参加、中2以降は希望制で「学校の中で勉強を完結させる」習慣が身に付く。「本校のように進学校でありながら、教育理念に職業観を掲げる学校は唯一無二。生き方や社会との関わりを考えるプログラムを数多く用意して

School Data

〒535-8585
大阪府大阪市旭区大宮5-16-1
☎06-6954-4436
<https://www.highs.josho.ac.jp> (入試部)

- 創立 2011年(中学校)
- 交通
 - 大阪シティバス34号系統「大宮小学校前」徒歩約3分
 - 大阪メトロ谷町線「千林大宮」駅、谷町線・今里筋線「太子橋今市」駅から徒歩約12分
 - 京阪本線「千林」駅、「滝井」駅から徒歩約20分

います」。そう語るのには根来和弘校長補佐。常翔学園グループとして大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学を擁し、そのスケールメリットを生かした中高大連携などの教育プログラムを用意。職業観を支えるキャリア教育も、昨年度から「常翔STEM」AM」として進化させた。例えば中2の「常翔学園中大連携プログラム」では、摂南大学経済学部でシミュレーション授業を実施。生徒一人ひとりが社長になり、資金を集めて本社設立から雇用、広報活動などを通じて自分の会社をいかに発展させるかを考えた。さらに高校ではキャリア教育を究めていく探究学習（企業探究学習、ガリレオプラン探究、ヤングリーダーズプラン、夢発見ゼミ）がある。これらの授業の中で課題を見つけ、大学や企業、地域と連携しながら仲間とともに解決策を考えていく。いずれも実社会の問題や課題にアプローチするための知識・技能を身に付けるもので、未来を生き抜く多様な力が培われる。進化の歩みを止めない常翔学園。常翔気流に乗って、ネクストステージへ。

コアネットの目

新設「スーパーJコース」が高い支持を集めて始動 ▶ スケールメリットを活かした大学・企業連携で教育内容を常に進化させる常翔学園中学校・高等学校。丁寧な学習サポートにより右肩上がりの進学実績を実現している点も、同校の大きな魅力要素となっている。



しなやかな人間力を身に付け 社会で飛躍できる生徒に

from the School



瀧 英次校長

人生100年時代に向け、自ら学び続ける姿勢を持った人物を育成します。



上/中1が作った「私の好きな本をあなたにも」のPOPを通路に展示している。
左/探究学習の拠点となるメディアセンター。生徒たちが日常的に本に触れる機会をつくる。



メディアセンターでの授業風景。



右/中1が夏休みの宿題で作った海外旅行のパンフレット。各人の工夫が光る。



左/LL教室でのオンライン英会話。



司書教諭の河村先生は、雑誌や絵本も並べて、生徒たちの興味を引く工夫をしている。



同校OBでもある藤井教頭。「自分の中学高校時代から、体験型の学習が行われていました」。

人と人、人と知識・ 情報をつなぐ知の拠点

幼稚園から大学までの同志社系列校の中で唯一、大阪に立地する同志社香里中学校・高等学校。創立者・新島 襄が目指した教育理念を受け継ぎ、キリスト教主義・自由主義・国際主義を柱に、自治自立の精神を持って良心のもとに行動できる人物の育成に取り組んできた。

昨春には探究学習の拠点となる繋真館（メディアセンター）も完成。これはICT教育の場と図書館とを融合させた新しい学習空間で、約7万冊の蔵書を揃えた図書館とラーニングコモンズを併設し、多様な形態の学びに対応する。同校では高1・高2がノートPCを持ち、中学生にはiPadを貸与して探究活動やオンライン英会話などに活用しているが、同時に読書によって知識を養うことも重視。繋真館は各棟をつなぐ位置にあり、ここを通る生徒も多い。「書籍への興味喚起として、入口近くに中1が授業で作成した本のポップの優秀作品を書籍と並べて展示するなど工夫しています」（河村麻紀先生）

同校では何十年前前から体験型学習として各教科で「探究」に取り組んできたが、中学は昨年からは今年度からカリキュラムに「探究」の時間が加わる。中1では社会の授業で生徒が観光大使として都道府県をPR。夏休みの宿題では海外旅行のパンフレットを作成。目を引く表紙から行程や費用もリアルに算出し、

旅行会社として利益が出るようプランニングもする。2学期にはプレゼンを行うほか、テレビCMも制作。15秒という限られた時間で「本当に伝えたいこと」を凝縮して表現する情報編集力を養う。3学期はSDGsをテーマに、パーム油を取り上げ、便利で豊かな暮らしを支える食品や日用品の背景には、世界規模の課題があることに気付くきっかけをつくる。「探究」深掘りと思われがちですが、まずは視野を広げるために色々な仕掛けを用意し、発想法や整理法といった手法を教材に落としこんで継続的に探究を続ける力を付けていきます」（藤井宏樹教頭）

例年、95%以上の生徒が同志社大学や同志社女子大学へと進む。だからこそ自主性を重んじた自由な校風の中で、伸び伸びと過ごせるスクーラライフが送れる。そのためクラブ活動も盛んだ。

「アフターコロナで教育は変わる。それに対応するには人と人のつながり、人を想う心を育てることです」と瀧校長は語る。そんな「しなやかな人間力」を育んだ生徒たちは、社会で大きく飛躍する。

School Data

〒572-8585
大阪府寝屋川市三井南町15-1
☎072-831-0285
https://www.kori.doshisha.ac.jp/
●創立 1951年
●交通 京阪電車「香里園」駅から徒歩約18分

東洋大学附属姫路中学校・高等学校

Homepage



「考えるを、学ぶ。」をスローガンに、
進化を続けるキャリア・フロンティア

from the School



大森茂樹校長

自分から積極的に学ぶ姿勢が身に付き、それが学問の深みにつながっていきます。



上/キャリア・フロンティアの修了研究発表。
左/英語だけで過ごす「All English Day」。



姫路市唯一の男女共学の中高一貫校として、
年々人気が上がっている。



上/中高一貫コース教頭の黒河潤二先生。
右/中3生はオンラインで国際交流を行った。



右/近くの休耕田を借りて地場野菜を栽培した地域活性部の活動。
下/生徒たちが作った鹿肉の缶詰は、姫路の物産を扱う店舗で販売して好評。



キャリア・フロンティアで 主体的な学びを追求

姫路市で唯一の共学中高一貫校として2014年に開校。確かな学力と豊かな人間力の養成を教育の基本とし、独自の教育プログラムを実践してきた。1期生は推薦入試で東京大学や名古屋大学などに合格、2年連続現役国公立・準大学の合格率が36%に達するなど、高い進学実績を積み上げる注目校だ。

本年度からは定員を30名増やし90名に、コースも従来の一貫SAに加え、最難関国公立大学合格を目指す一貫SPコースとの2コース制に。大森茂樹校長は「中高の6年間、ブレない教育を受ければ子供たちは驚くほどの成長を見せます」と語る。

国際化、キャリア教育、哲学教育を三つの柱とする同校の教育の核は、物事の本質を見据えて深く考える力を育むプログラム「キャリア・フロンティア」だ。「文章を書くことを中心に、発表・討論を通してコミュニケーション能力を、課題研究を通して問題発見力と課題解決力を習得する独自のプログラムで、情報の収集力・編集力・発信力を育成します」(中高一貫コース教頭・黒河潤二先生)

このプログラムは中1の身近なエリアの歴史や伝統文化を学ぶ地域研究から始まり、日本、世界へと視点を広げていくもので、中2から中3にかけて兵庫県立大学でのバイオテクノロジー入門、広島・沖縄での平和学習、震災学習を実施。高1では

東洋大学のネットワークを駆使した多彩なプログラムを経て高2の修了研究へと繋がる。一部の生徒は甲南大学のリサーチフェスタで自らの修了研究を発表。昨年は「世界一美しい掃除道具「フラクタル構造をもつ野菜たち」」をテーマに研究した生徒が学長賞を受賞した。

また、部活動に活かすこともできるのが高校の地域活性部である。「学校近くの休耕田を借り、姫路若菜など野菜を使った商品開発で地域をPR。このたび地方創生政策アイデアコンテストで近畿経済産業局長賞を受賞。一貫コースの中学生で、高校でこの部に参加したいという生徒もいます」と顧問の先生。

グローバル対応も充実している。オーストラリアへの全員語学研修をはじめ、PBL型の国際交流プログラムもあり、この学びをきっかけに国際社会に関心を持つ生徒を増やしている。昨年はオンライン国際交流を通して自国文化の発信、異文化受容の寛容さを養った。「中学生の段階から多くのことに興味を持ち、探究で深めていく理念を今後も発展させていきます」(大森校長)

School Data

〒671-2201
兵庫県姫路市書写1699
☎079-266-2626
<https://www.toyo.ac.jp/himeji/jh/>

- 創立 1963年
(中学校は2014年)
- 交通 JR「姫路」駅からスクールバスで約30分

コアネットの目

本質を深く考える力を育む「キャリア・フロンティア」が可能性を拓く▶ 2014年開校の中学が、定員増とともに一貫SAと一貫SPの2コース制へ。1期生の高い進学実績を支えた「キャリア・フロンティア」は地域連携、大学連携などの厚みを加え、確かな学力と豊かな人間力を育んでいる。



from the School

生田耕三中学校教頭

教員も生徒も自由への責任を自覚し、真摯に向き合っています。

Homepage



生徒一人ひとりの自主性を尊重し
「人間力」と学力を高めていく

オンライン英会話も充実しており、海外研修に行けないなかでも英語力アップに力を注ぐ。



中1で英検[®]4級、中2で3級、中3で準2級を全員取得する目標を立て、講習も行っている。



調べ学習などにタブレットを使いこなす生徒たち。

「自由と愛の精神」のもと 自主性を伸ばす教育を

1884年に英国聖公会宣教師協会が設立したボーイズスクールを前身とする桃山学院中学校高等学校。建学の理念「自由と愛の精神」を掲げ、生徒一人ひとりの自主性を重んじる自由な校風を貫いている。

その一番のモットーは、「人間力を上げることにある」と生田耕三中学校教頭は言う。

「本校の一番の特色は、自由な校風。もちろん大学の進学実績を上げることは大事ですが、本校では、生徒一人ひとりの自主性を伸ばすことを大切にしており、生徒が自分で考え、選び、その目標のために自分の力で勉強する力を付けることを最も大切にしていきます。その力が生徒の可能性を開花させ、社会に貢献できる人間を育てることにつながります。大学進学実績の向上にもつながっていると確信しています」

中高一貫コースには、超難関国立大学・医歯薬系大学への進学を目指す「6年選抜コース」と、一人ひとりの進度に合わせた学習で国立大学・難関私立大学への進学を目指す「6年進学コース」の2コースがある。昨年は大阪公立大学

の医学部医学科、大阪大学の医学部放射線科を含む国立大学の合格者は25人。関西の難関私立大学を中心に、生徒たちは希望する進路を実現した。

自由と責任を 中学3年間で学ぶ

同校の自由な校風を最も象徴するのが、中学3年の修学旅行だ。コロナ禍でも実施された昨年の秋の修学旅行の行き先は、生徒たちのプレゼンと投票によって関東地方に決まった。箱根や鎌倉では生徒たちがグループごとにコースプランを立てて行動したが、なかには計画を詰め込み過ぎたグループもあったという。

「そんな生徒たちは、決められた時間に間に合わせようと走って帰ってきたり、間に合わない生徒たちからは、『こういう理由で遅れます』とメールが入りました。本校では中学入学時から先生方が折に触れ生徒たちに、自由だからこそ責任があるのだということを問い掛けています。修学旅行での生徒たちの行動を見てみると、自由への責任を果たすことを3年間で学び取っていると感じます」と生田教頭は話す。

生徒の自主性を重んじる校風は、生徒会活動にも表れ、生徒が一人一台持つタブレットの利用制限の緩和や、制服の規制の緩和などを学校側と交渉することも。生徒たちからの要望に、学校側も真摯に向き合い検討。教員たちも自由への責任を生徒たちと共有する姿勢が明確だ。



上/聖アンデレ礼拝堂では、クリスマス礼拝や、同校卒業生たちの「成人祝福式」などを行っている。
左/一昨年、人工芝のグラウンドが完成し、より充実した環境が整った。

右/中2でグループに分かれ旅行プランを企画してプレゼンテーションを行い、生徒たちの投票で行き先が決まる中学の修学旅行。昨年は関東地方に出掛けた。
下右/同校のルートでもあるイギリス・ロンドンを訪ねる海外研修は、高校2年次に全員参加で行われる。
下左/イギリス・ロンドン海外研修で、現地の高校生と交流し、日本文化を伝える。



学校行事で育まれる コミュニケーション力

年間を通して多彩な学校行事が用意されているのも同校の特徴で、入学入学後の「オリエンテーション合宿」に始まり、「サマーキャンプ」や「スキー合宿」などがある。これらはすべて同校が目指す人間力を育むため。生徒たちの自主性はもちろん、互いに協力し、コミュニケーションを取る力などを培っていく。コロナ禍にあってもその思いは変わらず、生徒たちが多彩な体験を重ね成長する機会を積み取りたくないと、学内での取り組みに変更するなど、先生方も工夫を重ねてきた。

昨年は中学2年生が琵琶湖で2泊3日のイングリッシュキャンプを実施。前半はレクリエーション、後半の1日半はネイティブスピーカたちとオールイングリッシュで過ごし、楽しく英語を学んだ。これらの時間は、高校2年次に学年全員で行くイギリス海外研修につながっていく。

「英語の桃山」が誇る 伝統ある英語教育

「英語の桃山」と定評のある同校。ネイティブ教員がクラスの副担任となり、英語の授業を行うのをはじめ、普段から生きた英語に触れる機会をつくっている。

海外ネイティブ講師とのマンツーマンのオンライン英会話はもちろん、自分の英語力に応じたさまざまな種類の英語書物を読む多読多聴に取り



冷暖房完備の8階建ての校舎。

組み、リーディング力とリスニング力を高めていく。中学3年次で英検準2級取得が目標。それ以上の級取得を目指す生徒には、放課後に外部講師による英検取得講座も開講している(有料)。

その英語力をさらに高める国際教育プログラムも充実している。中学ではニュージーランド短期海外研修(希望者)、高校では全員参加のイギリス・ロンドン海外研修をはじめ、マレーシア研修(希望者、1年間の長期留学、校内での国際交流イベントもあり、コロナが収束して再開される日が待たれている)。

手厚いフォローで 学習習慣を身に付ける

学習習慣を身に付け、学力を伸ばすための取り組みも手厚い。読書や早朝テストを行う「朝の学習」、各教科の学習をフォローする「Rゼミ」、夏期講習のほか、特に放課後の使い方が大きなテーマだと生田教頭は言う。

「中学生の学習支援として、外部の講師による『自習ステージ』を行っています。2年前から改革に取り

組み、できる子にはもっとチャレンジさせ、習得できない子をきちんとフォローする体制をさらに発展させていきます」
それが中学生の「満点教室」や「学習支援教室」だ。例えば満点教室は英語と数学の早朝テスト不合格者を集め、放課後に身に付けるまで学習させる教室だが、この講師を3人に増員してフォロー体制を強化。中学生のうちに学習習慣をしっかりと身に付けさせることが目的だ。

また、放課後の新たな取り組みとして、昨年度から部活動終了後に習い事感覚で通える「サッカー教室」「ダンス教室」を校内で実施。今年はこのサッカー教室を希望して入学した生徒もいたという。これも生徒たちのやりたいことを尊重し、自主性を伸ばすための同校のチャレンジのひとつだ。

自主性と責任を持った一人ひとりの人間力が中高一貫の6年間でしっかりと育まれ、目標に向かって自由に羽ばたく生徒たちの未来を照らしている。

School Data

〒545-0011
大阪府大阪市阿倍野区昭和町3-1-64
☎06-6621-1181
<https://www.momoyamagakuin-h.ed.jp/>

- 創立 1884年
- 交通 ●大阪メトロ御堂筋線「昭和町」駅から徒歩約5分
- 大阪メトロ谷町線「文の里」駅から徒歩約8分
- JR阪和線「南田辺」駅から徒歩約10分

コアネットの目

生徒の自主性を伸ばす自由な校風と多彩な教育が、進学実績に結実 ▶ キリスト教の理念のもと、伝統の自由な校風の中で一人ひとりの可能性を拓く多彩な教育プログラムが開発・実践され、その進化はとどまることがない。行事、伝統の英語教育、国際教育の充実ぶりとともに、学習フォローの手厚さにも注目したい。



プレジデントファミリー特別企画
プレジデントムック「中学受験大百科」特別付録

注目の私立中高一貫校 この学校の**ここ**がスゴイ! 2022年

編集：プレジデント社メディア事業本部 赤池淳一

制作：編集室りっか

デザイン：太田デザイン事務所

取材：小河砂綾、腰本文子、高橋盛男、中田ひとみ、町田佳子

撮影：柏原真己、合田慎二、鶴田孝介、原田圭介

イラスト：平田利之

協力：コアネット教育総合研究所、日能研関西

©プレジデント社

2022 Printed in Japan

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

発行所：株式会社プレジデント社

〒102-8641

東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー

印刷・製本：大日本印刷株式会社

※2022年度の海外留学、海外プログラム等は、新型コロナウイルスの影響で
変更される場合があります。詳しくは各学校へお問い合わせください。





注目の
私立中高一貫校
2022年

